

夢の実現のために

—進学指導実践ガイドブック—



平成20年3月

山口県教育委員会

平成18年12月の教育基本法改正に続き、教育関連三法が改正されるなど、これまでの教育が問い直されています。こうした、教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、本県の子どもたちが、将来の夢を育み、それを実現する力を身に付けていくためには、新たな教育理念や教育制度の下、本県の教育風土ともいべき、子どもたち一人ひとりの個性や能力を大切に育てていく、きめ細かな教育を着実に進めていくことが重要であると考えています。

本県教育委員会では、「山口県教育ビジョン」推進の中期目標として「一人ひとりの夢の実現」を掲げ、その実行計画である「重点プロジェクト推進計画」の一つとして「確かな学力向上プロジェクト」に取り組んでいます。この中で、高等学校における学力の向上を目指して推進しているのが、「進学チャレンジ拠点校支援」です。

この取組は、高等学校及び中等教育学校の生徒一人ひとりの学力を向上させることによって、将来の夢や目標に応じた進学の希望を実現するため、進学に関する意欲ある取組を行う学校を「進学チャレンジ拠点校」に指定し、学校が実施する取組や生徒の学習を支援するとともに、その成果を県内すべての高等学校及び中等教育学校に普及することを目的としています。平成16年度に12校、平成18年度に新たに3校、計15校を拠点校として指定し、引き続き取組を推進しているところです。

各拠点校においては、生徒の学習を支援する取組、生徒の進路意識を高める取組、教員の進路指導力を高める取組を3本の柱として、創意工夫に満ちた取組が積極的に行われてきました。それぞれの取組は、校外の人材や施設の活用、校内の指導体制の充実が図られたことにより、大きな成果を上げています。また、取組に当たっては、地域内の各学校を対象に含めて実施することで、地域の拠点校として、他校への成果の普及に努めています。

取組開始から4年に当たる本年度は、これまでの進学チャレンジ拠点校支援の課題をまとめ、成果を検証するとともに、その更なる普及を図ることを目的とした「進学サポートプロジェクト推進事業」に取り組んできました。その中で、各拠点校の進路指導主任を中心として「進学サポート研究支援チーム」を編成し、各拠点校における取組内容の研究、成果と課題の検証を行い、特色のある事例や効果の高い事例を抽出するとともに、実践のポイントや成果、課題等を分かりやすくまとめ、進学指導実践ガイドブックとして編集しました。

各学校において、本ガイドブックを十分に活用し、高校生一人ひとりが夢を育み、その夢を実現する力を身に付けるための教育活動が、一層充実していくことを期待しています。

平成20年3月

山口県教育委員会
教育長 藤井俊彦

目次

刊行に当たって
目次
本書の構成及び利用方法
進学チャレンジ拠点校支援について

1章 生徒の学習を支援する取組	
1 個別添削指導への橋渡しとしての小論文指導……………	8
（小論文対策講座）	
2 学校行事から受験勉強への切替えを図る……………	14
（センター試験対策講座）	
3 土曜日等の有効活用を図る……………	18
（チャレンジセミナー）	
4 共に学び、受験生活のリズムを作る……………	22
（学習合宿&3年夏季課外）	
5 合同学習合宿で寝食を共にし、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける……………	28
（大津高校との合同学習合宿）	
2章 生徒の進路意識を高める取組	
1 納得のいく進路決定をするために……………	34
（各種進路ガイダンスをとおして）	
2 自分の進むべき道を考え、自己の目標を設定する……………	38
（キャリアセミナー(職業研究)）	
3 学部・学科について知り、進むべき道を考える……………	44
（卒業生を囲む会）	
4 学問観を育み、目的意識を明確にする……………	52
（出前講座）	
5 高大連携「英語ゼミナール」への参加……………	58
（大学での集中講義受講）	
3章 教員の進路指導力を高める取組	
1 カウンセリングの技術を向上させ、生徒の夢を実現する……………	64
（キャリア・カウンセリング研修）	
2 コーチングを進路指導に生かす……………	68
（コーチング研修）	
3 教員の小論文の指導力向上をめざして……………	72
（小論文指導研修会）	
4 大学入試問題を研究し、指導力の向上を図る……………	76
（入試問題研究）	
5 指導体制の見直しと教員の意識向上をめざして……………	80
（先進校視察）	

総括

本書の構成及び利用方法

本書は、本県の進学チャレンジ拠点校における取組内容等を掲載し、高等学校等における進学指導の参考となるよう作成したものです。進学チャレンジ拠点校15校から事例を提供していただき、その成果と課題についての研究をまとめるとともに、それぞれの実践の流れを具体的に示すことにより、実際に取り組まれるに当たり、具体的な手順や留意事項が分かりやすく把握できるように努めました。

なお、紙面の制約があることから、各拠点校における取組の一部を紹介しています。巻末の総括の部分に各校の取組をまとめておりますので、詳細については、次ページの進学チャレンジ拠点校一覧を参照され、各学校にお問い合わせいただくようお願いいたします。

進学チャレンジ拠点校支援について

1 趣旨

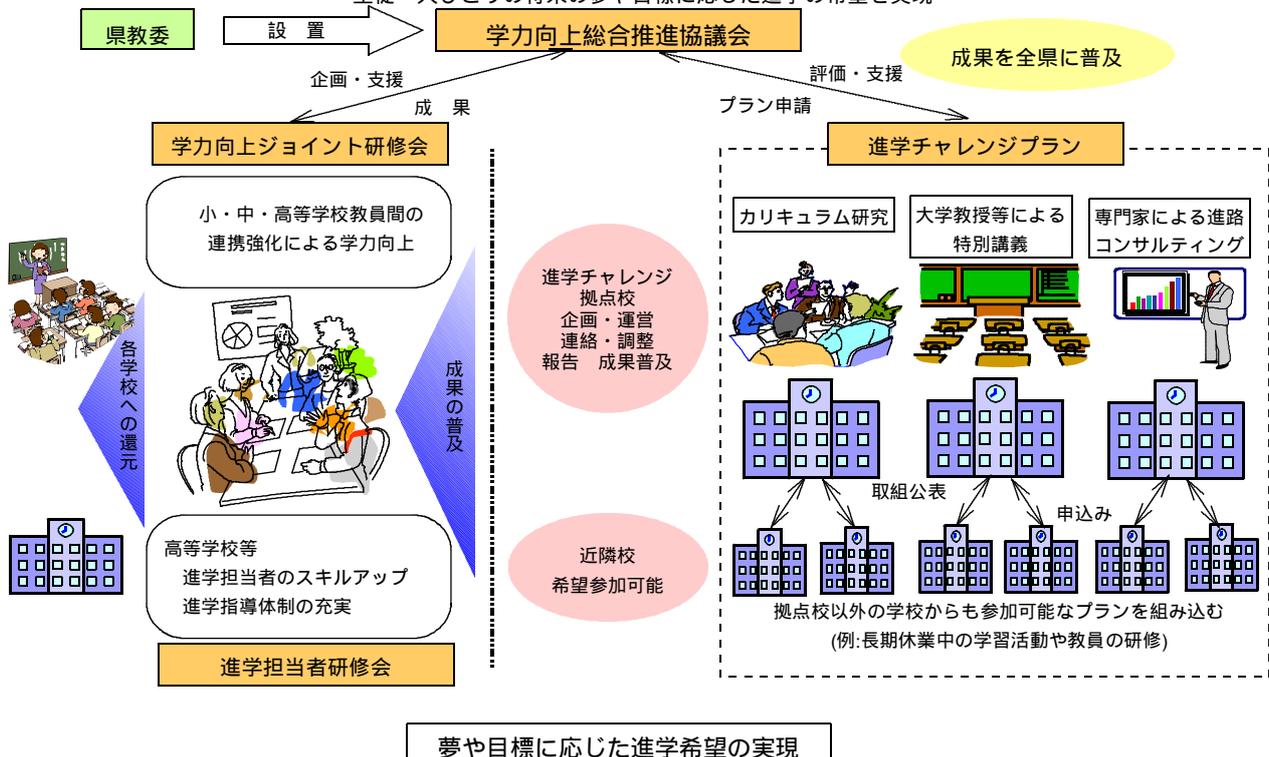
高等学校及び中等教育学校の生徒一人ひとりの将来の夢や目標に応じた進学の希望を実現するため、進学指導に係る教員のスキルアップを図るとともに、進学に関する意欲ある取組を行う学校を、「進学チャレンジ拠点校」に指定し、学校が実施する取組や意欲ある生徒の学習を支援する。また、その成果を、県内すべての高等学校及び中等教育学校に普及する。

2 内容

- (1) 学校が、カリキュラム研究や指導方法改善への取組を「進学チャレンジプラン」として提案する。
- (2) 学力向上総合推進協議会において、進学チャレンジプランを審査する。
- (3) 拠点校は進学チャレンジプランに沿った取組内容を公表し、他校からの参加が可能な取組を地区別校長会等で周知する。
- (4) 取組の成果を、Web ページや地区別校長会等を活用しながら、県内すべての高等学校及び中等教育学校に普及する。

進学チャレンジ拠点校支援イメージ図

～生徒一人ひとりの将来の夢や目標に応じた進学の希望を実現～



3 進学チャレンジ拠点校

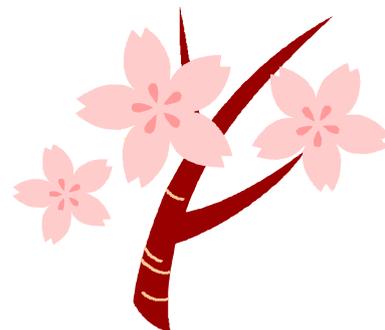


学校名	目 標	U R L
		電話番号
岩国高校	生徒が、自ら学ぶ力を高め、将来の生き方を考え、適切な進路の選択決定を主体的に行えるような支援の充実を図る。	http://www.iwakuni-h.ysn21.jp/ (0827)43 - 1141
高森高校	生徒が将来の「夢」を見つけ、積極的に「夢」にチャレンジしていくための組織的な支援の充実を図る。	http://www.takamori-h.ysn21.jp/ (0827)82 - 3234
柳井高校	生徒の主体的な進路選択とそのための課題の自覚を促し、能力の伸長を助けるため、意識啓発や進路学習の手だてを充実させるとともに、教員の学習指導・進路指導のスキルアップをめざす。	http://www.yanai-h.ysn21.jp/ (0820)22 - 2721
光高校	生徒一人ひとりが自らの興味・関心や適性を見つけ、将来の夢や目標をかなえられる光高校独自の進学ガイダンスプランについて研究する。	http://www.hikari-h.ysn21.jp/kyouiku/ (0833)72 - 0340
徳山高校	進学指導や教科指導に係る教員の指導力の一層の向上を図るとともに、生徒の自己学習力の涵養(かんよう)・学力向上・進路希望の実現をねらいとし、組織的かつ効果的な指導方法や指導体制の確立に向けて研究を深める。	http://www.tokuyama-h.ysn21.jp/kyouiku/ (0834)21 - 0099
新南陽高校	生徒が自ら人生を構築するために必要な能力、態度を身に付け、「生徒一人ひとりが納得のいく現役合格」ができることをめざす組織的な指導・援助を充実させる。	http://www.sinnanyo-h.ysn21.jp/ (0834)63 - 5555

学校名	目 標	U R L
		電話番号
防府高校	自分の進路(将来)を考察することにより、「自ら考え、自ら学ぶ」生徒を育成する。	http://www.hofu-h.ysn21.jp/kyouiku/ (0835)22-0136
山口高校	総合的な理解力、発想力、表現力等を段階的に育て、幅広い学力と専門に関する意欲・適性をもった生徒の育成を図る。	http://www.yamaguchi-h.ysn21.jp/ (083)922-8511
宇部高校	「三年間の進学ストーリー」により、生徒、教員、保護者の共通理解のもと、三位一体となった進路指導を推進し、生徒一人ひとりの進学希望の実現をめざすとともに、拠点校としての情報等の発信を行う。	http://www.ube-h.ysn21.jp/ (0836)31-1055
豊浦高校	生徒一人ひとりが将来の夢の実現に向かって目的意識をもち、教育目標である文武両道に努め、生き生きとした学校生活を過ごし、それぞれが希望する進路へと進めるよう支援する。	http://www.toyora-h.ysn21.jp/ (0832)45-2161
下関西高校	「生徒の主体的な進路決定」及び「進路希望実現に向けての学力の定着」に対する組織的な支援の充実を図る。	http://www.shimonishi-h.ysn21.jp/kyouiku/ (0832)22-0892
萩高校	自学自習力の育成を図り、生徒一人ひとりの夢を実現する。	http://www.hagi-h.ysn21.jp/ (0838)22-0076
下松高校	生徒の進路意識の向上を図る取組を充実させるとともに、進路指導体制の見直し及び充実を図り、学校全体の進路指導力の向上に取り組む。	http://www.kudamatsu-h.ysn21.jp/kyouiku/ (0833)41-0157
小野田高校	進路指導体制の見直しを行うとともに、生徒が自らの在り方生き方を踏まえ、将来を見ずえた上で、学習意欲を向上させ、自主的・自立的な学習ができるよう支援する方策を確立する。	http://www.onoda-h.ysn21.jp/ (0836)83-2373
下関南高校	学力向上フロンティアハイスクール事業の研究主題である「進路意識の高揚と学習意欲の向上」の取組を継承発展させるとともに、課題である「受験に対応できる学力の養成」に向けた指導の改善に努める。	http://www.minami-h.ysn21.jp/ (0832)22-4039

1章 生徒の学習を支援する取組

- 1 個別添削指導への橋渡しとしての小論文指導
- 2 学校行事から受験勉強への切替えを図る
- 3 土曜日等の有効活用を図る
- 4 共に学び、受験生活のリズムを作る
- 5 合同学習合宿で寝食を共にし、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける



個別添削指導への橋渡しとしての小論文指導

(「小論文対策講座」:光高校)

概要

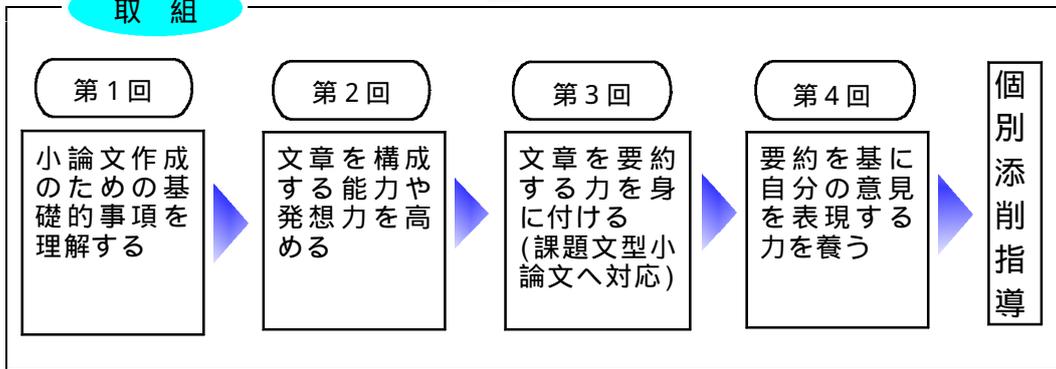
現状

文章の構成力・表現力（小論文の基礎力）の未習熟
 小論文入試に対する意識の低さ
 論理的思考力の未成熟

めざす姿

専門分野に対して興味をもち、深く思考できる
 自分の意見を論理的に表現する力を身に付ける
 入試小論文に的確に対応できる

取組



目的及び概要

目的

小論文を課す大学を受験する生徒に対する個別添削指導を円滑に進めるために、小論文の書き方の基礎について全体指導をする。

実施時期、実施時間

9月から10月初旬までの休業日のうちの4日間に、各回午前中2時間程度で講義・演習を実施する。

実施場所

光井公民館（H16年度）
 本校光潮会館（H17、H18年度）

対象生徒

3年生希望者70人程度（後の小論文個別添削指導希望者は原則全員参加）

実施形態

国語科教員と3学年担任が1回につきそれぞれ1人ずつ、チーム・ティーチング形式で2時間程度、講義と演習を行う。各回課題を与え、その後提出されたものを個別添削して返却した。H17、H18年度は市内の他校からも受講生を募集し、数名が参加した。

第1回小論文対策講座 - 基礎 -

本時のねらい

小論文指導を始めるに当たり、準備として、原稿用紙の使い方等を資料を用いて確認させる。

大学入試等で出題される小論文への対策として、何が求められているのか(何を書くのか)を理解させ、過去に出題された基本的な問題に対して自分がどのように考えているかを確認させる。

具体的な指導内容

原稿用紙の使い方についてプリントを配布して説明する。(10分)

小論文で何が求められるのか(何を書くのか)を、過去に大学入試で出題された小論文の設問を紹介しながら説明。(10分)

用意した例題を配布して、「問題点の分析」「設問で求められているもの」「どのように考えるか」について、ヒントに基づきメモをさせる。(20分)

メモに基づいて400字で問題を解かせる。ただし、これは完成させなくてもよい。(25分)

系統の違う例題を配布し、ポイントに従ってメモをさせる。その際、身の回りの観察を中心とする。(20分)

本時で指導した要点をまとめ、メモに基づいて1時間以内800字という制限で小論文を書かせ、提出させる。添削の上、後日返却する。(60分)

生徒の反応

原稿用紙等の使い方については自信のない生徒も多少いたが、不安は解消されたようである。

小論文で何を書けばよいのかという点について納得はできたものの、深く思考する習慣がないためか、例題には苦心している様子であった。

身の回りのものを観察することについては、丁寧に行える生徒が多かったものの、自分の考えを適切に主張することについて思考が浅く、多くの生徒が同じような主張に終わっているという感がある。

課題点

テーマに従って思考を深めるという訓練が必要である。そのためには、今後は個別の添削指導や対話による指導が必要であるとともに、生徒一人ひとりに、自分の希望進路に関係する事項に関しての問題意識の醸成が重要であろう。

第2回小論文対策講座 - 主張と素材 -

本時のねらい

「小」がについても「論文」であることを理解させ、「論」の展開のためには妥当性ある「主張」と「素材」が必要であることを理解させる。

それを踏まえ、書く材料をどう収集するかについて説明する中で、実際に小論文を書かせ、個別指導につなげる。

具体的な指導内容

最初に、解答字数200字以内の過去問題を解かせて導入とする。その解説をしながら、論理的な構成「推論・立証 論述・論証 結論・論及」について、具体例で説明する。(15分)

次に、出題意図を読み取り、論点を明らかにし、説得力ある論拠を用意することの大切さについて具体的に説明する。(10分)

さらに、書く材料は自らの日常生活全般にあることとともに、日々の授業がまさに素材の宝庫であることをいくつかの例で伝える。(10分)

そして、具体的な課題(テーマ小論文)を与え、主張と材料に絞って15分程度で実際に書かせてみる。その後、数例を取り上げ解説する。(30分)

最終的に、実際に出題された問題(課題文読解型小論文)を用いて、400字程度の小論文を作成させる。添削の上、後日返却する。(45分)

生徒の反応

小論文作成のベースになるものの一つは、日

常的な問題意識と幅広い基礎知識にあらう。その点で、多くの生徒にとって、まず出題意図を読みとることに苦勞するようである。ただ、論理展開の重要性については、ほとんどの者が認識できたようであり、展開の方法も学校生活での具体例を用いて説明することで理解が深まったようである。添削の際にもその点では手応えが感じられた。



[小論文対策講座講義風景]

課題点

小論文作成に必要とされる問題意識や知識は、一朝一夕に培われるものではない。早い段階からの意識化と体制整備が望まれよう。また、小論文の難易度にも幅があり、生徒個々に即した指導は、個人指導に委ねざるを得ない。その点で、指導者の時間の確保も大きな課題である。



[小論文対策講座受講風景]

第3回小論文対策講座 - 要約と題意の把握 -

本時のねらい

各大学で出題される頻度の高い、課題文読解型の小論文対策として、文章を要約するための技法を身に付けさせる。

同時に、問題と課題文から出題者の意図を汲み取り、題意を把握した小論文を書くための力を身に付ける。

具体的な指導内容

文章要約の必要性、題意を把握することの重要性を説明する。 (10分)

文章を要約するために必要な技法(具体例は削除する・繰り返し出てくる語句や文は一つにまとめるなど)をまとめた資料を配布し、順次説明を加える。 (20分)

例文を用いて、実際に要約する手順を生徒に示しながら実演する。 (30分)

大学の過去問題を用いて、実際に生徒に要約させ、提出させる。 (30分)

添削の上、後日返却する。

生徒の反応

「小論文では何を書いてもよい」と勘違いしている生徒が意外と多い。冒頭で題意を把握することの重要性を説いた際、驚く生徒は少くない。

わざわざ課題文が用意されているにもかかわらず、そこから外れてしまったり、内容が読み取れなかったりすることで、何を書いてよいのか分からなくなったりするために小論文に対して苦手意識をもっていた生徒には、この講座は好評であった。

実際に要約させてみると、きちんと要約のための手順を踏んだためか、想定時間よりも早く仕上げる生徒が多かった。また、内容もほぼ同じものになり、添削が容易になった。

課題点

要約の方法はマニュアル化することができるため、指導が容易であり効果は高いと思う。しかし、小論文において大切なことは、課題文を

要約することではなく、題意を把握した上で、それに対する自分の意見を述べることである。そこへの発展をどのように導いていくかが、小論文指導のカギであろう。



[小論文対策講座受講風景]

第4回小論文対策講座 - 論理的構成法 -

本時のねらい

課題文読解型の小論文対策として、第3回の要約文をもとに、論理的構成法に従い、説得力のある小論文を書く方法を身に付けさせる。

具体的な指導内容

論理的構成法の重要性を説明する。(10分)
論理的構成法のパターン<要約 意見 理由(根拠) 具体例 結論>を説明する。(20分)
「筆者の考え(第3回で要約)に対するあなたの考えを具体例をあげて800字以内で述べよ。」という問いに対し、生徒に構成メモを作成させる。(20分)
生徒に、書くために大切なものを挙げさせる。(10分)
次に、小論文を書かせ、提出させる。後日添削の上、後日返却する。(90分)

生徒の反応

「さあ、書き始めよう。」と指示しても、なかなか書けないので、「書くために何が大切か。」

と問いかけ、作成した構成メモをもとにしたので、全生徒が750字以上書くことができた。

「課題文の筆者の意見と自分の意見を対比させると書きやすい。」「言いたいことを一つに絞る」「日頃から問題意識をもつようにする。」「社会の出来事に関心をもっておくことが必要だ。」など、的を射た意見が出た。

課題点

2時間半で論理的構成法のパターンを身に付けさせ、小論文を完成させるのが第4回のねらいであったので、画一的、一方的になってしまったようである。

第3回、第4回を連日で実施した年は、要約の添削がないままに、小論文を完成させることになり、達成感を削いでしまった。第3回・第4回の内容の定着を図るためには、1か月程度あけて、他の課題文で再度提出させるという方法も考えられる。

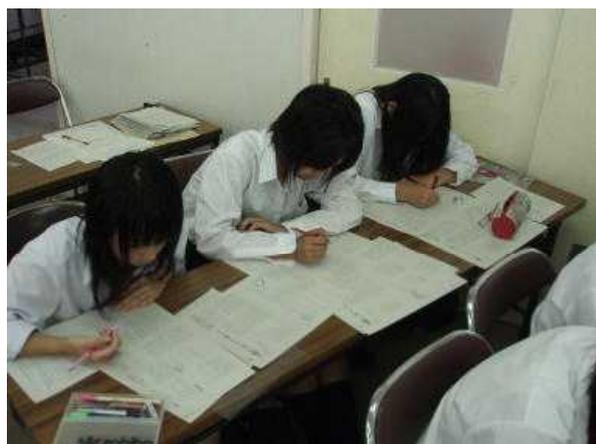
個別添削指導へのつながり

受験小論文の個別添削指導を、国語科の担当ではなく、学校全体の取組と位置付けて実践している学校が多くなった。本校でも数年前からその形で実践している。当初はやはり抵抗があったり、具体的な指導法が分からないとの声が多かった。

そういった中、全教員を対象に「小論文指導研修会」を実施し、内容についてはある程度不安なく指導できる体制を整えた。しかし、基本的な事項(原稿用紙の使い方など)や構成、また、適切な要約の方法といったことに関しては、個別指導に入る前に、国語科が全体指導してほしいという要望が上がったことから始まったのが、この取組である。

小論文に関しては、第1、第2学年からロングホームルームの時間を利用して、全員を対象に正副担任の添削指導や模擬試験を実施している。しかし、小論文が必要な者だけを集めた、これらの短期間の講座は効果的であり、だれが担当してもこの基礎の部分は一応押さえられているとして、

個別指導によりスムーズに取り組むことが可能となった。



[課題の小論文作成風景]

受講生の声

私はこの講座を受けて、小論文に対する見方が大きく変わりました。今まで小論文と言えば、どことなく難しいイメージがあり、受験に必要なとは知りながらも、自分には向いていない、できないものだと思ってきました。元々、作文や文章を書くといったことが苦手な私がこの講座を受けたのも、「まあ、やらないより…」という軽い気持ちで申し込んだのです。

講座は、まず原稿用紙の使い方から始まりました。そんなことから？と思った人もいるかもしれませんが、私もそう思いました。しかし、いかに点を減らさないで済ませるかということが大切な小論文において、原稿用紙の使い方での減点は避けるべきです。また、文章を構成する時も、最初から上手く書こうとしないで、素直に自分の気持ちを書けばいいということでした。そのように講義を受けていく中で私の中での『小論文＝難しい』というイメージは完全になくなっていました。

計4回の講座の中で、私は小論文に役立つ多くのことを学びました。とくに、小論文に必要な理解力や文章力、知識などは1日や2日で習得できるものではないことを痛感しました。そこで、毎日ニュースや新聞などに目を向けることを心がけました。この講座は、それらを学ぶ

ためのきっかけになったと思います。そして、その後の添削指導へと継続していったことで、不安なく受験に臨むことができました。無事合格できた今、つくづく参加して良かったと思っています。（医療系専門学校推薦入試合格者）

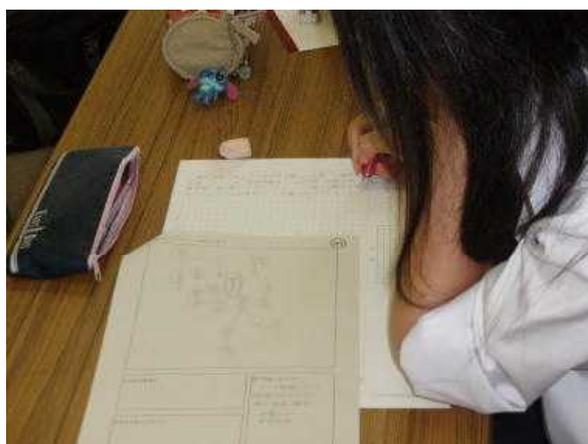
私は小論文対策講座を受けて、小論文の書き方の基本から実践までを丁寧に教わることができ、入試本番で大変役立ったと思っています。

まず最初にこの講座では、原稿用紙の使い方から習いました。小学校で一度は学んだことですが、意外に自信のないところも多くありました。私は文章の内容以外での減点は特に避けるべきだと思うので、改めて改行や段落について確認できてとても良かったと思います。

また、文章を書く前に、大まかな話の流れを書き出してみるという練習もありました。この講座のおかげで、どうすれば話に一貫性をもたせることができるか、さらにどうすれば自分の主張を分かりやすく読み手に伝えることができるかを学べたと思います。

実際に文章を書き始めた時には、与えられた文を理解できるだけの読解力、自分の意見が述べられるだけの知識と文章力が不可欠であると痛感しました。よりよい小論文を書くためには、普段から多くの文章に触れ、物事に興味をもって生活し、小論文を書く練習を積むことが大切だと思いました。

ぜひ後輩にこの講座を受講することを勧めたいと思います。（4年制大学推薦入試合格者）



[本校オリジナル原稿用紙]

他校の取組

高校	学年	時期	内容
岩国	1、3年	9、4月	外部講師講演 講義・演習
徳山			講義・演習
新南陽	3年	6月	外部講師講演 講義・演習
防府	2年	4月	外部講師講演 講義・演習
山口			講義・演習
宇部	3年	12月	外部講師講演 講義・演習
豊浦	2年	11月	外部講師講演 講義・演習
下関西	3年	6月	外部講師講演 講義・演習
下松	1、2年	12月	外部講師講演 講義・演習
小野田			講義・演習

【分析・評価】

対象学年については、AO入試等により、受験の時期が早まっていることを受け、1、2年生とする学校が多くなってきている。また、外部講師による講演・講義に加え、小論文課外授業を実施することで、生徒の小論文学習をより効果的にする取組や、総合的な学習の時間に小論文に取り組み、実力把握のために小論文模試を実施するなど、小論文指導を体系化している取組などは、注目される。

また、各校ともに、生徒向けの小論文指導に合わせ、教員向けの小論文指導研修を実施している。国語科教員による添削指導講習を実施している学校もあり、全教科による協力体制により、小論文指導が進められている。

【ポイント】

成果と課題

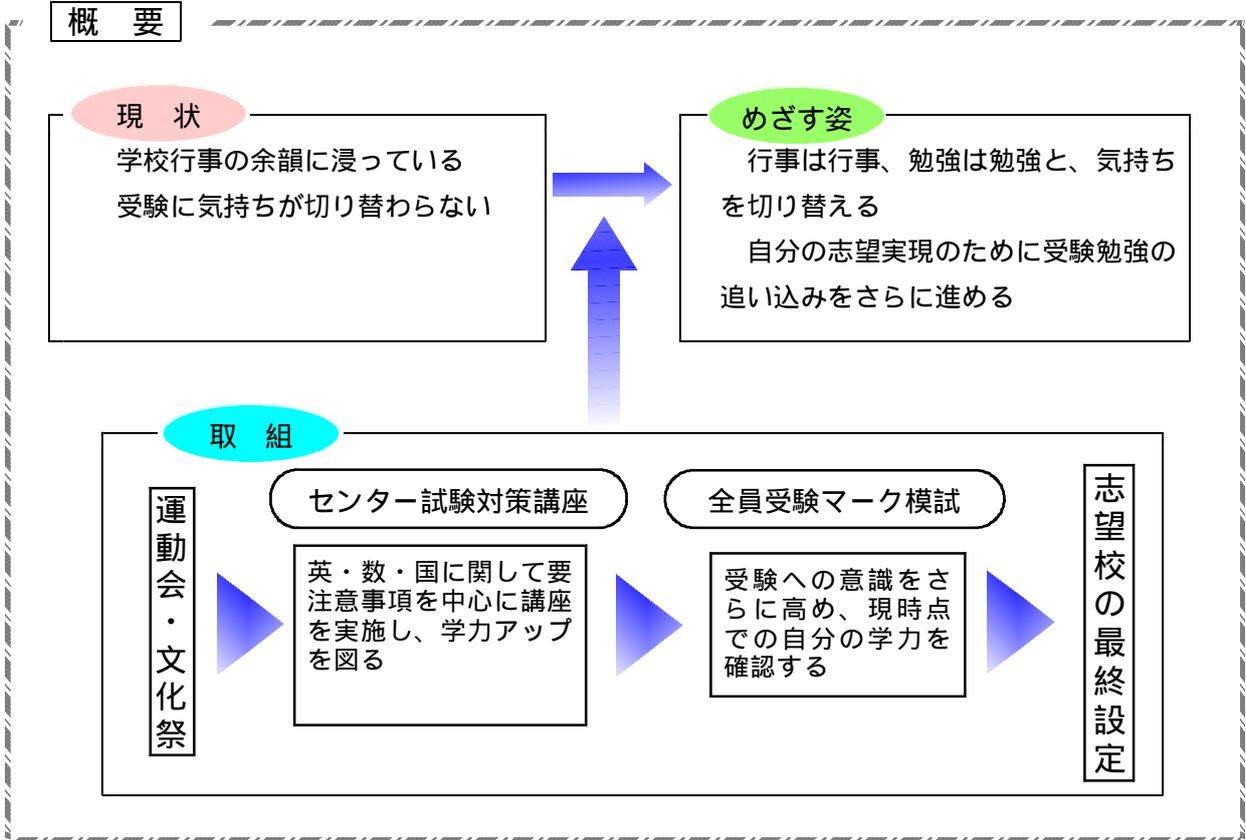
- ・ 各回とも出席率は高く、生徒の要求に十分応えることができたと考える。また、その後の個別指導に入っても、基本的な事項については理解がほぼ十分であることから、スムーズに取り組むことができた。多様化する小論文の出題形式に対応するため、要約や資料提示型の問題にも取り組んだ。
- ・ 他校の生徒も参加することで、お互いに緊張感をもって受講することができたが、事前に受講者数を確認し、便利のいい会場を確保するなど、早期の準備が必要になる。
- ・ 添削については、担当教員が多数を抱える結果となり、負担は大きい。しかし、添削済の課題を素早く返却し、その後の個別添削がスムーズに行われるようにするなど、よりきめ細やかな配慮ができれば、高い効果が期待できる。したがって、課題の添削を分担化し、迅速に対応できる体制を作ることが今後の課題である。

実施上の留意事項

- ・ 休日実施ということで、指導担当をどう決めるか、また、60～70人の参加人数で会場をどこにするか等の配慮が必要になる。ゆったりとした会場で、目の行き届く形で(担当教員の複数配置など)実践できることが望ましい。
- ・ 実際に書かせて指導をすれば、その添削・評価は不可欠である。素早く生徒に還元すること、また、担当者の負担を軽減するための体制を作ることが望まれる。
- ・ 一斉指導なので、受講するすべての生徒の求めるものを提供するのは難しい。しかし、4回の実践内容に計画性や一つの方向性は必要であり、それを担当者間で十分話し合う必要がある。また、可能であれば、進路希望の実態を把握した上で教材を用意することで、生徒の関心・意欲・態度をより向上させることができる。

学校行事から受験勉強への切替えを図る

(「センター試験対策講座」:徳山高校)



実施の背景

本校は伝統的に9月第1週末に運動会、第2週末に文化祭(徳高祭)を実施している。これら2大行事は、特に3年生の企画力・実行力・自主性・責任感・リーダーシップ・協調性等、一般社会で必要とされる能力、また受験等で必要とされる精神力育成の上でも重要であるとの認識で、現在も引き続き実施されている。その一方で、行事準備と勉学の両立に苦労したり、行事終了後に受験に気持ちを切り替えられず、いつまでも中途半端なままの生徒がいることも事実である。また、夏までの学習の成果を試す模擬試験が9月下旬から本格的に始まり、ここでいいスタートを切れるかどうかはその年の受験動向に大きく影響する。

以上の点から、文化祭終了から9月下旬の模擬

試験の間に、生徒、特に3年生が学習意欲を高め、受験へと気持ちを切り替えるきっかけとなる取組の必要性について進路課内で協議した。取組内容については、国公立大入試の第1関門となるセンター試験対策が適切ではないかということで、平成17年度から本講座を始め、平成19年度で3回めの実施となる。

センター試験対策講座の実施概要

【実施時期】

9月中旬(休日)

【対象学年】

講義内容・目的の明確化のために、3年生限定としている。

【当日日程】(平成17年度)

時間割	内容
8:40 ~ 8:50	点呼・諸注意
9:00 ~ 10:30 (90分)	英語 / 数学
10:50 ~ 12:20 (90分)	数学 / 国語
12:20 ~ 12:55	昼休み
13:00 ~ 14:30 (90分)	国語 / 英語
14:30 ~ 14:35	終礼

- * 多目的教室(85人)・普通教室(41人)
- * 平成18年度は受講申込が84人であったので使用教室は多目的教室一室のみ。平成19年度は109人の申込で2教室使用。

【講座成立の基準】

申込が60人を下回る場合は中止としている。また150人を超えた場合は教室収容能力等で実施困難となるため、先着順としている。

- * 申込は3教科セットとし、1又は2教科のみの申込は認めない。

【近隣公立高校への参加呼びかけ】

周南市内の各高校にも先着10人の定員で参加を呼びかけている。初年度は参加がなかったが、平成18年度は2人、19年度は1人、新南陽高校からの参加があった。

【講師】

生徒の気持ちの切替えを図るため、普段の授業とは違った新鮮な感覚での講義となるよう、予備校から教科別に講師の先生を招き、予備校独自の教材での授業を依頼している。なお、授業実施希望分野や内容については、本校の各教科学年担当の先生方に意見を聞き、それに沿ったものを実施するよう事前に依頼する。

【授業内容】

国語：現代文

数学：数学 B

英語：文整序、語整序

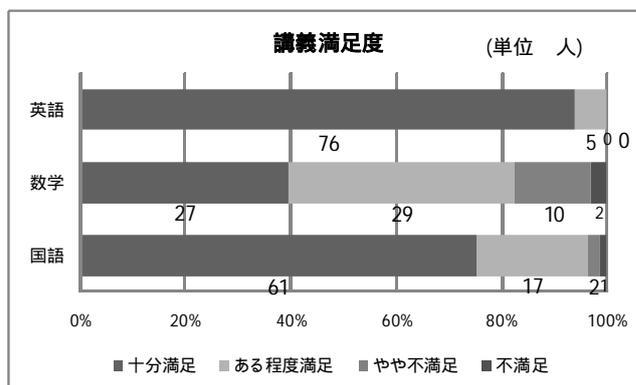
- * 予習不要、20～30分が生徒各自解答、60～70分が講師解説を基本とした。
- * 教員も参観可能としている。

実施までの流れ

- 5月下旬まで
実施に関する予備校との大まかな打合せ
(時間割、授業内容、日時等)
- 6月初旬
生徒の参加申込受付
- 6月下旬
他校からの参加申込受付
- 7月上旬
予備校へ参加希望者を連絡・講座数確定
- 9月上旬までに
 - ・ 各教室担当教員のお願い
 - ・ 他校からの参加生徒に詳細な要項を送付
当日
上記時間割のとおり実施。講師接待は進路主任が担当し、各教室にも別に担当教員を配置する。
- * 終礼時にアンケートを実施し、後日分析。

アンケート結果(平成18年度)から

【講義内容の満足度・理解度】

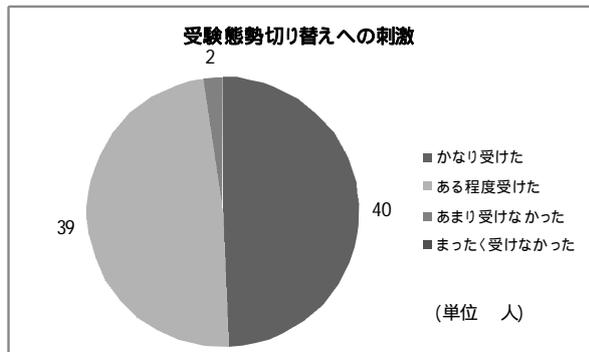
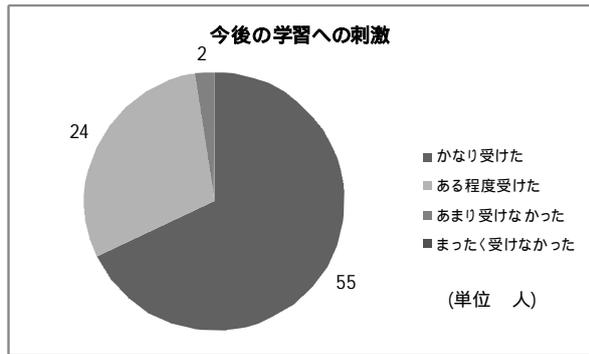


上のグラフのとおり、講義に対して3教科とも8割以上の生徒が「満足」と回答した。また理解度についても3教科中2教科でほぼ全員(98.7%)の生徒が「理解できた」と回答し、講座内容は概ね好評であったように思われる。

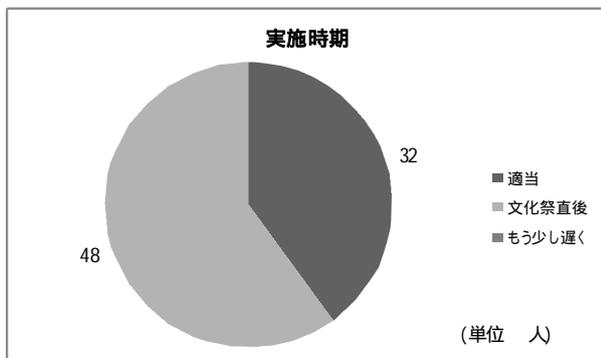
【今後への刺激】

講座実施の大きな目的である「今後の学習意欲への刺激」「受験態勢への切替え」についても、次

のグラフのとおり「受けた」と回答した生徒がともに97.5%とほぼ全員であった。

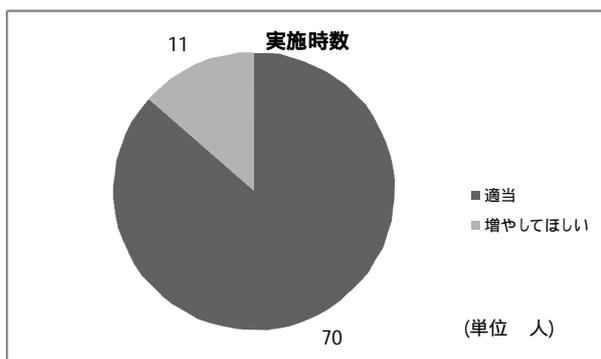


【実施時期について】



この結果から、生徒は切替えへの明確なきっかけとなるものを何らかの形で、少しでも早く欲していることがうかがえる。この結果を受け、受験切替えという目的をより明確にするために、前述のとおり平成19年度は実施時期を1週間早めた。

【実施時数について】



ほとんどの者が「適当」と回答したが、その一方、実施講座の増加を望む声も13.6%あった。

【生徒の感想から】

- ・ 非常に役立った。分かりやすい。またやって欲しい。(多数)
- ・ 個人的な質問の時間を設けて欲しい。
- ・ 大教室では黒板が少し見えづかった。
- ・ 2次対策・他教科もやって欲しい。

他校の取組

【高森高校】

実施日

平成18年度 8月9日(水)～11日(金)

目的

夏季休業中にセンター試験に向けて実践的学力の向上をめざすとともに、2年生においても早期受験態勢への意識付けをめざす。

形式

国語と数学は当校教員により、英語は予備校講師を招き、90分×各教科3回の特別授業を実施。

参加者

平成18年度：2年生7人、3年生16人

平成19年度：2年生18人、3年生3人

* 2、3年生同時受講

分析・評価

- ・ 2年生が3年生と同じ問題に取り組むにはまだ準備不足であることは否めないが、2年生も進路に対する意識が高く、アンケートでも「センター試験は難しいということが改めて分かった」といった感想が寄せられ、早期受験態勢への意識付けをめざすという目標は達成された。
- ・ 「このセミナーを受講して知識が深まり今後の学習に生かせると思うか」という問いに対して約8割の生徒が「そう思う」と回答するなど、参加者には概ね好評であった。

【光高校】

実施日

夏季休業前

目的

センター試験のレベルや出題傾向を早期に知り、夏季休業中学習の動機付けとすることをめざし、さらに2年生においても早期受験態勢への意識付けをめざす。

形式

英・数・国とも予備校講師を招き、各90分の講座を実施

実施場所

校外宿泊施設

参加者

3年生68人、2年生1人

聖光高校1人、光丘高校10人

分析・評価

- ・ センタ - 試験用の考え方や解き方の理解につながった。
- ・ 受験への意識・夏休みの過ごし方等、勉学に対する意欲の向上と動機付けにつながった。

【ポイント】

成果と課題

- ・ 受講後の感想から、受験への意識付け等において、生徒にとって有益な講座になったことがうかがえる。また、本校の場合は、講座実施前に各SHRで事前の連絡をするため、受講を希望していなくても連絡を聞くだけで「ああ、自分もやらない」という刺激になったようである。
- ・ 外部講師を招くか、当校教員が講師をするかについては、さまざまな考え方があると思われる。期間限定で普段とは異なる環境で講座を実施することは、生徒が新鮮さを感じ、意欲的に臨むことができるという面もあり、これについては各校の実情に合わせての判断ということになるだろう。
- ・ 講座数・実施日数や対象学年については、本校では今のところ現在の実施方法が最適であると考えているが、「講座を増やして欲しい」と回答した生徒が11人いたことも考慮し、今後実施するアンケート結果も踏まえて柔軟に対応していきたい。
- ・ 参加人数の関係で、大教室と普通教室2室での講座になる場合があるが、特に後ろの席になった者の中に、黒板が見えにくいという指摘があったこと等を考えると、物理的な面について、今後留意の必要がある。

実施上の留意事項

明確な目標と学校の実情に合わせた実施時期・対象学年の設定

センター試験対策は、目標として設定しやすいため、本校のように受験勉強への意識の切替え等の目的を明確にし、それに合わせて実施時期を設定することが大切である。また第3学年限定にするか2学年同時にするか、1日だけの実施か複数日での実施かについても、学校の実情・目標に合わせて設定すべきである。

早期の事前打合せ（外部講師を招く場合）

学校外から講師を招く際は、入念な打合せが必要である。実施時期・時間割・実施内容等に限らず、実施に向けて必要と思われることは、労を惜しまず細かく確認する必要がある。さらに、申込生徒数、変更を要する項目などについても随時連絡を取り合うようにすると、お互いの行き違いが食い止められる。

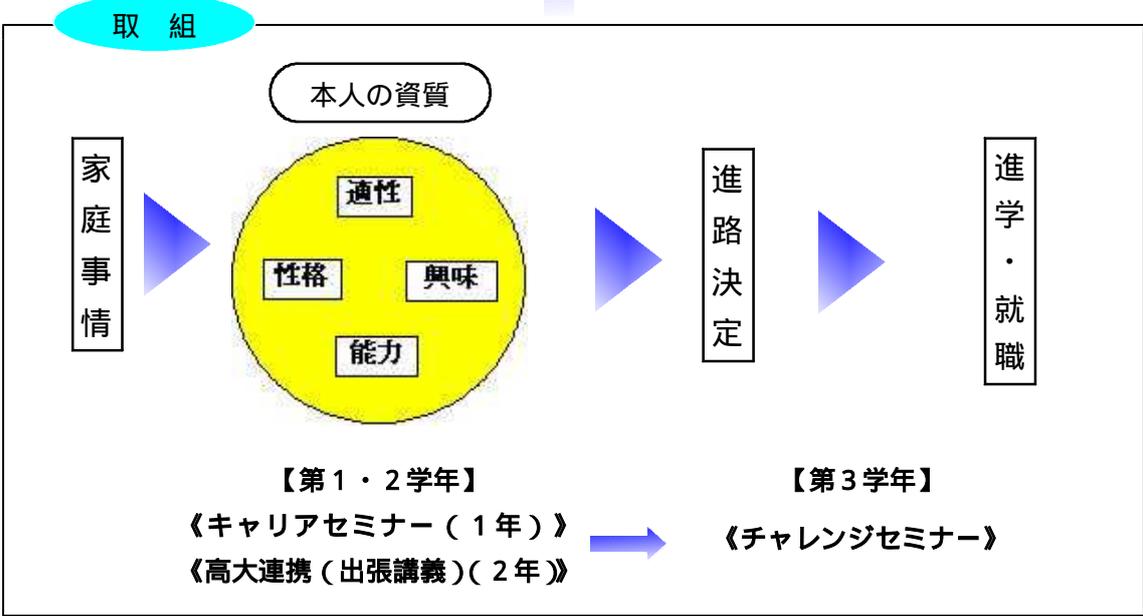
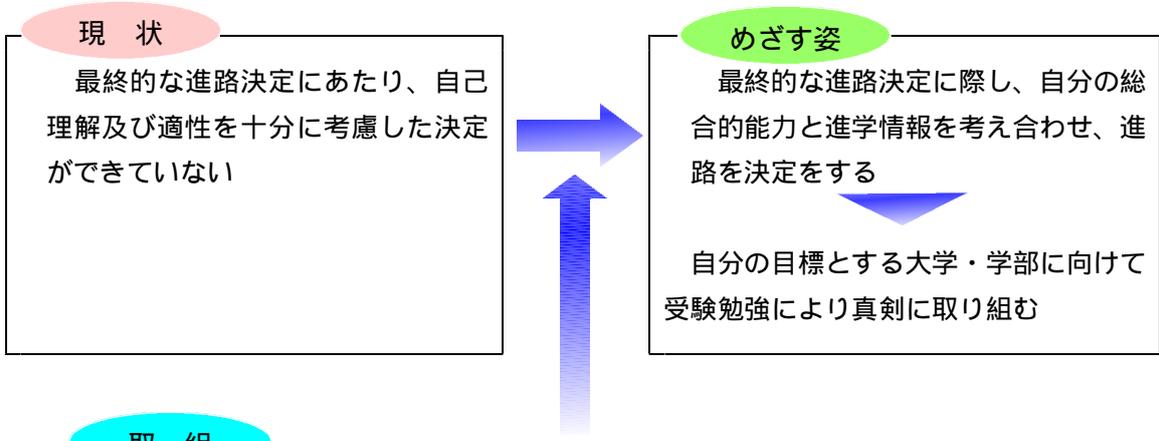
また、外部講師の人数や使用可能教室を考慮し、講座開講可能人数枠をあらかじめ設定しておくことが望ましい。

募集時期・方法

募集は余裕をもって早めに行うべきである。さらに、この講座は休日や長期休業中に実施されることから、募集の段階で、具体的時間割、開講の条件、講座の大まかな内容、部分的参加を認めない（又は認める）、直前申込を認めない、キャンセルを認めないなど、なるべく詳細に示した方がよい。

土曜日等の有効活用を図る (「チャレンジセミナー」:豊浦高校)

概要



チャレンジセミナーの実施について

本校では、進学チャレンジ推進委員会を設立し、その中で、一人ひとりの将来の夢や目標に応じた進学の希望を実現するために、学習支援の充実を図る事業の立案・実施について検討・協議を行っている。その中で、土曜日等の有効活用を図るとともに対象学年の基礎学力の向上、学習習慣の確立を図ることを目的とし、外部講師による講座「チ

ャレンジセミナー」の実施を計画した。
平成16年度から実施しているが、進学チャレンジ拠点校支援の初年度ということもあり、対象学年を1学年とした。しかし、次年度からは進学指導全体を検討した結果、上図に示したように3学年で実施し、受験指導の一環として取り組むことがより適切であると判断した。
また、チャレンジセミナーの授業参観や講師との協議などを通じて本校教員の教科指導力を向上を図ることも目的とした。

チャレンジセミナーの実施に当たって

準備

進学チャレンジ推進委員会で依頼する講師を検討し、管理職から打診した。また、開設する講座についても該当学年の生徒や担当学年団の教員からアンケートをとり、実施希望が多いもので可能なものを選んだ。さらに、生徒に参加予備調査を行い、その結果をもとに講師の依頼先に実施可能かどうか交渉を行った。

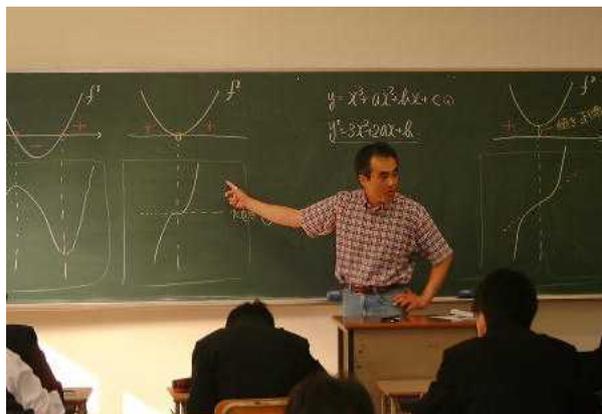
なお、講座開設希望の教科・科目については、教科会議で講義希望内容について検討し、その内容も依頼希望先に一緒に伝えた。

実施方法及び内容

交渉の結果、2～3講座を開設した。

各講義の内容は、その都度、教科担当教諭から意見要望を聞き、講師と調整しながら進めていった。主には、受験勉強の取組方法から大学入試に向けた様々な情報を交えた内容となるよう考慮した。

また、市内の高校教員にも開放し参加を呼びかけた。



[平成18年度 数学講座の様子]



[平成18年度 英語講座の様子]



[平成18年度 小論文講座の様子]

チャレンジセミナーの実際

【平成18年度】(対象学年：第3学年)

実施時期及び実施回数

8月26日～10月29日のうち実施可能な土曜日と一部日曜日で各8回実施

開講講座と実施時間

- | | |
|-------|--------------------|
| ・英語文系 | } (60分) 8:30～9:30 |
| ・数学理系 | |
| ・数学文系 | } (60分) 9:50～10:50 |
| ・英語理系 | |
| ・小論文 | (60分) 11:10～12:10 |

参加人数

英語115人(文系67人、理系48人)

数学100人(文系51人、理系49人)

市内の高校教員の参加人数

19人

チャレンジセミナー実施後

以下に示したのは平成18年度のアンケートである。年度により実施した講座が違うが、質問項目はすべて同じである。

平成18年度 チャレンジセミナーアンケート
 平成18年10月29日
 今年度実施しました、英語、数学、小論文のチャレンジセミナーについて今後の参考に
 しますので、下記のアンケートに答えてください。

3年 組 番 名前

1 英語 (該当するところに○印を付けてください)

英語	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	
番号	質問項目	A	B	C	D
1	自分の学びたい内容が勉強できましたか。				
2	工夫された授業が行われていましたか。				
3	授業の説明は、丁寧に理解しやすかったですか。				
4	先生の説明の声は、十分聞こえましたか。				
5	学習した内容は、今後の勉強に役立つ内容でしたか。				
感想等					

2 数学 (該当するところに○印を付けてください)

数学	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	
番号	質問項目	A	B	C	D
1	自分の学びたい内容が勉強できましたか。				
2	工夫された授業が行われていましたか。				
3	授業の説明は、丁寧に理解しやすかったですか。				
4	先生の説明の声は、十分聞こえましたか。				
5	学習した内容は、今後の勉強に役立つ内容でしたか。				
感想等					

3 小論文 (該当するところに○印を付けてください)

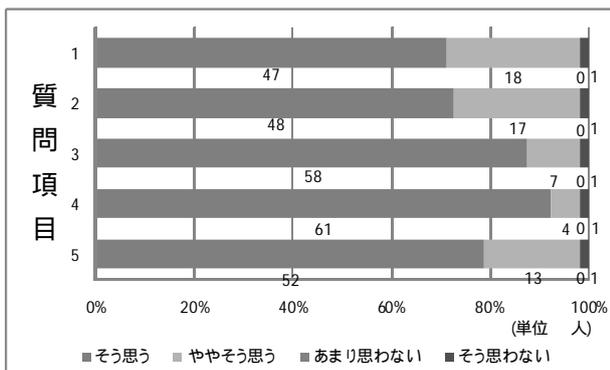
小論文	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	
番号	質問項目	A	B	C	D
1	自分の学びたい内容が勉強できましたか。				
2	工夫された授業が行われていましたか。				
3	授業の説明は、丁寧に理解しやすかったですか。				
4	先生の説明の声は、十分聞こえましたか。				
5	学習した内容は、今後の勉強に役立つ内容でしたか。				
感想等					

御協力ありがとうございました。皆さんのこれからの頑張りを期待しています。

アンケート結果は、今まで開講した講座でほぼ同じで、生徒には大変好評であった。生徒は熱心に取り組み、出席率も高かった。

以下に、平成18年度のアンケート結果を挙げる。なお、グラフにおける縦軸の1～5は、質問項目の番号を示している。グラフ中の数値は実際の人数である。

《英語講座》



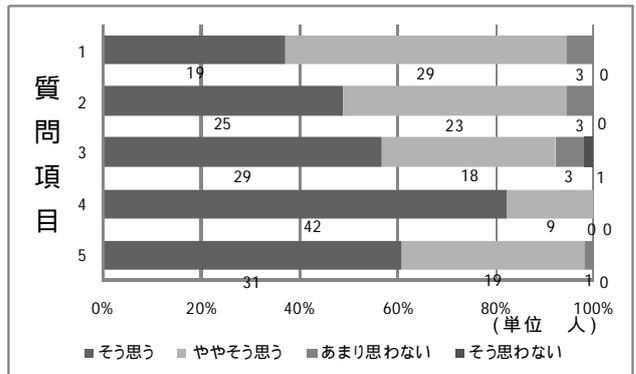
感想

- これまで知らなかった英文を解くコツが習

得できた。

- 60分間で、丁寧に分かり易い授業が受けられてよかった。
- 通常では分かりづらい長文のコツが分かり、受講する価値があった。
- すごく充実した授業内容で、とても勉強しやすかった。
- 英文のどこに注意して読めばいいかがよく分かった。

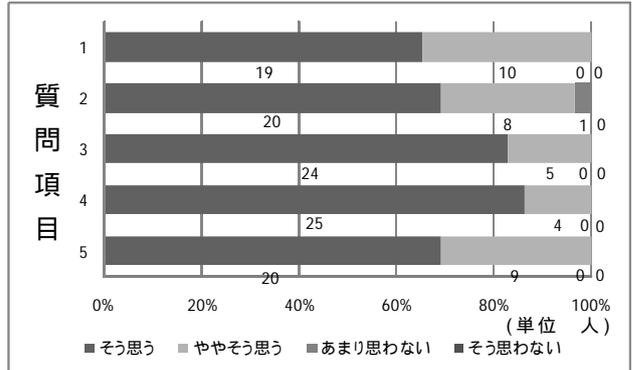
《数学講座》



感想

- 公式の理解などが分かりやすかった。
- 進むペースをもう少し上げてよかった。
- 非常に分かりやすかった。ベクトルと数列をもっとやってほしかった。
- 私には問題のレベルが高すぎた。
- 今まで分からなかったところが理解できるようになった。
- 学校では聞けないことも聞いて良かった。
- センター問題の解法のテクニックが少し分かった。

《小論文講座》



感想

- 小論文の書き方のコツやポイントを学ぶこ

とができた。非常に有益なものだった。

- ・ 小論文の構造よりも、世の中の知識が沢山得られた方が大きかった。
- ・ 小論文を書く視点が分かったような気がする。

第1・2学年対象（希望者）、10月～2月で8回程度、英語・数学・国語で1講座60分で実施。

【下関西高校・土曜日講座】

英語・数学を中心に1講座90分で実施。

他校の取組例

【下関南高校・土曜日課外】

必要に応じて第3学年を対象に実施。

【宇部高校・土曜課外】

【ポイント】

事前の準備と指導

本校の進路指導の流れは、18ページ「概要」にも図示したとおり、以下のように進めている。

【1学年】「自己理解」ということで、進学チャレンジ拠点校支援の取組としてキャリアセミナー等を実施し、自分の理想とする生き方や、漠然とした将来の方向・職業について考える。

【2学年】「自己適性の検討」ということで、高大連携や勉強合宿等を実施し、自己の興味・適性・能力を客観的につかみ、さらに伸ばす。

【3学年】「最終進路的決定」で、チャレンジセミナー等を実施し、自分の総合的能力と進学情報を考え合わせた上、進路を決定をする。

このような進路指導の流れの中で、チャレンジセミナーの実施に当たって該当学年の教員と生徒の学力を分析し、強化すべき分野を検討しておく必要がある。また、生徒自身にもアンケートや予備調査等で実施希望の教科・科目について考えさせ、チャレンジセミナーの実施に向けての準備をさせておく必要がある。

実施時期

チャレンジセミナーを実施するに当たって、依頼する講師が決まったとしても、実施時期と日程調整に時間がかかる。

本校では、初年度は対象学年を第1学年とし、11月から実施したが、次年度から2年間は対象学年が第3学年で8月後半から実施した。本年度（平成19年度）は、より一層効果を上げるために、実施開始時期を6月にした。講座の実施可能な回数（10回程度）、学校行事、インターハイ予選等の部活動の対外試合のスケジュール等を考慮に入れると、第3学年ではこの時期からの実施が最良であると言える。

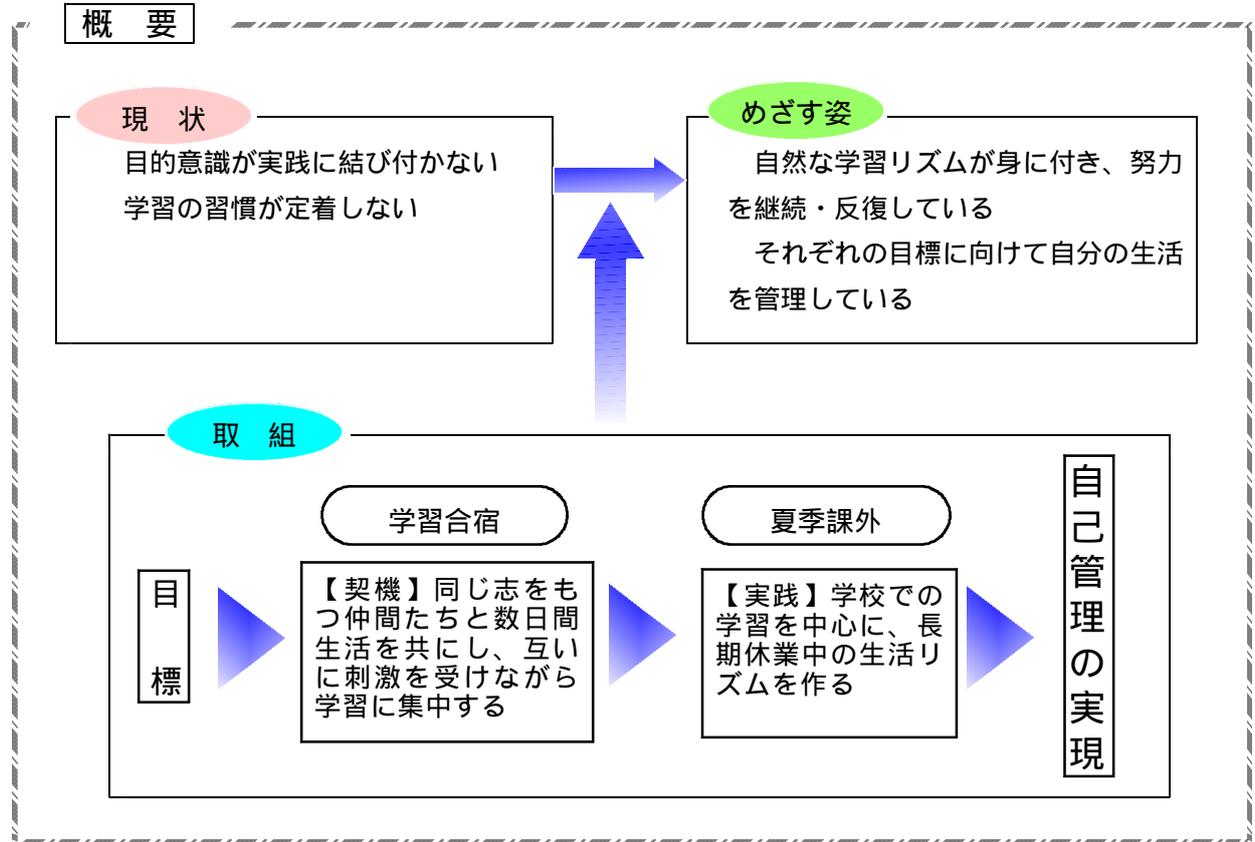
また、講師の依頼については、極力早いほうがよい。講師の選定、さらにその後の日程調整などを考えると6月から実施する場合、4月の初めには講師の依頼先と交渉を始めておく必要がある。

事後指導と発展

第3学年が部活を引退し、一日でも早く受験体制に入る手助けとして、チャレンジセミナー実施の効果は大変大きいと言える。特に、推薦・AO入試等の受験を希望している生徒の小論文講座に対する期待も大きく、その成果も大きかった。また、開始時期を6月にしたことで、第3学年の7月の三者面談においても、進路決定への第1段階として大きな波及効果があった。

チャレンジセミナーの授業参観や講師との協議、さらに配布された教材などを通じて本校教員の教科指導はもとより、今後の小論文指導等大変参考となった。

共に学び、受験生活のリズムを作る (「学習合宿 & 3年夏季課外」:山口高校)



生徒一人ひとりの進路目標に向けた学習実践の契機として、「学習合宿」を実施する

大学への進学意識は強くても、自己の目標がなかなか日々の学習実践に結び付かず、中だるみになりがちな2年生に刺激を与えたいと学年から要望があり、平成15年度から学年が計画・立案、進路部が協力する形で実施している。内容は当初の自学自習・質問中心型から、現在は講義と自学の選択型に変化し、平成19年度については、3年生を対象に夏季休業中も3泊4日で実施した。

【目的】

受験学年を目前にした2学年の冬季休業を利用し、生徒同士が連帯感と競争意識をもつことのできる集団合宿という形式で、生徒一人ひと

りの学習意欲と学力の向上を図る。

1日10時間の学習体験とその達成感を通して、継続的な学習への契機とする。

自学自習と教員の指導により、不得意科目の克服と得意科目の伸長をめざす。

【実施時期・費用】

冬季休業中に2泊3日で実施（平成18年度は12月25日～12月27日）

初日9時30分～3日目16時まで

費用 6,500円

【実施場所等】

山口県セミナーパーク研修棟、宿泊棟

集合時、解散後の交通手段は各自

服装は自由、宿泊室は飲食禁止、消灯23時

【参加人数】

平成18年度 108人(男53 女55)
 平成17年度 79人(男29 女50)
 指導教員数 ともに17人

【実施後の生徒の感想から】

授業、自習、ともに充実していたと思う。技術を身に付けるとともに、技術の身に付け方を習えたことは、これからの学習に大いに役立つと思う。また、楽しく勉強するということができたと思う。嫌々やるよりも自分のやりたいもの、必要なものを選び、自主的に学習に取り組んだ方が吸収率もよいし、勉強が長続きするので、今回の合宿では、勉強に対する姿勢を改めて認識することができた。それから友達と一緒に勉強することで、勉強への意識もしっかりもつことができ、受験への切替えになったと思う。講義の内容も分かりやすく、興味をもつことのできる授業だった。いつもの学校の授業とは違った方式の講義は新鮮で、よい刺激になった。得るものがたくさんあった、充実した合宿だったと思う。

10時間近く勉強して疲れたけど、この3日間はとても充実していたと思う。生活のリズムが朝型になったので、このまま朝に勉強する習慣をつけたい。モチベーションも上がったし、集中できた。3年の夏休みでも、7月末に同じような日程で学習合宿を行って欲しいと思う。

普段の生活では解けそうにない問題を、先生の解説も交えながら解くことができ、とてもよい経験になり、自信にもなりました。周りも頑張るのでよい刺激を受けられました。この時期は年末・年始でだらけがちな時期なので、合宿があるというのはとてもよかったです。ありがとうございました。

普段の生活であれば、このように1日を勉強して過ごすということはなかったので、このような場を体験することができて非常によかったです。特に自習室では、周囲の友達の学習への熱意に触発され、非常に有意義な時間を過ごすことができた。この合宿に参加しなければ、きっとこのような充実感を得ることはできなかったので、参加してよかったと思う。

みんなが頑張ったので刺激を受けました。もっと長くここで勉強したかったです。この合宿をきっかけに、これからの勉強を頑張りたいと思います。

【学習合宿日程表】(平成17年度・一部抜粋)

日時	1月6日	1月7日
6:30		起床
7:00		
7:30		
8:00		朝食
30		
9:00	受付	101 201 202 203
30	オリエンテーション(203)	英速
10:00	101 201 202 203	自 日 化 自
30	自 時事 自 数	習 本 学 習
11:00	習 英語 習 超	習 史 学 習
30		
12:00	昼食	昼食
30		
13:00	英語 自 数学	数学 2
30	速読 習 超	自 数列 次 自
14:00	自 地 学 八	習 数学 記 習
30	習 理 三角 一	数学 述 習
15:00		数学 現代
30		ベクトル 文
16:00		
30		
17:00	宿泊棟入室	
30		
18:00	夕食	夕食
30	入浴	入浴
19:00		
30		
20:00	自 自 生 数	閉 英デ 世 自
30	習 習 物 超	鎖 イベ 界 習
21:00	習 習 遺 伝	
30		
22:00	宿泊室で自学	宿泊室で自学
30		
23:00	消灯	消灯
	就寝	就寝

【合宿実施後のアンケート結果】(108人)

2年の12月末という時期はどうか？	
A ちょうどよい	86(人)
B もう少し早い方がよい	15
C もう少し遅い方がよい	6
2泊3日という日程はどうか？	
A ちょうどよい	76
B 1泊2日でよい	4
C もう少し長い方がよい	27
施設(宿泊室・食事等)はどうか？	
A 非常によい	70
B だいたいよい	38
C 悪い	0
講義形式の授業はどうか？	
A よかった	59
B 普通	44
C よくなかった	4
自習は充実していましたか？	
A 大変充実していた	34
B 概ね充実していた	60
C あまり充実しなかった	11
D まったく充実しなかった	1
これからの学習に役立ちましたか？	
A 非常に役立った	71
B 少し役立った	32
C あまり役立たなかった	2
D 全然役立たなかった	2



[学習合宿での自習風景(H18)]

共に学ぶ意識を高め、それぞれの意欲を実践
・継続的な学習に結び付ける

- 1 みんなで戦い抜く受験生になる！
刺激や意欲を一過性のものでなく、個々の学習習慣として継続・定着させていくために、1日の大半を過ごす学校生活を中心に、教員も含め学年全体で戦っていく意識を明確にする。

自己管理の必要性と受験が団体戦であることを中心に「8か条」にまとめる。

【8か条の項目】(詳細は省略)

自己管理能力を身に付ける。

受験に必要な科目だからこそ、授業に集中する。

受験は団体戦。楽しいことは忘れない。

生活にメリハリをつける。

苦手な科目を伸ばす。得意な科目は楽しむ。

忘れる速度を追い越す。

敵を知る。解答時間を考えた演習をし、自己添削力を身に付ける。

簡単に諦めない。秋にB判定に肉薄する。

- 2 3年夏季課外授業を組み直す

平成18年度から各教室に冷房の設備が入り、学校での学習環境が整ったことによって、3年の夏季課外を全面的に組み直し、担当教員の要望と生徒のニーズに合った多様な講座を実現するとともに、課外と学校での自主学習(自習室を設置し常時利用可能に)を中心に生徒が長期休暇の学習リズムを作れるようにした。

【実施期間】

平成19年度については、学習合宿期間、土・日曜及び8月13日、14日以外は、いずれかの講座で課外授業を実施。

前期 7月23日(月)～8月10日(金)

後期 8月15日(水)～8月24日(金)

【実施時間】

午前 70分3講座(8:30~12:30)
 午後 100分2講座(13:15~16:50)
 ナイター 特別講座(17:10~18:30)

【平成19年度実施講座】

	講座名	講座内容
前 期	英語	難関大長文読解演習
	英語	中堅大長文読解演習
	英語基礎	基礎文法やり直し講座
	国語・風	広大・岡大入試対策
	古文・道	文法・現代語訳徹底復習
	広島岡山 AB	広大岡大過去問題アタック
	1番センター藤井	センター対策
	広島岡山 C	行列・積分法の応用
	CLUB京阪神 AB	東大京大阪大問題演習
	世界史	センター対策
	世界史	各国史
	政治経済	国際政治・経済
	日本史(1)	センター対策(1)
	日本史(2)	センター対策(2)
	記述化学	2次記述対策
	センター化学	センター対策
2次物理	2次記述対策	
センター物理	センター対策	
2次生物	2次記述対策	
センター生物	センター対策	
後 期	英語基礎	基礎文法やり直し講座
	国語・空	東大・京大入試対策
	国語・海	阪大神大九大入試対策
	CLUB京阪神 AB	東大京大阪大問題演習
	世界史	センター対策
	世界史	各国史
	イオ-ティ地理(1)	センター対策(1)
	イオ-ティ地理(2)	センター対策(2)
	政治経済	プリント演習
	倫理(1)	センター対策(1)
	倫理(2)	センター対策(2)
	記述化学	2次記述対策
センター化学	センター対策	

平成18年度は延べ50講座で実施したが、卒業生の中に「夏の課外を取り過ぎた」という声もあり、19年度は内容を精選し、計33講座で実施。

受講者は平成18年度・19年度ともに約300人。

各講座は4日間から8日間の期間で実施。

【卒業生が書いた「合格への道しるべ」から】

夏休みは基礎固めを徹底するため、学校の課外授業に重点的に取り組むようにしました。具体的には、私は世界史で記述が必要だったので、記述対策用世界史課外をとったり、日本史の先生に個人課外を頼んだり、英語や国語で難関対策用課外をとったりして勉強しました。1番大切なことは、日々の授業や放課後の課外など、学校の勉強に一生懸命努めることだと思います。

やはり毎日の授業が1番大切で、このときに寝ていたり、他の勉強をいつもしたりしているようではいけない。私は学習塾のようなところで勉強をしなかったため、合格して授業の大切さと山高の授業のレベルの高さを実感した。1日の生活の中で最も大きな割合を占める学校での授業を大切にすることが、やはり重要なのだろう。もう一つ大切なのは、生活のリズムを確立することで、特にしっかりと睡眠時間を確保するようにして欲しい。

夏休み中の学習のポイントは、学校でやること。暑くても頑張ってくる。課外を取れば、必ず来ることになるからいいと思う。

1年から3年前半までの間は、授業中心の学習が1番よいと思います。予習、復習、小テストの勉強をしっかりやっていたら十分です。そして授業では、なぜそうなるのか、他に良い考え方、表し方、解き方はないかといった疑問を常に持ち……あと生活については、毎日11時就寝、5時起床としていました。就寝や起床はなるべく一定にして睡眠時間を長く取り、生活リズムを整えることが大事だと思います。

他校の取組

【光高校・春季学習会】

対象学年

第1、2学年

第1学年(19人)第2学年(20人)

実施期日

3月15日～16日

目標

新学期に向けての学習習慣の確立と学習の深化を図る。

特色

希望者を対象として1、2年合同で実施する。また、教員以外に現役大学生である卒業生を招き、指導に当たってもらう。

分析と評価

参加者は合宿の目的を十分に意識して参加しており、所期の目的は十分に達成できた。参加卒業生の中にはこの学習会の経験者も含まれており、ピアサポートの一環としての意味もある。

【徳山高校・サマー進学チャレンジ】

対象学年

3年生(479人)

実施時期

7月21日～28日

8月17日～28日

目標

夏季課外を充実させ、受験学力の養成を期す。

特色

習熟度別、進路別、内容特化の講座26科目、計39講座を設け、生徒の多様なニーズに応えられる形で実施する。

分析と評価

国公立型、私立型講座や、内容を特化した講座を設けたことにより、充実した課外を実施でき、出席率も高かった。

【豊浦高校・スタディキャンプ】

対象学年

2年生(65人)

実施期日

8月1日～2日

目標

長時間の集中的な学習により、主体的な学習態度を養うとともに、受験勉強に耐えうる学習習慣を身に付け、効率的な学習方法を学ぶ。

特色

北九州予備校小倉駅前校で、受験生と共に講義や小テストを受け、授業見学や自習を実施する。

分析と評価

スタディキャンプ中の生徒の学習への取組状況は良好で、実施後のアンケートを見ても、参加して大変よかったという意見が多かった。その後の学習に取り組む姿勢にも徐々に積極性が現れてきている。参加人数を増やし、大きな成果をあげるためには、費用等も含めて宿泊場所の検討、実施対象学年の検討が必要になる。

【新南陽高校・学習合宿】

対象学年

3年生(61人)

実施時期

7月18日～21日

目標

校外の研修施設で規則正しい生活をするこゝで生活のリズム、学習のリズムを整えさせる。また、達成感を味わわせ、進学に対する自信をもたせる。

特色

自学自習を中心とし、学習時間の限界にチャレンジさせることで、達成感を味わわせる。

分析と評価

自分一人ではなく、仲間と共に頑張るという意識が生徒に生まれたことは学習面で核になる集団作りという点で非常に有意義であった。

【高森高校・高森夢チャレンジ特別学習講座】

対象学年

1年生(28人) 2年生(3人)

実施時期

12月25日～28日

1月5日～6日

目標

進学意識の明確化を図り、大学受験のための学力向上をめざす。

特色

異学年が同一の講義を受講し、交流する。

分析と評価

受講した生徒の感想は概ね好評であったが、2年生の参加が少なかったのが残念である。異学年が同一の授業を受講する中での交流が行われ、一定の成果はあったと思われる。

【萩高校・1日学習会】

対象学年

全校生徒

実施時期

12月25日、1月5日

目標

規則正しい生活習慣を身に付けさせ、主体的に学ぶ態度を育成する。

特色

年末年始に、全校生徒が参加し、自学自習により学習のリズムを作る。

分析と評価

「このような機会をもっと増やして欲しい」との生徒からの要望もあり、他の長期休業中での実施や生徒が質問しやすいように工夫することも検討したい。

【ポイント】

実践を促す関与と信頼関係

- ・ 「目標はあり、やらなければならないことは十分わかっているが、できない」のが現在の多くの生徒の実態である。
- ・ 「自分でできる」生徒は教員の援助を必要としていない。したがって、ただ教え、叱咤するだけの教員の在り方は、生徒を支援していないと言える。生徒が一步実践に向かって前進できる関与の在り方を探っていくことで、教員と生徒の信頼関係は生まれていく。

必要性を見極めた精選

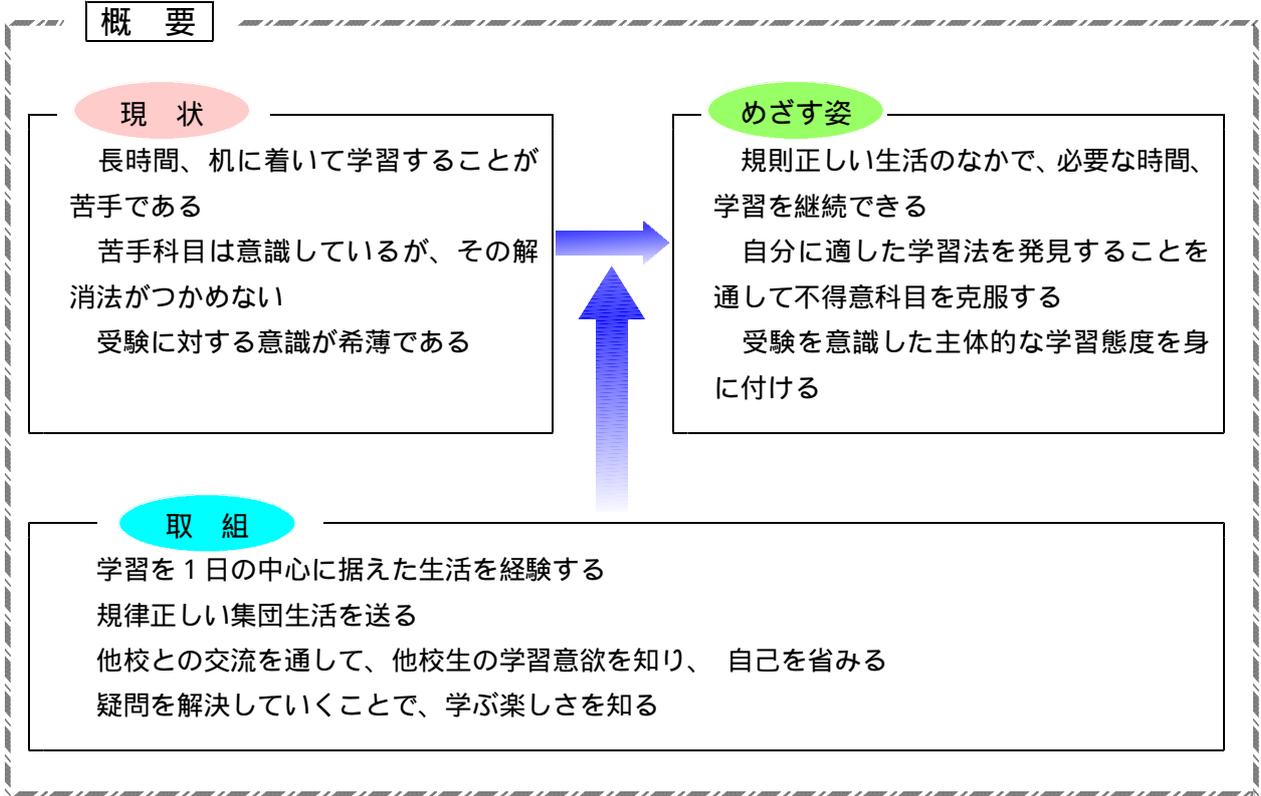
- ・ 情報や指導は過剰になれば消化不良を起こす。3年間のビジョンの中でこれまでの指導とこれからの目標を見据え、「今、ここ」で何を生徒に与えるべきなのか、その必要性を見極めた企画の精選が大切である。
- ・ 学習合宿のようにイベント性の強い企画は、準備に手間もかかり、ともすると企画のための企画になりがちである。ただ一過性の刺激で終わるのでなく、生徒を継続的な実践に向かわせるために、生徒の「やらなければいけないが、できない」葛藤を、「できる、できた」という達成感につなげられるような企画・仕掛けでありたい。
- ・ 平成18年度からの山口高校の夏季課外は、冷房が入ったことにより、学習合宿以上の内容のあるものをより長い期間で継続的に実施できるという発想から組み直された。19年度からは自学の能動性を失わないために、講座を取り過ぎない指導も行っている。

教員も共に学ぶ

- ・ 学校生活を中心に生徒の意欲を高め、学習実践につなげていくためには、学年の「共に学ぶ」という姿勢が不可欠だが、それは生徒どうしだけでなく、教員も加わった「共に」である。
- ・ 望ましい在り方へ生徒を前進させるためには、それを可能にする「環境とスキル」をできる限り提供したい。生徒に受験のための覚悟と努力を求めるのであれば、教員の側にも「がんばる生徒を全面的に支援する」覚悟と努力が求められている。

合同学習合宿で寝食を共にし、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける

(「大津高校との合同学習合宿」：萩高校)



きっかけとしての合同合宿を企画する

本校では生徒にのんびりムードが強く、例年、受験態勢への切替えが図りにくいという状況がある。そこで、学習に向かう姿勢を作ることを大きな目的とした2校合同の学習合宿を企画した。

なお、実施に当たっては、次の5点を柱とした。

- 自学自習を主とし、テキスト・課題等は生徒各自で準備する
- 長い学習時間を体験する
- 国・数・英の教員は常駐し、常時質問を受け付ける体制を作る
- 外部講師による学習法の指導を行う
- 他校の生徒との合同開催により、お互いに切磋琢磨する雰囲気を作る

合同合宿の実際

- 【期日】
8月11日～13日 2泊3日
- 【場所】
山口県セミナーパーク
- 【参加生徒数】
萩高校第2学年29人 大津高校第2学年42人
- 【指導教員】
2学年の教員及び国語科、数学科、英語科の教員
- 【留意事項】
時間厳守、外出禁止
研修に不必要なものは携行しない。
セミナーパーク内では華美でない服装とする。

【日程表】

第1日		第2日		第3日	
10:00	オリエンテーション	6:30	起床・掃除	6:30	起床・掃除
	学習準備	7:30	朝食	7:30	朝食
11:00	学習	8:30	学習	8:30	学習
12:30	昼食	10:30	休憩	10:30	休憩
13:30	学習	10:45	学習	10:45	学習
15:00	休憩	12:30	昼食	12:30	昼食
15:15	学習	13:30	学習	13:30	学習
17:00	交流会	15:00	休憩	15:00	閉会行事
17:30	夕食・入浴	15:15	学習	15:15	解散
19:30	学習	17:00	交流会		
20:30	休憩	18:00	夕食・入浴		
20:45	学習	19:30	学習		
22:00	就寝準備	20:30	休憩		
23:00	点呼・消灯	20:45	学習		
		22:00	就寝準備		
		23:00	点呼・消灯		

原則として自学自習

学習 には外部講師による学習法の指導
を30分程度実施

2校の生徒間の親睦を深めるための交流会
を実施

模試の活用や学習指導に関する教員研修会
を実施

【生徒の感想】

家ではなかなか集中して勉強できないので、
すごくよい機会だった。

思った以上に勉強がはかどりました。

みんなが集中していたので自分も集中でき
た。とてもよい経験だった。質問もたくさん



【自学自習風景】



【大津高の先生から指導を受ける萩高生】

できた。また来年も参加したい。

家よりかなり勉強できた。皆がいたのもあ
って、時間が過ぎるのがはやかった。

普段の生活で、自分の休憩時間がどれだけ
多すぎるか分かった。

皆がいるので自分も頑張ることができた。

テレビや携帯に使っている時間をなくすだ
けで時間がたくさんできるんだなと思った。
家でももっと時間をうまく使いたい!!

いつもと異なった雰囲気の中で緊張感をも
って講義に臨むことができた。

予備校生の効率よい学習法を聞くことが
できて、大変有意義だった。

予備校の先生の講義は密度が濃い気がした。

予備校の先生は、自分の人生経験から勉強
の仕方まで教えてくださり、とても参考にな
りました。勉強できるいい機会だったし、こ
れから勉強していく上でいい刺激になりました。

質問がしやすく、よく分かった。あまり進
まなかったけど、ゆっくりよく考えられたの
でよかった。



【講義風景】



【交流会風景】

3日間どの教科の先生もいつも来てくださり、質問も気軽にできました。

数学の質問が多くて、ずいぶん待たされた。

他校の先生へも質問することができて、いろいろな解法を学ぶことができた。

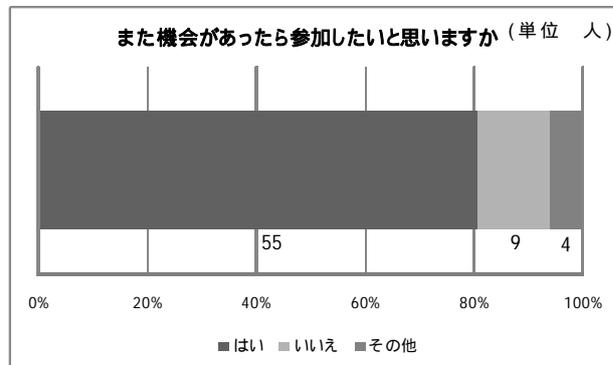
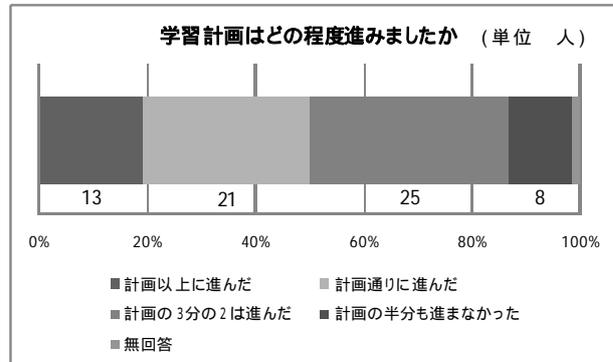
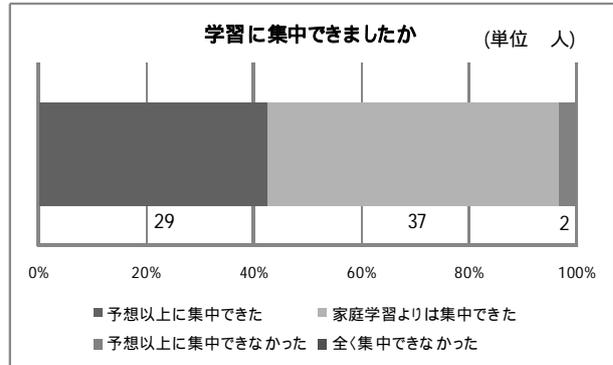
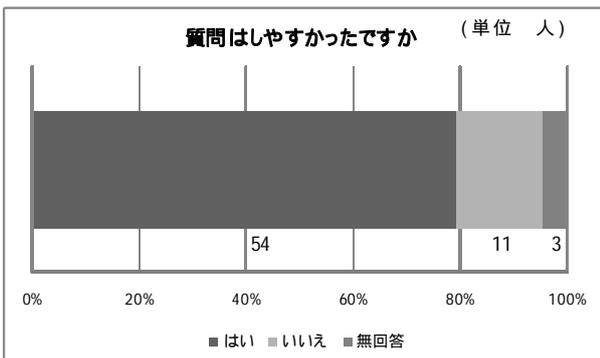
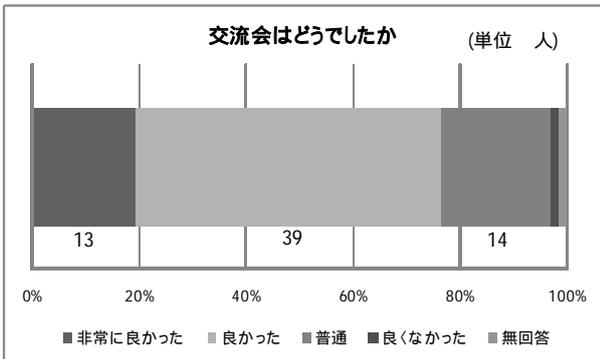
みんな熱心に質問していたので、普段は恥ずかしくてなかなか質問できないけど素直に足が進んだ。

大津高校の人も勉強に対して、僕と同じような不安を抱いているんだとなぜか安心した。

また萩高と大津高の合同で合宿がしたい。とても充実した3日間になった。

【生徒アンケートから】

実施直後の生徒の感想を得るために、両校参加生徒に向けてアンケートを実施した。質問項目とアンケート結果を以下に示す。



【教員アンケートから】

勉強の仕方の個別指導の時間がとればよいと思う(生徒の要求があれば)。

学習部屋を指定、固定し、部屋ごとに班長を置き、休み時間に控え室をのぞき、板書など(スケジュール・注意等)をさせるなど、生徒をもっと使ってもよいのではないかと。

生活指導の徹底のため、ミーティングの時間にもう少しゆとりがあるとよいと思う。

生徒もそうだが、隣りどうしの高校なのに全く接触のない両校の教員の交流ができるととてもいい機会になったと思う。生徒も教員もいい刺激を与えあえる関係づくりができてよかったと思う。これを機会に生徒は自学の意味を知り、勉強スタイルを確立してほしいと思う。

合同で何か取り組めると良かった。数学100問チャレンジなど。

他校の取組

【理数科三校合同合宿セミナー】

参加校

岩国高校、徳山高校、山口高校

対象

各校理数科1年生

内容

実験・実習体験や講義等を通して研究に対する姿勢を学ぶとともに、理数科目以外の科目についても理解を深める機会とする。また、他校生徒との交流を通して切磋琢磨の気運を醸成し、以後の進路選択及び学習活動に向けての意識をかん養する。

分析・評価

第1学年の初めに実施することで、学問・研究に対する関心・意欲・態度を形作ることができた。また、校内外の交流を深められたことは、以後の学習意欲の喚起にもつながった。

【ポイント】

実施上の留意事項

施設

山口県セミナーパークを利用する場合は、前年度の3月に仮予約し、新年度4月に本予約となるため、年度をまたいだ手続きが必要となる。また、セミナーパークの立地条件から、貸切バスでの移動が主となるため、コストがかかる。

学習時間

セミナーパークまでの移動に時間がかかるため学習時間が削られるが、普段より集中した学習が実現できるので、内容的に損失はないと言える。

費用

セミナーパークで実施するに当たり、交通費等を含め2泊3日で一人当たり7,000円余りの費用が必要になる。

生徒の感想から

「緊張感があって集中できた」、「質問しやすかった」と回答している生徒がいる一方、「質問できる先生方の部屋まで行きにくい」、「質問の待ち時間が長かった」との意見もあった。

また、「センターに向けての勉強方法を知りたかった」、「受験テクニックも知りたかった」、「浪人生の様子などの情報も欲しかった」というガイダンスの設定を要望する声もあった。

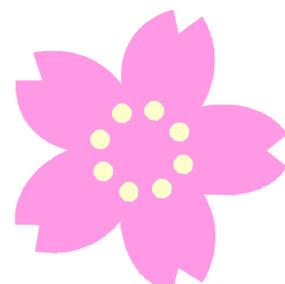
さらに、「トイレに行きやすい環境だったら良かった」、「入浴は人が多くて、ドライヤー待ち等で時間が足らなかった」、「運動不足で困った」という設備の問題の声もあった。これらが、次回への参加を希望しない生徒の心情であるらしく、学習合宿自体への不満ではない。

分析・評価

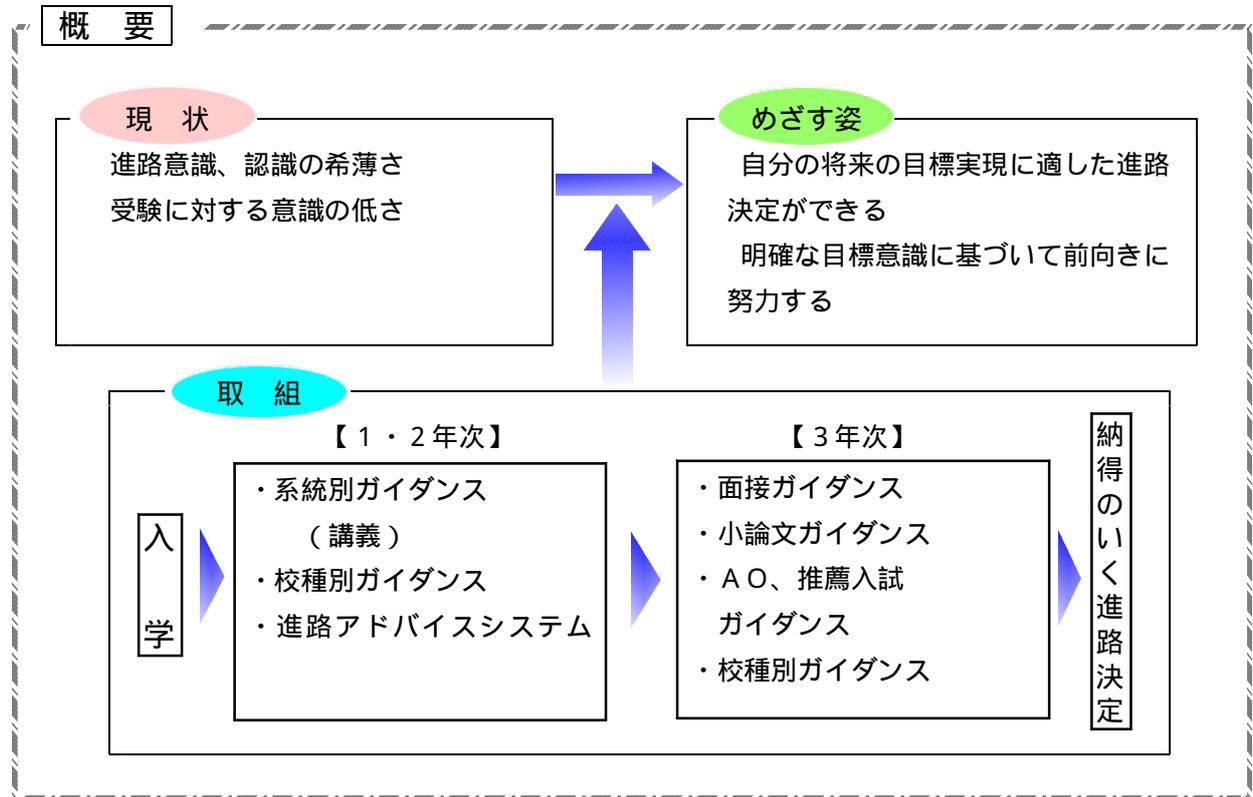
両校でバスを連ねて出発・帰着したためか、交流会を待たずに違和感なく合同で行動できたように感じる。ほとんどの生徒が「思っていた以上に集中できて時間がはやく過ぎた」、「また参加したい」、「いいムードで学習できた」などの感想を書いており、かなり有意義であった様子である。学習時間を比較的長めに設定し、普段50分間隔の学習習慣からの変容もねらいの一つであったが、十分達成されたように感じる。生徒の自学自習を中心とする合宿であるが、外部講師による学習指導も取り入れた教員の授業研修を兼ねており、密度の濃いものだったと考える。

2章 生徒の進路意識を高める取組

- 1 納得のいく進路決定をするために
- 2 自分の進むべき道を考え、自己の目標を設定する
- 3 学部・学科について知り、進むべき道を考える
- 4 学問観を育み、目的意識を明確にする
- 5 高大連携「英語ゼミナール」への参加



納得のいく進路決定をするために （「各種進路ガイダンスをとおして」：新南陽高校）



納得のいく進路決定をめざして

これが本校の『進路のしおり』の表紙にあるタイトルである。生徒一人ひとりが、「満足」だけではなく「納得」した状態で卒業証書を手にしてほしいということが、我々の共通の思いである。

平成16年度に、県教委から進学チャレンジ拠点校の指定を受けて以来3年間、主役である生徒を「どのようにしてその気にさせるか」という視点で取り組んできた。ここに紹介する各種ガイダンスも、その一つである。

本校では、入学時から計画的に各種ガイダンスを実施しているが、入学時から3年次（9月初旬）までに実施する大まかな流れは、上図（概要）に示したとおりである。基本的には、1・2年次では進路先及び入試システムをより深く理解するためのもの、3年次では進路決定のための具体的手

段に関するものが中心となっている。
以下に、実施したガイダンスについてその事例をいくつか紹介する。

進路先及び入試システム等をより深く理解するために

1・2年次のガイダンスは、進路先及び入試システム等をより深く理解し、受験に向けてモチベーションを高めるためのものとして位置付けている。そのため、校種別・系統別のガイダンスが中心となる。

1年次には、年間の進路指導の総まとめとして、3月に講義形式の系統別ガイダンスを受講する。それを受け、進級後の早い段階（5～6月）に校種別ガイダンスを実施する。ここでは、志望先ごとの入試システム及び受験に向けての心構え等に

についての講義を聴き、進路意識を高めていく。そして3月に再び1年次と同様の系統別ガイダンスを受講し、3年次へつなげていく。

1 校種別ガイダンス

実施時期：2年次 6月

実施時間：LHR時(14:30~15:20)

実施方法：6分野に分かれての講義形式

実施の手順

希望分野の事前調査(1週間前までに)

講師への受講人数連絡及び講義内容についてガイダンス開催

当日、講師と講義内容について最終打合せ
事後アンケート

受講後、会場において実施

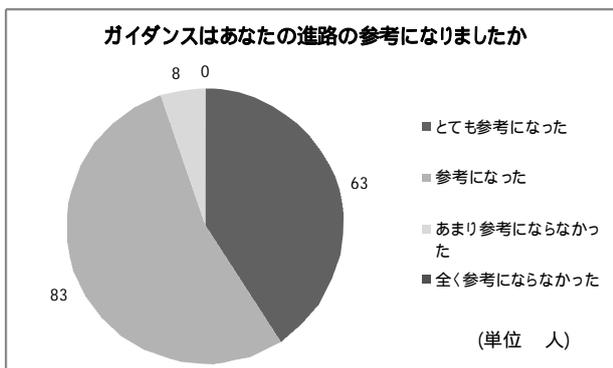
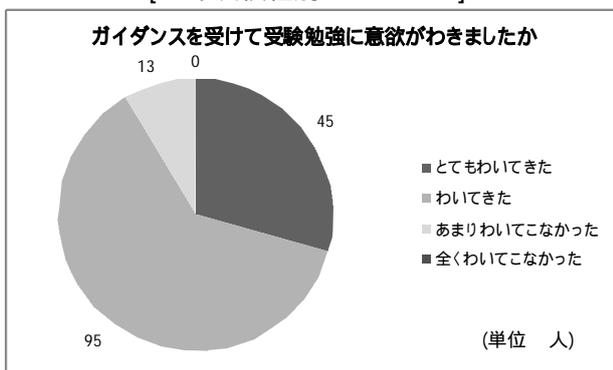
実施内容

分野	
1	4年制大学文系
2	4年制大学理系
3	短期大学
4	看護医療系(大学 専門学校)
5	専門学校
6	就職・公務員

生徒の変容

アンケート結果から

[2年次校種別ガイダンス]



生徒の感想から

- ・ 国立と私立の違いや大学へ行くことの意味などが、よく理解できた。
- ・ もっと頑張って受験対策をしようと思った。
- ・ 大学の考え方がわかって良かった。
- ・ 大学に入るまでのことがよくわかった。
- ・ 他の学科の内容などもわかって、進路の幅が広がってとても良かった。
- ・ 短大で良い道を拓くことができそうなのでやる気がでた。
- ・ 大学、専門、短大で迷っていたけど今回の講義で進路がはっきりしてきた。簡単な道ではないので、しっかり勉強しようと思った。
- ・ もっと具体的な学部の話が聞きたかった。

2 系統別ガイダンス

実施時期：1・2年次 3月

実施方法：系統別に20前後の講座を開設し
大学等の講義形式でガイダンスを実施

実施の手順

開設分野の第1次希望調査実施(12月)

開設分野の決定(12月)

第2次希望調査実施(2月)

受講分野の決定

ガイダンス(講義)開催

当日、受講前に体育館にて全体指導後、各会場に分かれる。

事後アンケート

受講後、会場において実施



[栄養学・食物栄養学系の講義]

実施内容

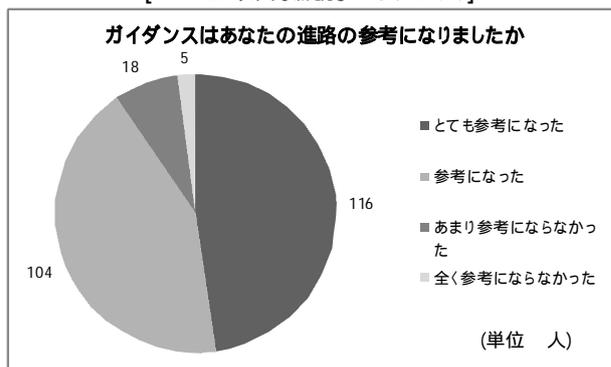
平成19年3月実施の事例

分野・講師	テーマ
1 日本語学・日本文学 梅光学院大学	「千と千尋」を妖怪学から眺めてみると
2 英語学・英文学 北九州市立大学	翻訳の問題
3 心理学 宇部フロンティア大学	心理学への招待
4 福祉学 山口県立大学	障害者とは
5 経済・経営学 九州共立大学	暮らしと経済
6 国際文化・国際関係学 東海大福岡短期大学	国際文化について
7 栄養学・食物栄養学 山口県立大学	管理栄養士になるには
8 工学 北九州市立大学	これからの建築
9 看護学 ライセンスアカデミー	看護師体験
10 美術・デザイン 徳山大学	マンガ、アニメ、デザインの世界を体験しよう!
11 幼児教育・保育学 西南女学院大学	子どもを見る目
12 教育学 九州女子大学	人間・教育・発達を科学する
13 放送・音響 福岡スクールオブミュージック専門学校	芸能・マスコミ・音楽業界について
14 美容 山口ビューティモード専門学校	ネイルチップ制作
15 ファッション 広島ファッションビジネス専門学校	きめこみマグネット
16 調理・製菓 専門学校福岡ビジョナリーアーツ	クレームブリュレを作ろう
17 福祉 防府福祉医療専門学校	福祉について
18 歯科衛生 山口県高等歯科衛生士学院	歯科衛生士の仕事とは
19 リハビリ 下関リハビリテーション学院	身体の仕組みと運動
20 公務員 山口キャリアデザイン専門学校	公務員について

生徒の変容

アンケート結果から

[1・2年次系統別ガイダンス]



生徒の感想から

- ・ 学問の幅広さを知り、この分野への理解が深まった。
- ・ 大学のレベルを知り、もっと勉強して理解できるようになりたいと思った。
- ・ 結構難しかったが、これから自分が変われるように今日のことを生かしたいと思う。
- ・ 将来の進む道を決める上でとても参考になった。こういう機会がもっとあれば、他の講義も聴いてみたい。
- ・ インターネットで調べたこと以外にも、いろいろなことを知ることができて良かった。
- ・ 異文化対応力をもっと身に付けたいと思った。理解することは難しいけど、理解しようとする姿勢の人が増えたらいいなと思った。
- ・ 自分の行きたい学科があって嬉しい。オープンキャンパスに行ってみたい。
- ・ やればできるということに改めて気付かされて、やる気がわいてきた。

進路決定に向けて

3年次では、5月上旬に再び校種別ガイダンスを設定する。ここでは、入試システム及び受験に向けての具体的な準備の仕方について再確認をし、進路意識の高揚を図る。

その後、5月中旬のAO・推薦入試ガイダンス、下旬の小論文ガイダンス(志望理由書の書き方を含む)そして7月中旬(就職)と9月初旬(進学)の面接ガイダンスへとつなげていく。

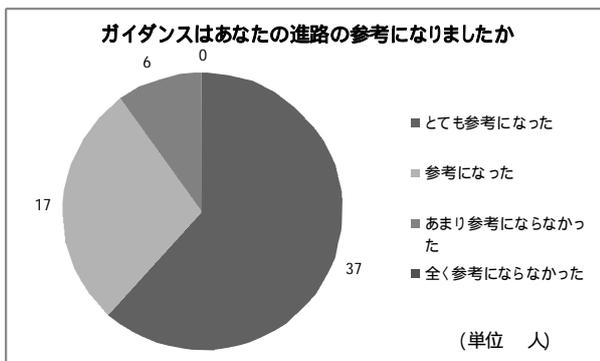
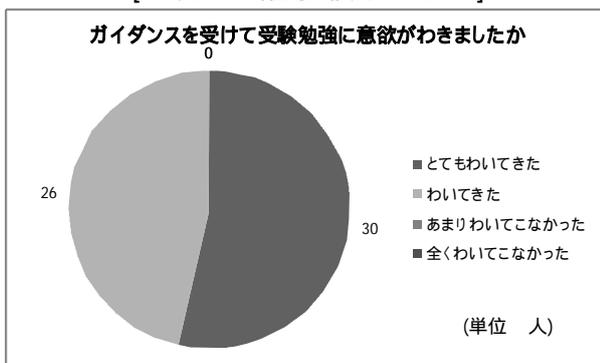
1 A O ・ 推薦入試ガイダンス

実施時期：3年次 中間考査最終日（5月）
実施方法：外部講師（山口大学アドミッションセンター）による講演

講演内容

大学が求める学生の資質
A O入試のプロセス
高校3年生として必ずやっておくべきこと
生徒の変容
アンケート結果から

[3年次A O推薦入試ガイダンス]



2 小論文ガイダンス

実施時期：3年次 5月
実施時間：総合的な学習の時間
(15:30～16:20)

実施方法：外部講師（学研）による講演
講演内容

なぜ小論文が必要なのか
問題例・今後の傾向
志望理由書の意味と書き方

3 面接ガイダンス

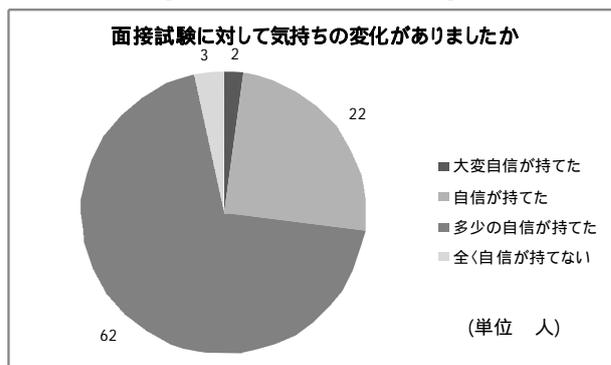
実施時期：3年次 7月中旬（就職希望者）
9月初旬（進学希望者）
実施方法：外部講師（山口キャリアデザイン専門学校、広島情報ビジネス専門学校）による講話及び実技指導

講話内容

面接に必要なポイント
実技指導（就職）
具体的に聞かれること、見られること
生徒の変容

アンケート結果～

[3年次面接ガイダンス]



【ポイント】

それぞれの事例ごとに、生徒の変容はグラフで示したが、反応は概ね良好であったように思う。特に、3年次の面接ガイダンスでは、受講前には9割近くの生徒が面接試験に対して不安をもっていたが、受講後はガイダンスを受けて「自信がもてた」と回答した者が97%に上った。しかし、校種別ガイダンスの生徒の感想の中には、「もう少し分野を細かく分けて欲しい」といった意見もあり、今後は、実施時期等も含め、さらに効果的なものになるように工夫をしていきたい。

冒頭述べたように、どのようにして生徒をその気にさせ、納得のいく進路決定をさせるか、という視点で取り組んできた各種ガイダンスである。現在の3年次生に対しては、本校での3年間の進路ガイダンスを総括するアンケートを実施し、その結果を分析して、今後、より効果的なガイダンスを企画していきたいと考えている。

自分の進むべき道を考え、自己の目標を設定する

(「キャリアセミナー(職業研究)」:下関西高校)

概要

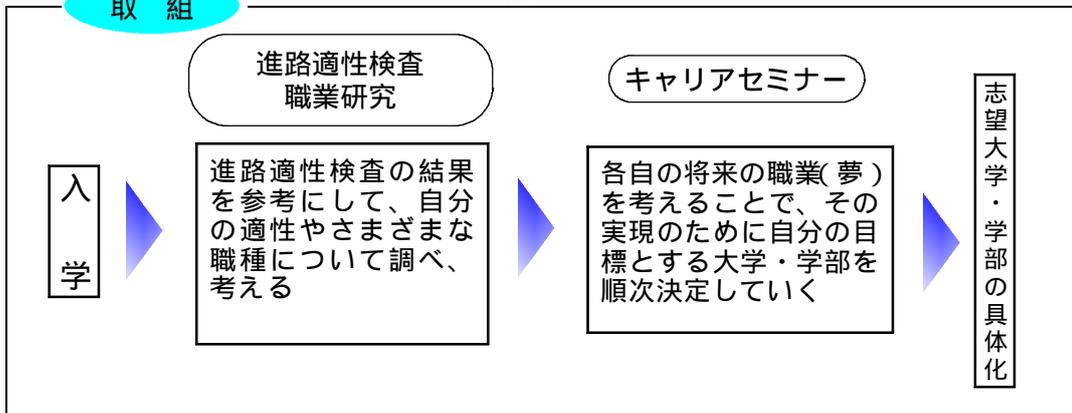
現状

将来の職業に対する意識の低さから、各自の目標設定ができていない
 目標が設定できないために、学習に対する意欲が低い
 職業に対する意識が低いため、自ら大学・学部を調べようとし
 ない
 自分の能力や適性を理解していない

めざす姿

具体的に自分の将来の夢をもち、目標を設定している
 夢の実現をするために、自分の目標とする大学・学部を決めている
 明確な目的意識に基づいて前向きに努力する
 自分の能力や適性に
 応じた進路決定ができるようになる

取組



キャリアセミナーまで

本校では、ほぼ全員の生徒が大学進学を希望している。その実態を踏まえ、次の2点を目標として進路ガイダンスを進めている。

生徒の進路意識の啓発に努める

自己の将来をしっかりと見すえた上で、自らの意志で志望校を決定できるようにする。

進学できる学力をつける

難関大学をはじめ、本当に行きたい大学・学

部を目標とし、強い意志をもって努力する。

3年間を見通した進路指導とするため、各学年において実施する進路ガイダンス[西高キャリアアプローチ(NCA)]は、主に第1学年では職業研究、第2学年ではそれに基づいた大学・学部の研究を行い、最終的に各自が希望する職業を目標として、自らの意志で志望校を決定し、それに向かって前向きに努力できるよう系統的に支援していく。キャリアセミナーは、第1学年の指導においてその中核をなすものであり、総合的な学習の時間における職業研究の一環として位置付けて実

施している。

[進路適性検査]

実施時期：第1学年 4月

実施時間：総合的な学習の時間(2時間)

実施方法：各ホームルーム単位

内 容：

5月の後半には第2学年における文理選択の説明が行われ、12月までには文系・理系のいずれかを決定していかなければならない。そのためには、各自の将来の職業について、ある程度考えておく必要がある。そこで、入学時に進路適性検査を実施し、その結果を各自の将来の職業を調べていくための参考資料として利用していく。

平成19年度 総合的な学習の時間

実 施 要 項 (案)

名 称 西高キャリアアプローチ (略称 NCA Nishiko Career Approach)

目 的 次代を背負う良識ある社会人となるために、主体的で能動的な学習活動を促し、自己の在り方生き方について考察させ、進路について明確で具体的な見通しが持てるよう援助する。

実施時間 水曜日 第7限

指導体制 全教員による指導を原則とする。基本的に学年の授業・行事は各学年で担当する。打ち合わせは各学年の総合係教員を中心に職員研修後のミーティング等を利用する。

学習内容

一年	学部学科研究・・・学部や学科についての概要を知る。 職業研究・・・職業について調査したり、職業人の話を聴き(キャリアセミナー)、自己の進路適性や教科学習の意義について考える。 小論文・・・勤労観に関する小論文を書く(「働きがいとはなにか」)、小論文講演(小論文の書き方の基礎を学ぶ)。
二年	課題研究・・・自ら課題を設定し論文を作成する。発表も行う。普通科は4月から11月まで。理数科は2月にまとめて実施。 学部学科研究・・・大学セミナー(大学生から話を聴く)、オープンキャンパス(九大)、模擬講義(大学講師による出席講義)。これらの体験的行事や調べ学習に基づき、自己の進路についての考えをレポートにまとめる。(「進路実現レポート」)
三 年	進路研究・・・個人面談・志望理由書・進路課題分析シート 進路アカラト講座・・・進路に関する各種選択講座。(前期と後期)

ねらいとする学力

①方法知・・・情報を適切な方法で収集・整理し、表現する。学習活動に関わる技能を身に付ける。
②自己知・・・自己の適性や個性についての理解を深める。それを進路についての考察に生かす。
③社会知・・・自己の興味関心や自己の進路に関わる特定の分野についての知識を深める。

関連文章

① 授業記録シート・・・出席管理と授業評価(生徒の自己評価)用。原則として配布と回収は各クラスの総合係が担当する。授業担当者が捺印する。
② ポートフォリオ・・・生徒がプリントやレポート等を綴じるためのファイル。1年次に購入し3年間使用する。各自のロッカーに保管する。持ち帰らない。
③ 成績伝票・・・副担任が各学期毎の欠課時数および年度末の修得単位数を記録する。
④ NCA評価表・・・授業担当者が年度末(3年生は1学期末)に文章による評価を記入し、成績伝票に添付して正担任に提出する。

評 価 評価は以下の4つの観点で行う。詳細は「西高キャリアアプローチ評価実施要項」による。
① 関心・意欲・態度 ② 表現・構成・技能(方法知)
③ 自己理解(自己知) ④ 課題設定・探究(社会知)

備 各クラスの副担任3人のうち2人を総合係とする。総合係は「授業記録シート」の配布や回収、教材運搬などを行い授業を補助する。

[3年間の総合的な学習の時間(NCA)]

[職業研究]

実施時期：第1学年 6～10月

実施時間：総合的な学習の時間(14時間)

実施方法：志望系統グループ別

夏季休業中課題

各ホームルーム単位

内 容：

職業研究では「職業レポート」の作成を行う。

これは特定の職業についてグループ別にインターネットや書籍を用いて調査を行い、その調査結果を発表するという活動である。この活動を通して、職業についての知識や考えを深めること、また、人前で発表することで、プレゼンテーションの技能を高めることを目標にしている。

この一連の活動の中に、夏季休業中の課題として「職業インタビュー」、中核になる企画として「キャリアセミナー」を位置付けている。

キャリアセミナーの実際

実施時期：第1学年 10月

実施時間：総合的な学習の時間(3時間)

実施方法：各分科会別

1部・2部で二つの分科会に参加

内 容：

キャリアセミナーは、多方面で活躍されている社会人の方々の豊富な経験を聴くことにより、その職業に対する理解を深めるとともに、勤労の意義や、社会における「人としての在り方生き方」を考察する作業を通じて、生徒が主体的

2006年6月14日

「NCAグループ」および「キャリアセミナー」アンケート

(1) NCAグループについて

次週から「職業レポート」の作成を行います。この活動は、クラスではなく志望系統グループ(NCAグループ)を編成して行います。将来の志望の近い人々が協力して活動することで、その分野に関するより深い情報が得られ、認識も深まり、またお互いに刺激になると考えられます。

そこで、希望する系統を下の(一)～(六)から選び、各系統内の希望学部A～Fの記号と組み合わせ、下欄に記入してください。(例 (三)-B)

このアンケートを元に7～9つぐらいのNCAグループを編成する予定です。(グループの名称は「文学・語学グループ」などのようになります。)

グループ変更は可能ですから、志望がはっきりしない人も、どれかを選んでください。(変更する場合は「NCAグループ変更届」を提出します。次週配布します。)

また、2年次に行う課題研究作成活動(普通科)も今回のNCAグループ単位で行います。(理数科は理数科課題研究を行います。)

系 統	学 部					
(一) 人文科学系	A 文学	B 語学	C 心理学	D 歴史学	E 人文地理学	S その他
(二) 社会科学系	A 法学	B 経済学	C 社会学	D 政治学	E 商学	S その他
(三) 工学系	A 機械	B 電気	C 情報	D 建築	E 土木	S その他
(四) 理学・農学系	A 数学	B 物理	C 化学	D 生物	E 農学	F 獣医・水産 S その他
(五) 医療系	A 医学	B 歯学	C 薬学	D 看護保健	E 理学療法	S その他
(六) 教育・芸術系その他	A 教育	B 芸術	C 福祉	D 家政	E 衣服住居	S その他

(2) キャリアセミナーについて

10月23日(月)にキャリアセミナーを実施します。そこで来て頂きたい職業人の方々について希望をとります。

講師を希望する職業を裏面のリストから1つ選び、そのA～Jの記号と1～8の数字を組み合わせて記入してください。(例 A-1)

リスト以外に希望の職種がある場合は具体的な職名を記入してください。

キリトリ線

1年()組()番	氏名()
(1) NCAグループ	—
(2) キャリアセミナー	— その他の場合→()

[職業研究グループ分け・キャリアセミナー-仮登録]

に進路（志望学部学科・職業等）を決定していく過程を支援していくことを目的としており、本校の取組も今年で9年目になる。

キャリアセミナー希望職種リスト

A 教育福祉関係			
1 小学校教員	2 中・高校教員	3 大学教員	4 社会福祉士
5 保育士	6 心理カウンセラー	7 社会教育関係（学芸員等）	8 その他
B 医療・保健関係			
1 医師	2 歯科医師	3 薬剤師	4 看護師
5 臨床検査技師・理学療法士等	6 その他		
C 公務・保安関係			
1 国家公務員・地方公務員	2 警察官・消防士		
3 自衛官・海上保安官	4 その他		
D 国際関係			
1 外交官・国際公務員	2 航海士・パイロット		
3 ツアーコンダクター	4 通訳・翻訳家	5 その他	
E 事務・サービス関係			
1 商社員	2 銀行員	3 その他	
F 法務・経営			
1 弁護士・裁判官・検察官	2 税理士・司法書士・経営コンサルタント		
3 その他			
G マスコミ・芸能関係			
1 新聞記者・放送記者	2 テレビディレクター・アナウンサー		
3 その他			
H 芸術・デザイン関係			
1 作家・画家・音楽家	2 CGデザイナー		
3 インテリアデザイナー	4 その他		
I 技術関係			
1 機械系	2 電機・電子系	3 化学系	4 建築・土木関係
5 プログラマー・システムエンジニア	6 農業・水産等技術者		
7 その他			
J その他			

[キャリアセミナー希望職種リスト]

1 事前準備

「職業研究」で各自の興味に応じた志望系統別のグループ分けをするとき、同時に「キャリアセミナー」参加希望の仮登録を行う。生徒の希望が多かった職種に、担当教員（第1学年進路指導部）を中心に、講師の依頼を始める。

生徒は「職業レポート」を進める中で、次第に将来の自分の職業について、具体的なものが

平成18年度 キャリアセミナー分科会一覧

番号	分科会名	所属等
①	法曹関係	弁護士（法律事務所）
②	国際関係	商事会社代表取締役社長
③	公務員関係	下関市役所
④	マスコミ関係	新聞記者
⑤	工学関係	工学部助教授
⑥	心理関係	臨床心理士
⑦	医師関係A	病院勤務医（脳外科医師）
⑧	医師関係B	開業医（内科医）
⑨	薬剤師関係	薬剤師
⑩	教育関係	高等学校教諭
⑪	芸術関係	グラフィックデザイナー

※ ①～⑪の分科会の中から、必ず第3希望まで記入すること

[キャリアセミナー参加分科会一覧]

平成18年度(2006年度) キャリアセミナー参加希望分科会調査票

1年 組 番 氏名 ()

第1希望 第()分科会 ()関係
(参加希望分科会に関するところで、質問等があれば記入しなさい。)

第2希望 第()分科会 ()関係
(参加希望分科会に関するところで、質問等があれば記入しなさい。)

第3希望 第()分科会 ()関係
(参加希望分科会に関するところで、質問等があれば記入しなさい。)

[キャリアセミナー参加分科会登録票]

見えてくる。生徒の興味・関心の変化も考えて、系統別グループの変更は弾力的に行っている。

2 講師の確定と分科会の本登録

キャリアセミナーは、例年10月の後半に実施しているが、講師が確定した段階で、生徒に各分科会参加の本登録を行わせる。本校では、生徒の要望に可能な限り対応できるよう、講師の先生方をお願いし、1部・2部に分け、二つ

平成18年度(2006年度) キャリアセミナー質問事項

分科会参加生徒に、質問事項や特に関心のあることをアンケートした結果、主な回答事項は下記の通りでした。お話の中で時間等余裕がありましたらふれていただければ幸いです。特に、①～⑤については質問の多かった事項です。

《法曹》

① 職業について（なぜ、この職業を選んだのか）

② この職業につくための方法

③ この職業のやりがい

④ この職業の楽しさ

⑤ この職業に就くためには、今（高校時代に）何をすべきか

- ・ 仕事をしていたら雇も喜びを感じる瞬間
- ・ 裁判官に憧れまでの準備
- ・ 司法修習生の生活の様子について

[キャリアセミナー質問事項(法曹関係)]

の講座に参加できる形をとっている。生徒は二つの講座に参加できることで、将来の職業選択の考察の幅が広がり、大変参考になっている。

3 講師への質問事項を事前に集約

参加登録を第3希望まで取り、同時にその分科会に参加する場合、どのような質問があるか書かせて提出させる。

各分科会ごとに集まった質問事項は集約し、事前に担当講師に渡しておき、講座の中でその質問について可能な限り触れてもらうようお願いしておく。

4 キャリアセミナー当日

2講座に参加できるため、ほぼ全員が第1・第2希望の分科会に参加できる。講師の各教室への誘導は代表生徒に行わせる。

分科会に参加している生徒は、記録用紙に講師の話した内容を記録し、その時感じたことなどを書き留めておく。そして、1部・2部の分科会が終了した後にアンケートと一緒に提出させる。



[分科会の風景]

5 キャリアセミナー終了後のアンケート

1部・2部の分科会終了後「今回のキャリアセミナーにおいて自分の将来の職業を考える上で参考になり、自分にとって良かったか」という項目に対し、分科会により多少の違いはあったが、約90%の生徒が、「大変良かった」あるいは「良かった」という肯定的な回答をしてい

る。アンケート結果の集計は後日、講師にも報告している。

キャリアセミナーアンケート (生徒用) 1年 組		
第1部 参加した分科会 第【 】分科会:分野【 】		
《講義の内容について(一つだけ数字を○で囲んでください)》		
1 大変良かった	2 良かった	
3 どちらともいえない	4 あまり良くなかった	5 良くなかった
上の質問で1または2と回答した人に質問します。それはどのような点ですか。		
.....		
.....		
上の質問で3・4・5と回答した人に質問します。それはどのような点ですか。		
.....		
.....		
第2部 参加した分科会 第【 】分科会:分野【 】		
《講義の内容について(一つだけ数字を○で囲んでください)》		
1 大変良かった	2 良かった	
3 どちらともいえない	4 あまり良くなかった	5 良くなかった
上の質問で1または2と回答した人に質問します。それはどのような点ですか。		
.....		
.....		
上の質問で3・4・5と回答した人に質問します。それはどのような点ですか。		
.....		
.....		
《キャリアセミナーを通じてあなたが得たことは何ですか》		
.....		
.....		
《キャリアセミナー全般についての褒め言葉・改善点・要望があれば記入してください》		
.....		
.....		

[キャリアセミナー - 終了後のアンケート]

【生徒の感想】

実際にその仕事をしていらっしゃる方の話を聞いて、将来に対する自分の考えがしっかりしたと思う。「職業」としての話やその職業に就くまでの過程の話がすごく参考になり、自分の夢を実現させたいという意志が強くなった。

自分のあこがれている職業に就いている方々に会うことができたし、勉強のやり方などいろいろな事を教えてもらった。

その職業に就いている人の生の声が聞けた。本当にためになった。

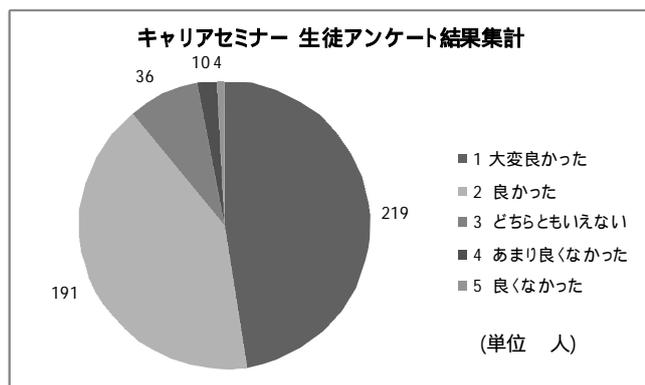
法曹界についていろいろ詳しく教えていただき、弁護士という仕事に興味をもった。

職業について調べている時には知らなかったことがいろいろとわかった。「だいたいこんなものだろう」とイメージしかなかったものが以前よりはっきりとわかった。

自分が抱いていた職業観は現実とは相違するものであり、それを知ることができて良かった。

実際にその分野の最先端におられる人の話

を聴くのは、自分一人で調べたりするのは違い大変詳しくて現実感があり、ためになった。



[アンケート結果集計]

キャリアセミナー以降

第1学年の取組

キャリアセミナーの後「職業レポート」のまとめに入り、グループ別の発表へとつなげる。その後これまでの「職業研究」を基に「働くことの意義について」というテーマで小論文指導に進む。

[小論文指導]

実施時期：第1学年 10月～1月

実施時間：総合的な学習の時間（8時間）

実施方法：各ホームルーム単位

内 容：

働くことの目的や喜び等について、これまでの活動を生かして自分の考えをまとめる。また同時に小論文作成の基礎を学び、活動の締めくくりに「小論文模試」を受験させる。

第2学年の取組

第2学年においては、第1学年での「職業研究」を基にして、自分の希望する職業を実現するためにはどんな大学・学部・学科に行く必要があるのかを考え、その研究を進めていく。その中で「大学セミナー」、「オープンキャンパスへの参加」、「出前講義」などを設定している。

[大学セミナー]

実施時期：第2学年 8月

実施時間：総合的な学習の時間（4時間）

実施方法：希望グループ単位

内 容：

夏休みに現役大学生・大学院生を学校に招き在校生に「大学の様子、自分が勉強していること」などを話してもらう。生徒の希望に応じて、16講座の学部・学科の講座を開催。

[オープンキャンパスへの参加]

実施時期：第2学年 8月

実施時間：午後2日

実施方法：文理別

内 容：

第2学年の希望者が九州大学のオープンキャンパスに貸切バス4台で参加

[出前授業]

実施時期：第2学年 10月

実施時間：総合的な学習の時間（3時間）

実施方法：希望グループ単位

内 容：

大学の講師を招き、希望学部別に大学の講義を体験させる。二つの講義に参加させる。

最終的には、以上の活動を通じて、各自の目標とする大学・学部を明確にし、それに向かって前向きに努力する態度を養う。

他校の取組

平成18年度の進学チャレンジ拠点校におけるキャリアセミナー（職業人の講話）の実施状況は次の表のとおりである。

学年全体で一人の講師が一斉に講話をする形態や、各分科会に別れて実施する形態がある。各分科会に分かれて実施する場合、本校と同様に生徒が2講座参加できる形で実施している学校も3校あるが、いずれも生徒の希望により即した内容で実施できるようになったと好評である。

実施時期や実施学年は各校の実情により様々であるが、進路指導の計画の中で最適と思われる時期に実施している。

各校とも生徒の進路意識を高め、進路選択の援助となる取組として十分な成果を上げており、生徒にも好評であると報告されている。

	実施学年	実施時期	実施講座数	受講可能講座数	学校外からの参加者
岩国	第2学年	3月中旬	12講座	1講座	なし
柳井	第1学年	11月	15講座	1講座	なし
下松	第1学年	3月中旬	12講座	2講座	なし
徳山	第1学年	5月初旬	15講座	2講座	なし
高森	第1学年	9月下旬	1講座		なし
	第2学年	4月下旬	1講座		なし
	第3学年	11月上旬	1講座		なし
小野田	1・2学年	5月初旬	1講座	1講座	なし
豊浦	第1学年	10月下旬	13講座	2講座	近隣の 高校教諭
萩	第2学年	10月中旬	15講座	1講座	なし

【ポイント】

成果

2講座の受講

講師の先生にお願いし、同じ内容で2回講演していただくことにした。その効果は大きく、まだ自分の将来の職業が明確になっていない1年生にとって、大変参考になっている。また、自分が第1希望とする講座に、人数の関係で参加できないということもなくなった。

意識の向上

実際にその職業に就いておられる方の「生の声」を聞くことで、生徒の職業観や働くことに対する意識などが確かに変わる。このキャリアセミナーを、3年間を見通した進路指導における中核の取組とし、それに付随する多くのものを通して、生徒が自分の将来について考え、目的意識を持って前向きに学校生活を送り、自ら納得できる進路決定ができるようになることを目標にしている。また、キャリアセミナーに至るまでの指導やそれに続く取組によって高揚した生徒の進路意識が維持できるようにする必要がある。本校においても、種々の取組のつながりを見直し、生徒の進路意識を低下させないように配慮している。

目標設定の早期化

数年前までは3年生になってもまだ志望校や志望学部が決まらず、自分はどちらがいいのか、何を目標にしていいのかわからないという生徒や、志望校を書かせても、「聞いたことのある大学だから」「友達が書いているから」と記述する生徒が少なくなかった。しかし、キャリアセミナーを核とした一連の学習を経た3年生対象の進路希望調査によると、自己の能力や適性を踏まえ、自分なりに目標を設定し、それをめざして努力できるようになっている。それに伴い、現役の合格率・進学率も近年大きく上昇している。

課題

事前・事後指導の確実な実施

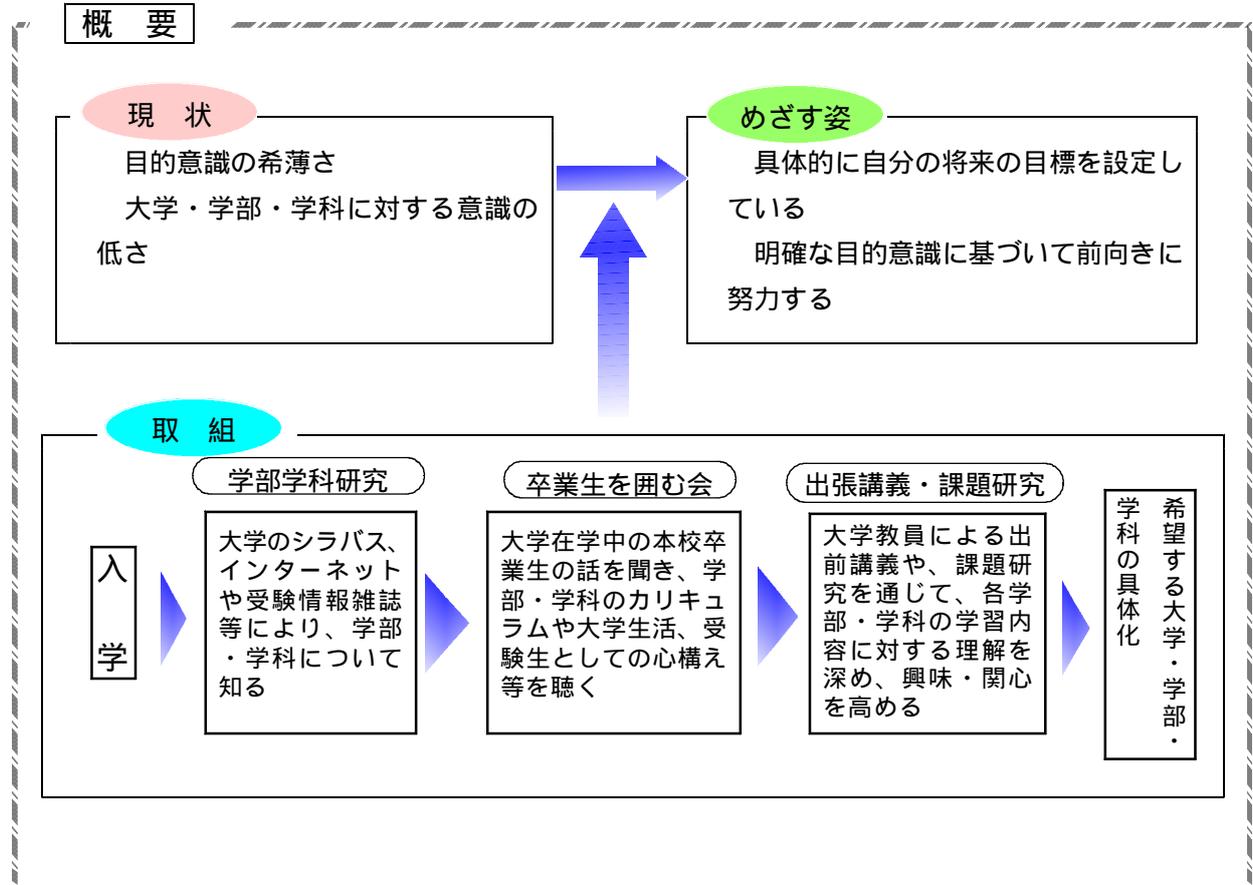
3年間の進路指導の中で、なぜこの時期にキャリアセミナーを実施するのか、その目的を明確にしておく必要がある。キャリアセミナーを含む職業研究から、小論文指導、さらに第2学年での大学・学部・学科研究へと結びつけるため、その取組の全体の中での位置付けの理解は必要不可欠である。

講師の依頼について

生徒の要望に対応できるよう、より多くの分野の講師を確保する必要がある。近年は本校の同窓生を中心として、前年度の講師の推薦等により、毎年数名ずつの入れ替えをして、うまくいっている。

学部・学科について知り、進むべき道を考える

(「卒業生を囲む会」:柳井高校)



「卒業生を囲む会」までのキャリア学習

柳井高校では、進路に関する学習を、総合的な学習の時間（柳井高校では「湧源（ゆうげん）」と呼んでいる）を利用して行っている。ここでは、進路学習における「卒業生を囲む会」の位置付けを明確にするために、囲む会に至るまでの進路学習の流れについて触れておきたい。

【職業研究】

- 実施時期：第1学年 4月～
- 内 容：
- 1 情報雑誌等による職業内容の研究
 - 2 「職業人講演会」
職業人として活躍している本校卒業生を招

いての講演会

- 3 「職業人との座談会」
いろいろな職業（10～15職種）に就いておられる方を招き、各グループに分かれた生徒がそれぞれの仕事の内容、必要な資格、その職業に就くために選択すべき進路などについて学ぶ。

【学部・学科研究】

- 実施時期：第1学年 11月～
- 実施方法：分野別グループでの調査研究
- 内 容：
インターネットのサイトや各大学のシラバス、受験情報誌等を利用して、各自がそれぞれ関心のある学部・学科について、その特徴や研究内容、卒業後の進路、取得できる資格等について

調査し、レポートにまとめる。調査研究の活動は分野別のグループで行うが、他の分野への視野を広げ、情報を共有するために、作成したレポートの発表は各クラスごとに行う。

【教科研究】

実施時期：第2学年 4月～

実施方法：教科別グループによる調査研究及び
マイクロティーチング

内 容：

学年全体を各教ごとのグループに分け、さらに各教科のグループを3～5人の小グループに分け、小グループごとに教材を選択し、指導案を作成して、マイクロティーチング（模擬授業実践）を行う。これらの活動を通して、それぞれの教科の研究をすることで、教科とつながる学問分野の研究の在り方に触れる。

卒業生を囲む会

各学部・学科に関して生徒がもっている情報はインターネットや受験情報雑誌を通じて得たものであり、具体性や現実性に欠けるきらいがある。そのため、生徒の持つイメージを現実化し、適切な学部・学科を選択できるようにする必要がある。そこで取り組んだのが「卒業生を囲む会」である。

【卒業生を囲む会】

実施時期：第2学年 8月

実施時間：夏季休業中の登校日

実施方法：各グループごとの座談会

実施の流れ：

1 実施日、招へい学科・分野の検討

夏休み登校日の実施は、大学在学中の卒業生が夏休みを利用して帰省中であることから、講師としてお願いしやすいということが最大の理由である。本校では、夏季休業中の登校日は各学年で検討の上、職員会議で決定することになっており、2年生では「卒業生を囲む会」の実施に最も都合のよいと思われる日を登校日として設定している。また、開設講

座は1年時の「学部・学科研究」や2年になってからの「教科研究」を踏まえて学年会で検討し、運営委員会・職員会議で了承を得る。

2 講師のリストアップ

旧担任と相談しながら設定グループごとに講師として招へいする卒業生の候補を挙げる。

3 希望するグループの調査（6月）

「湧源」の時間を利用して、「卒業生を囲む会」の実施内容について説明し、参加希望講座を調査するとともに、卒業生に質問してほしいことを記入させる。

「卒業生を囲む会」希望調査

8月20日（月）の2年生の登校日に、昨年を引き続き本校の卒業生（現大学生）を囲んで「卒業生を囲む会」を実施します。

この会の趣旨は、大学生の様子や講義の内容、進路決定の際に留意すべきことなど卒業生から直接話を聞き、また皆さんからの疑問や質問に答えてもらうことで、これからの具体的な進路決定に役立ててもらおうというものです。具体的には、皆さんの興味・関心のある学部・学科に分かれて話を聞き、質問に答えてもらいます。

現在、卒業生が何人来られるかは未定ですが、2年生の担任を中心に色んな学部ごとに卒業生と接触しています。

次の表を参考に第1希望から第3希望まで記入してください。各分野での卒業生参加を予定していますが、卒業生の都合によっては、必ずしも皆さんの希望に添えないこともありまので了解しておいてください。

理 学 ① 物理	社会科学 ① 法学	② 経済・経営
生物農学 ② 生物	教 育 ② 教育	
工 学 ③ 情報 ④ 機械・化学・電気	英 語 ③ 音楽・美術	
医療保健 ⑤ 医学 ⑥ 薬学	⑦ 看護	
健康科学 ⑧ 体育	生活科学 ⑧ 食物	
人 文 ⑨ 外国語 ⑩ 心理	⑩ 文学	

きりとせん

「卒業生を囲む会」分科会希望調査票

第1希望	第2希望	第3希望

（注）番号で記入すること。

●卒業生に質問してみたいことがある人はその内容を書いて下さい。

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

[参加希望調査]

4 講座の決定（7月中旬）

生徒から出された希望を集計し、開設する講座を決定する。ほとんどの生徒が第1希望の講座に参加することになったが、若干名、第2希望になった者がでた。

5 卒業生との交渉（7月中旬～8月上旬）

開設を予定する講座の招へい候補者に対して、旧担任を中心に電話で出席を依頼する。

ここ数年、卒業式前後に「卒業生を囲む会」への積極的な協力を呼びかけており、また、会そのものも定着してきているため、交渉はスムーズになりつつあるが、どうしても講師を見付けることができず、開設できない講座ができることもある。そのような場合、生徒の参加希望を再調整する。

6 依頼文書の発送

出席を承諾した卒業生に対して、依頼文書と、事前に提出された「卒業生に質問してみたいこと」をまとめたものを送付する。

平成19年 8月 8日

氏名 様
山口県立那珂井高等学校
校長 平川 芳孝

第2学年「卒業生を囲む会」について（お願い）

盛夏の候、ますます御活躍のこととお喜び申し上げます。
さて、このたび本校で、「卒業生を囲む会」を企画し、御参加をお願いいたしましたところ、御快諾いただき誠にありがとうございます。
下記要領で実施したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

記

1 主 旨： 大学等に在学中（2、3、4年生または院生）の本校卒業生から、直接大学等での学習内容や学生生活、受験に向けての心構え等を聞くことにより、生徒が将来進もうとしている学部・学科に対する理解を深め、受験勉強に向けての動機付けを行う。

2 日 時： 平成19年8月20日（月）10時から
＊9時45分までに本校「会議室」に御集会ください。

3 対象学年： 本校2年生（全員）

担当係

2年学年主任
TEL (0820) 22-2721
FAX (0820) 22-8539
e-mail shym21.jp

[依頼文書]

7 当日

(1) SHRで参加講座・会場の説明

最終的に決定された参加講座と会場を示し、事前打合せについて説明する。

(2) 各講座ごとの事前打合せ

卒業生に対しては、詳細な日程等を説明するとともに、言葉遣いや生徒に対する態度等、各講座において説明する際の留意事項についてお願いする。

また、各講座において事前に選出した班

長と簡単な打合せを行う。班長は、講師の接待や会の進行を班の中心となって行う。

生徒一人ひとりが「囲む会」に積極的にかかわる意欲を醸成するため、班長を中心とした、生徒による自主的な運営を心がけている。

「卒業生を囲む会」各会場での打ち合わせ
(席物は控って移動。貴重品の管理は各自で)
8:35~9:50 各会場にて

☆ 会場・入室・食物分配は講師が見つからず、第2希望のところに
教員が教室に行かなくても時間が来たら打ち合わせ始めて下さい。

1. 班長を決める
班長の仕事
・講師の方を会議室から会場へ誘導する。(9:35会議室前に集合)
・会の進行をする。(10:00~10:30)
①講師に、自己紹介をしてもらう。
②生徒も自己紹介をして貰い、一してもしなくても良い
③学部・学科の紹介を認してもらう
教育課程、授業内容などの話
④学業勉強について聞いてもらう
どのような勉強をしたか、気を付けること。
⑤質疑応答やそのほか

※終了後講師の方に「会議室へお戻り下さい」と指示する。
※会議室の戸締まり点検の確認をし、感想文を集めて職員室(福本館)へ

2. 各自質問を考えておく

備 考
1. 日程 8:35~ 9:50 「卒業生を囲む会」の打ち合わせ
(9:55 班長は講師を案内するため、会議室前に集合)
10:00~10:30 分科会(各教室)
(席空いて感想文を提出して解散)

2. 話を聞くだけでなく、いろいろ質問しよう。
3. 卒業生に失礼のないように。

講師名(会場)	外国語(選択12)
生物(2-4)	心理(1-1)
情報(2-3)	法政(1-2)
機械・化学・電気(2-2)	経済・経営(1-3)
医学(2-1)	教育(1-4)
数学(選択82)	音楽・美術(エビユ9室)
看護(選択31)	
体育(選択11)	

[事前打合せのプリント：SHRで配布]

(3) 卒業生による説明及び質疑応答

ア 全体会

体育館に全員が集まり、参加した卒業生からそれぞれの大学・学部・学科についての概説を聞く。これは、より多くの大学の雰囲気に触れること、また、他の分野への視野を広げ、情報を共有することなどをねらいとしたものである。

本年度は、体育館が改修中であるため、全体会が実施できなかった。

イ 分科会

講師による説明は、大学・学部・学科の紹介、シラバスの説明、事前に送付された質問への回答を中心に行った。プリントを用意して配布したり、各大学のシラバスを持参し、参加生徒に回覧したり

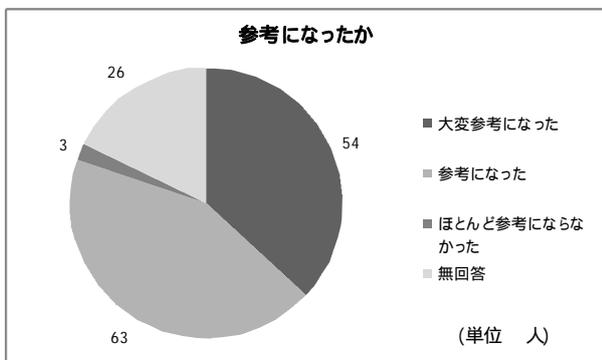
【生徒の反応】

実施後のレポートに「卒業生を囲む会」に関するアンケートを含めた。

それぞれの項目に対する生徒の回答は次のようなものであった。

アンケート 1

進路や受験を考える上で参考になったか。

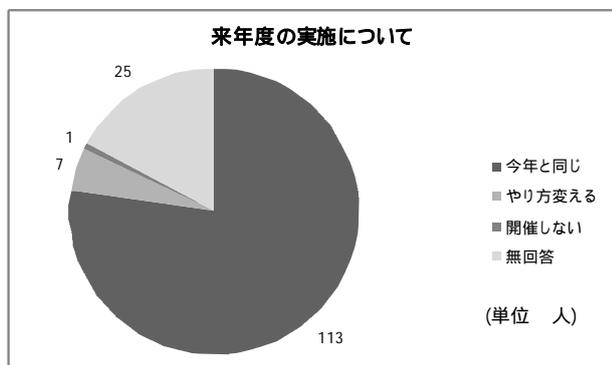


大半の生徒（80%）が、「大変参考になった」あるいは「参考になった」と答えている。

「ほとんど参考にならなかった」と答えた生徒は美術科への進学を希望しながら講座編成の関係で科に回った者と、希望調査後（わずか1か月間であるが）希望が変わった者である。

アンケート 2

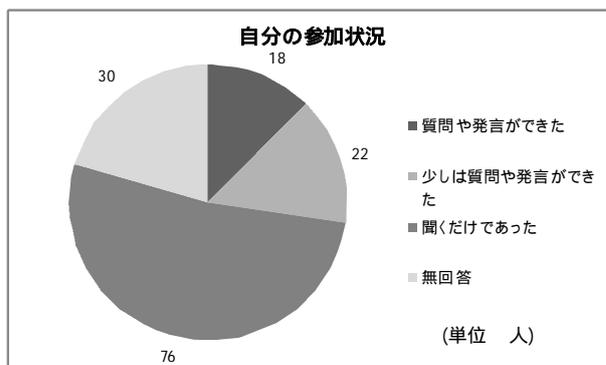
来年度、この会を開くことについて



大部分の生徒が、「本年度と同じやり方で」と答えている。「やり方を変えて実施」という意見の内容は、「実施時間を伸ばす」「複数の講師（先輩）の話が聞けるようにする」というものであった。

アンケート 3

自身の参加状況はどうであったか。



積極的に参加できた者（「質問や発言ができた」あるいは「少しは質問や発言ができた」と答えた者）は少なく、「話を聞くだけであった」という者が過半数を占めた。事前指導の中で、どのようなことを聞きたいのかということをもう少し考えさせておくことが必要であろう。

【生徒の感想より】

心理学に興味を持っていたので、いい勉強になりました。大学の勉強内容も詳しく知ることができ、大学生活の楽しさもいっぱい知りました。とても優しくて、話しやすかったので質問もしやすかったです。自分の受たい大学を絞って、どのような受験科目があるか調べたいと思います。



[心理学講座]

今回話を聞いて、将来を考える上でとても参考になりました。3年からの病院実習はとても大変で、患者さんの手足を洗ったり、ベッドメイキングというものをすることを初めて知りました。また、受験勉強についても、やはり早くからコツコツやるのが大切だと思いました。



[医学講座]

気さくなお兄さんだった。どういう過程で医者になっていくのかや、学年ごとの講義の内容について、自分自身の経験なども交えて教えてくださいだったのでとても分かりやすかった。高校時代の勉強なども参考になった。

この夏、A大学のオープンキャンパスにも行き、経済学についてどんなことをするのかなどのことを大体知ることができました。そして今回の『卒業生を囲む会』で詳しいところまで質問できて良かったです。でも今回少し不安になったのが、苦手な英語のTOEICの資格をとらないと卒業できないという点です。これからA大学へ行くならセンター試験でもいる英語を頑張らないといけないなあと思いました。

英文科と外国語科は違うということが聞けて、学部はちゃんと調べておかないといけないなあと思いました。女子大でも共学でも楽しそうな感じがしました。就職では資格が必要というのもあるので大学でそういうのをサポートしてくれるのかどうかを調べるのも大切だと思いました。

芸術系の大学の話はあまり聞く機会がないので、とても参考になった。やっぱり実技対策は重要らしいので、早めの準備が必要だと思った。先日広島の講習会に行ってきたばかりなので、より自分の技術を向上させるために努力しようと思った。

先輩の話聞き、希望をもつと同時に、2年生の今、やらなければならないことが見えてきた。ありがとうございました。



[情報講座]

感想と同時に書かせた、「進路実現に向けての、今後の計画等」についても「早急に理学部生物と農学部の違いを調べたい」等、具体的なものが多くみられた。

【卒業生の感想より】

1 依頼の方法について

旧担任から電話がかかってくるという方法に関しては、ほとんどの卒業生が「今のやり方でよい」「安心して引き受けることができた」「懐かしかった」等、肯定的にとらえている。

2 分科会・人数・実施時間について

「全体会は緊張するので分科会がよい」「やっぱり素人なので30分が限界かな?」「人数が少なくてよかった」「適切だった」という意見が大多数を占めていたが、「話が盛り上がってくると30分では足りない」「話し足りない部分があった」等の意見もみられた。また、「先生がほとんどその場におられなかったので、生徒も自分も緊張しなくてよかった」という意見もあった。

3 参加生徒について

「態度よく聞いてくれた」「みんな真面目」「班長さんがしっかりした子で気持ちよかった」「みんなの必死さがよく伝わってきた」等の意見とともに、「おとなしい」「もっと積極的に」という意見も目立った。

4 全体的な感想

「ちょっとでも興味を深めてもらえたらうれしいです」「緊張したが、先輩がみんなにこやかに気持ちよかった」「こちらとしてもいい勉強になった」「今後も続けて欲しい。自分も当時この会でいろいろ影響を受けたから」等、肯定的な意見が多く、卒業生にとってもよい刺激となったようである。

「卒業生を囲む会」以降

「卒業生を囲む会」実施後、学部・学科に対する理解を深め、学問に対する興味関心を高めるため、総合的な学習の時間(湧源)に、次のような学習活動を行っている。

【課題研究】

実施時期：第2学年 10月～1月

内 容：

学部ごとのグループに分かれ、各自が設定したテーマに関する研究を行い、レポートを作成するとともに、プレゼンテーションを行う。

昨年度は、「学校5日制の功罪～学力低下との関係～」「血液型と心理学」等の研究発表が行われた。



[課題研究発表]

【大学教員による出張講義】

実施時期：第2学年 11月

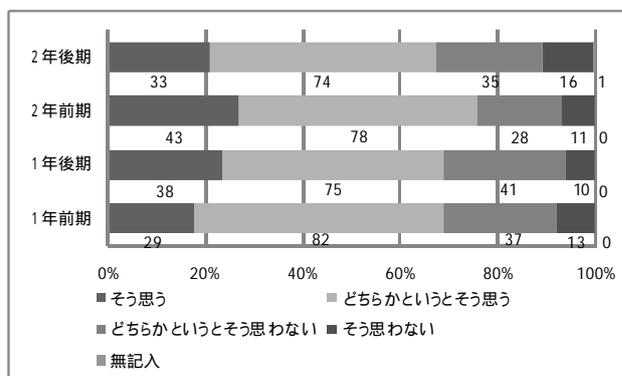
実施時間：総合的な学習の時間(湧源)

実施方法：各講座ごとに大学教員による授業を受ける

評価について

【学校評価(生徒対象)より】

生徒対象の学校評価の中に「進路について考える場(「卒業生を囲む会」「職業人の講演会」等)は役立っているか」という項目がある。この項目に対する、平成19年度3年生の1年前期、1年後期、2年前期、2年後期における回答は次のようなものであった。



「卒業生を囲む会」が実施された2年前期までの評価は確実に上がっていたのだが、2年後期での学習活動にその成果が十分に引き継がれていない点に課題がある。

他校の取組

大学に在学中の卒業生を招き、在校生の前で大学の説明等を行わせるという取組を行っている高校は多い。進学チャレンジ拠点校におけるこのような取組の状況(平成18年度)をまとめた。

【実施の方法】

学年全体を一つの場所に集め、一斉に卒業生の話を聞かせるという形式を取る学校が多いが、豊浦高校のように、一度に数名の卒業生の話を参加者全員に聞かせるという形をとっているところもある。また山口高校のように、複数の開設講座の中から2講座を選ばせ、生徒に参加させるという形をとっている学校もある。柳井高校の生徒の感想にあった「複数の先輩の話を聞きたい」という

高校	実施学年	実施時期	実施講座数	受講講座数	学校外の参加者
高森	1、2	12月下旬	1	1	
徳山	1、2	5月下旬	1	1	
新南陽	全	12月中旬	1	1	保護者
下松	2	8月下旬	1	1	
山口	2	9月上旬	7	2	
宇部	1、2	3月中旬	1	1	
豊浦	1、2	3月	6	6	
	1	8月	4	4	
下関西	2	8月中旬	16	1	近隣学校生徒
下関南	1	5月末	1	1	保護者

希望を満たした形になっており、今後検討したいところである。

実施時期としては、卒業生を確保しやすい春休みや夏休み、冬休みに実施しているところが多い。

【実施校の目標の達成度及び分析・評価】

大半の学校で「おおむね達成できた」以上の評

【ポイント】

今後の課題

生徒の希望と開設講座の決定

すべての生徒の希望を満たすということは不可能であろう。しかし、自分が興味のない講座に参加しなければならないというのも、望ましいとはいえない。生徒の希望をどの程度まで考慮していくかが課題となる。また、卒業生の都合に合わせた日程を組まなければならないということを考えると、長期休業中に実施せざるを得ない。必ず全講座同じ日に実施しなければならないということもないので、柔軟な対応が必要も含めて検討していきたい。

事前指導の確実な実施

実施後のアンケート結果にもあったが、大半の生徒が「話を聞くだけだった」と回答しており、積極的な参加ができていない。その一方で、多くの者が「参考になった」と答えている。この会に臨む姿勢次第でさらに有意義な会にすることができるのではないかと。事前にどのようなことが聞きたいのか等を調査し出席する卒業生に知らせるとともに、在校生が問題意識をもって臨むようにし向けたものの、まだ不十分であった。1年次に行った「学部・学科研究」との関連付けをどのようにとらえるか、また、「学部・学科研究」実施時期とこの「卒業生を囲む会」の実施時期の開きを埋める事前指導の在り方も考えていくべきである。

事後指導への発展

今回の感想等にもみられるように、この会を通じて学部・学科に対する生徒のイメージはかなり具体化され、進路選択に対する取組も前向きになっているようである。しかし、この成果を次の「大学教員による出張講義」や「課題研究」に活かしていくための事後指導、あるいは次の活動の事前指導をどのようにするかについて、更に工夫をしていかなければならない。

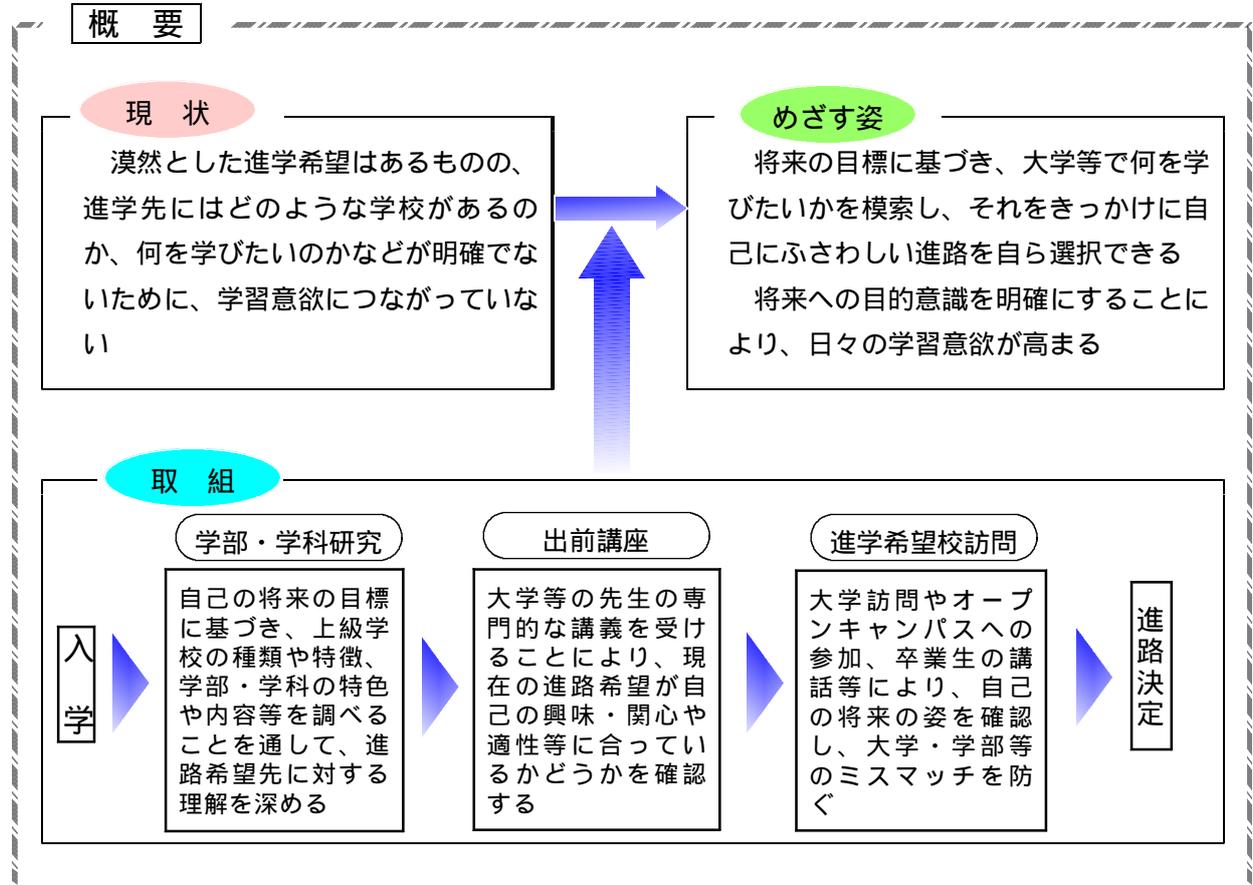
価をしている。具体的には、「昨年度の希望者参加から、今年度は全員参加にした。分科会も増やし、全体としての企画の盛り上がりもあり、生徒には好評だった。生徒の感想にも前向きなものが多かった」「卒業生の進学についての様々な体験談は、生徒自身の学習を見直すきっかけとなり、参考となったようである」等の分析が行われている。

【各校から出された課題及び今後の改善策】

数名の卒業生を招き、話をしてもらう場合、卒業生の確保という点で苦勞している学校が多い。その解決策として、「普段から連絡を密にしておく」「教育実習生や休業中に学校に来校してきたときなどに声をかけておくようにしておく」等の改善策が示されている。また、「これまでは大学生による大学の内容の話が主であったが、社会人による仕事についての話も取り入れる必要性を感じる」という意見もあった。

学問観を育み、目的意識を明確にする

(「出前講座」:小野田高校)



出前講座実施まで

小野田高校では、「総合的な学習の時間」やLHRにおいて、進路に関する学習を計画的かつ継続的に行っている。

特に、「総合的な学習の時間」では、「小野田高校キャリアプランニング(OCP)」と称して、3年間を見通した計画的な進路学習を推進している。これらの学習を通じて、生徒が自分自身の進路に関する課題や問題点を的確にとらえ、その解決に向かって意欲的に取り組むことが大切だと考えている。

【第1学年における取組の概要】

第1学年では、「自己を知る」ということを目

標に進路学習を進めている。

具体的には、「職業人講話」や「企業訪問」等を通して、将来自分が社会とどのようにかかわっていけるか、社会にどのように貢献できるかなど、自己の将来の目標に向けて、自らをじっくりと見つめる契機にしたいと考えている。

6月は、次年度での文理選択を行う時期であり、将来の目標に基づき大学等の種類や特徴、学部・学科の特色や内容を調べる「進路ガイダンス」を実施し、大学等についての理解を深めている。また、夏季休業中には、希望者が山口東京理科大学に出向き、最先端の研究に関する講義を受けることで、進学意欲を一層高めている。

【第2学年における取組の概要】

第2学年では、「自己の可能性を探る」ことを目

標に、進路学習をさらに深化させている。

第2学年は、学習意欲が低下しがちな学年である。中だるみを防ぐためにも、第2学年に進級して間もない時期に、「大学の先生による進路講演」を行うことにより、進学へのモチベーションを高め、その後に実施する「出前講座」をより効果的なものにしていく。大学等の先生の講義を受けることを通して、希望している進路が本当に自分の興味や適性に合っているかどうかを再確認し、次の進路学習へ発展させていく。

出前講座の実施

上級学校への進学を考えている生徒の中には、漠然と進学を考えているだけで、どのような地域にどのような学校があり、「学び」を深めたい学問がどのようなものなのかなどについて、具体的に把握していない者が多い。

大学等で“学ぶ”ということはどういうことか、どのような学び方をするのか、何を学べるのかなど、大学ならではの「学び」を模擬体験することは、高校生にとって大きな知的刺激になる。

また、大学での「学び」には、「自分で課題を発見する能力」、「その課題を自分で解決していく能力」等が求められる。大学での「学び」のスタイルを知ることは、入学後の「学び」の取組につながり、スムーズな大学生活を送る橋渡しにもなる。

高校生活において、ともすると学習意欲が低下しがちである第2学年の1学期において、生徒が志望する大学等の先生による出前講座を開催することは、自己実現のための学習意欲の向上、生徒の進路意識の高揚につながるものとして大きな意義がある。

【出前講座実施の流れ】

実施時期：第2学年 6月

実施時間：総合的な学習の時間

90分で実施

内 容：

1 事前準備

出前講座を始めた当初は、講師選定や日程の交渉等を校内の担当者がすべて行っていた

ことから、業務が大変煩雑であったが、最近では、講師の選定・依頼等がある程度外部業者に委託することにより、当日までの準備が円滑に運ぶようになった。

参加する講座は、全講座の中から、受講を希望する講座の調査を行う。希望人数にばらつきがあった場合は、第2希望等により調整する。

今年度は15講座を設定し、講師は、本校生徒の進学希望者が多い近隣の国公立大学である、山口大学・山口県立大学・下関市立大学・北九州大学等から来ていただいた。

また、学部・学科についても、文学・経済学等の文系学部、薬学・工学等の理系学部、芸術系、理美容系など多岐にわたり、生徒も選択に迷うほどであった。

2 出前講座の受講

全15講座から、希望によって振り分けられた講座を1講座受講する。

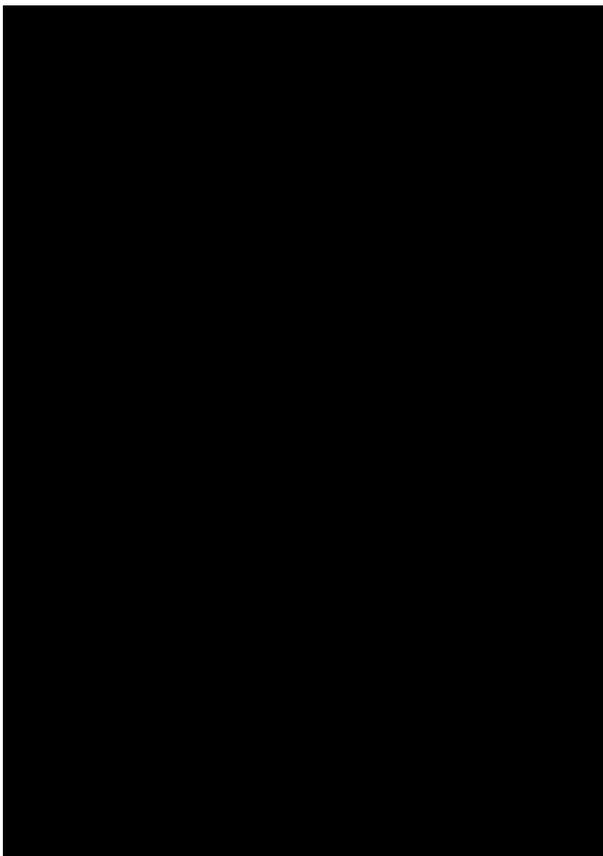
各講座に一人ずつ担当の教員がつき、講師の案内から講義、質疑の司会等を行う。



[最先端の科学技術の話聞く]



[看護学とは？真剣に聞き入る]

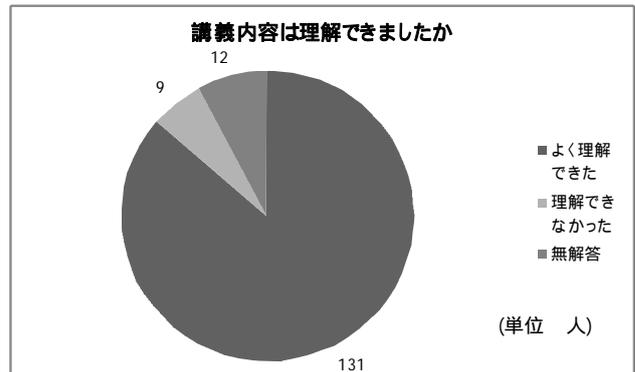


[出前講座レポート・アンケート用紙]

3 事後指導

生徒は、講座を受講した後、レポートに講座の内容及び感想、講座に関するアンケートを記入し、提出する。

【アンケート結果から】



【出前講座受講後のアンケート集計結果】

受講した2年生152人のうち、「よく理解できた」と答えた生徒は全体の86%で、「自分の進路を考え直すよいきっかけになった」と感じる生徒が多かった。「あまり理解できなかった」と答えた生徒が9人いたが、理系学部の講義の場合、専門分野の内容について、少しでも分からない部分があると、全体像が分からなくなり、難解であると感じたものと思われる。しかし、「大学の講義は難しいので、これからの高校の授業でも、特にその分野に関連する化学や物理をしっかり学びたい」と前向きにとらえている生徒もあり、学習意欲の喚起という点で、出前講座の意義は大いにあったと言える。

【生徒の感想から】

講義を聞いて、大学の講義と高校での授業の違いや印象に残ったこと、関心をもったこと

- 大学の講義形態等、高校との違いについて
 - 大学では、90分授業だということだけど、大変そう。スタミナがいると思った。
 - 高校の授業と違って、黒板に字をあまり書かれなかった。字ばかり書く授業ではなかったので、とても受けやすく、飽きることなく受講できた。
 - 大学の講義は、もっと堅い雰囲気のまま行われると思っていた。先生と対話しながらの講義を受けてとても楽しかったし、もっと他の講義を受けてみたいと思った。

2 大学で学ぶということについて

- ・ 自分を知ることや自分を説明することは、難しいと思った。自分にとって「何が大切なのか」を考えることの重要性を実感した。
- ・ 判断や予測をするという思考のプロセスが大切だということが分かった。
- ・ 積極的に自分で考える時間だった。
- ・ 大学の授業は、「なぜ」と思うことが重要であるということがよく分かった。
- ・ 思っていた以上にいろいろなことに偏見をもっていた気がする。

3 受講した学部の内容について

- ・ 知識だけでなく、人を思いやる優しい気持ち大切だということを再認識した。
- ・ 大学の勉強は大変そうなので、今のうちに化学等をしっかりやっておこうと思った。
- ・ 社会への幅広い貢献をめざして、新しい合成反応を開発するところがすごい。
- ・ 「自分が学ぶほどよいケアができることが魅力である。」という話にぐっときた。
- ・ 幼稚園教諭について、資格や子どもとの接し方などを具体的に聞いて、本当にためになった。
- ・ 経済学が社会のいろいろな所で活用されていることを聞き、とても奥が深い学問だということがわかった。

今回の講義を、今後の自分にどのように生かしていきたいと思うか

1 今後の進路に関する自分の姿勢について

- ・ 学部や学科の名前だけで判断せず、しっかり調べる必要があると思った。
- ・ もっと自分と向き合って考えることが大切だと思った。進路もしっかり自分と向き合って決められたらいい。
- ・ 大学ってこんなところなのだ実感ができ、勉強へのモチベーションも上がった。
- ・ 自分は本当はどうしたいのか、何をしたいのか、もう一度自問自答してよく考えていきたいと思った。

2 今後の自分の生き方について

- ・ 物事をもっと柔軟に考えようと思う。
- ・ もっと自己開示していきたいと思った。

- ・ 自分のことを表現するのは恥ずかしかった。もっと発言できるようになりたいと思った。

【実施後の生徒の変容】

多くの生徒の感想にもあるように、まず、高校の授業スタイルとの違いに驚くと同時に、主体的に授業を受けることの重要性に気が付いた生徒が多かった。また、自分自身にきちんと向き合って考えることの大切さを認識し、進路について再考するいい機会になったという生徒もかなりいた。

受講した講座は、生徒が興味・関心に基づいて選択したものであるため、どの講座の生徒も大変熱心に受講し、普段は触ったことのない機材に触れたり、精巧に作られた乳児の人形を抱いて育児体験をしたりするなど、それぞれの分野で多くのことを学んだようである。

今回の出前講座によって、大学での学問のイメージが具現化され、将来の希望職種を含め、進路研究をさらに深めようとする意識が高まった。進路意識の高揚とともに、今後の学習意欲の高まりが大いに期待できる。



[美容実習体験 ~先生も一緒に~]

出前講座実施以降

「出前講座」実施後、学部・学科に対する理解をより深めるために、次のような学習活動を展開している。

1 第2学年における取組

進路学習の目標「自己の可能性を探る」

【インターンシップ】

実施時期：8月

内 容：職場実習や医療機関での看護実習等

【進路ガイダンス】

実施時期：随時

内 容：進路指導部、担任による進路選択における全体及び個別指導

【進路講演】

実施時期：11月

内 容：目標達成に向けて今の学習状況を見直してみよう

2 第3学年での取組

第3学年では、「自己の進路を拓くこと」を目標に進路指導の実践を行っている。

【進路講演】

実施時期：6月

内 容：最終的な進路選択に向けて

【大学訪問】

実施時期：6月

訪問大学：山口大学、山口県立大学

実施内容：大学説明、模擬講義、キャンパス見学、卒業生と語る会



[山口東京理科大学で最先端の研究に触れる]

他校の取組

平成18年度の進学チャレンジ拠点校における出前講座の実施状況を、以下にまとめた。

10講座以上の講座を開講している学校も多く、時間帯の工夫や複数の開催日の設定により、生徒一人が1講座だけでなく2講座を選択して受講できるように工夫している学校もある。

高校	実施学年	実施時期	実施講座数	受講可能講座数	学校外の参加者
岩国	1学年	3月中旬	13	1	近隣高校生
高森	1学年	2月中旬	5	1	中学生
柳井	2学年	12月初旬	10	1	
光	1、2学年	11月中旬	9	2	
下松	2学年	3月中旬		2	
徳山	1、2学年	3月中旬	15	2	保護者
新南陽	1、2学年	3月中旬	21	1	近隣高校生
防府	2学年	11月初旬	10	3	
	2学年	12月中旬	10		
	2学年	1月下旬	10		
小野田	2学年	6月中旬	15	1	
豊浦	2学年	10月中旬	13	2	
宇部	2学年	10月下旬	13	3	
下関西	2学年	10月下旬	13	2	
下関南	1学年	10月初旬	2	2	
	2学年	9月下旬	12	1	
萩	1、2学年	3月中旬	13	1	

[進学チャレンジ拠点校における出前講座実施状況]

各校における目標の達成度

上記の全14校のうち、目標を十分達成できた学校が9校、おおむね達成できた学校が5校で、出前講座は、効果的であったと言える。

各校から出された課題と今後の改善方策

- 希望を調査する段階で提示した講義テーマと実際の講義内容が、異なっていたものがあった。

講師と講義内容について詳細な打合せを行い、講義概要等を生徒に配布した上で受講希望調査を行う。

- 仲介業者に依頼すると、大学・講師の選定において、学校のねらいに沿ったものにならないことがある。

業者に依頼するとき、十分な打合せをすることにより、ミスマッチを防ぐ。

また、すべての講座を業者に依頼するのではなく、「この大学のこの学部」という強い希望のあるものについては、直接、大学等に依頼して開講することも必要である。

- 仲介業者に依頼することにより、事前準備が円滑になるが、同時に多くの講座を開講するので、開催当日の教員の役割分担、打合せを綿密に行う必要がある。

実施時期や方法について、教員間で事前に十分な検討を行う。

- ・ 進路を絞り切れていない生徒にとって、1講座だけの受講では、学部・専攻の内容を比較・検討することができない。

受講できる講座を2講座選択できるようにする。あるいは、開催日を複数日設定すれば、異なる内容の講座を受講でき、進路選択の幅が広がる。

- ・ 多くの講座で視聴覚機器が同時に必要となったため、学校内の機器では対応できず、他校から借用することになった。

同時開講に対応できるように、ハード面での充実が必要である。

- ・ 出前講座や大学訪問等の高大連携で得られたものを、どのようにして実際の入学試験(志望理由書、小論文、面接)につなげていくか。

進路学習では、「体験」だけでなく「俯瞰」を大切にしたい。そのために、学習内容をファイルした「パーソナルポートフォリオ」を作成し、3年間の学習記録や各種レポート等を時系列でファイリングしておき、第3学年で志望理由書を書いたり、面接を受けたりするときの自分史としての資料に活用する。

【ポイント】

成果

「出前講座」は、生徒が希望する専門分野に関する内容を大学の先生から直接学ぶことにより、自分の将来の姿を確認し、大学・学部等を選択する際のミスマッチを防ぐとともに、大学等で学ぶ意義を理解し、その後の高校生活や学習意欲の向上につながった。

さらに、多くの生徒が、大学等での学びには「自分で課題を発見する能力」、「その課題を自分で解決していく能力」等が求められるという、大学等での学びのスタイルを認識し、これまでの高校での学習を見直したいと考えるようになったことは、大きな成果であったと言える。

大学に入学した後、高校とは異なる講義形態(例えば時間帯や板書方法)、レポートやプレゼンテーション形式の評価方法等に大きなショックを受けることが多いが、「出前講座」において少しでも「大学ならではの学び」を体験することは、大きな知的刺激になると同時に、スムーズな学生生活を送る橋渡しにもなると考える。

また、「出前講座」を通じて、高大の教員間における交流の活性化が図られ、双方にとってよりよい関係が構築でき、相互理解を深めることにもつながっている。「出前講座」が、教育研究活動の将来にわたるネットワークづくりのきっかけとなり、相互協力の橋渡しの使命を果たしているといえる。

課題

事前指導の充実

講師と講義内容について詳細な打合せを行い、前もって講義概要等を生徒に配布することにより、その内容についてあらかじめ生徒に自主的に学習させるなど、事前指導を充実させる。

生徒主体の出前講座の実施

講師の選定、当日の司会・運営等を生徒に行わせることにより、自主性を育む。

事後指導の充実

講座受講後のレポートの中に、これからの決意や進路実現に向けた実行計画を入れることにより、自己実現のための具体的な課題を明確にさせ、今後さらに充実した高校生活を送らせる契機とする。

また、この出前講座や他の進路行事等についてファイリングした資料については、第3学年での進路決定及び志望理由書等の作成時に活用する。

高大連携「英語ゼミナール」への参加 (「大学での集中講義受講」:下関南高校)

概要

現状

大学での学問に対する認識不足
進路・学部選択に対する迷い

めざす姿

大学の講義の実態を知り、より高いレベルの学問に関心をもたせる
特に英語に対する興味・関心が高い生徒に、語学への学習意欲喚起を促す

取組

入
学

進路ガイダンス
オープンキャンパス

自分の将来について具体的に考え、進路意識を徐々に高める

出前授業
集中講義受講

自己の適性を把握し、進路選択の一助とする

希望
進路の
具体化

「英語ゼミナール」実施の経緯と企画の位置付け

【導入の背景】

平成15年度の単位制導入とともに、「学力向上フロンティアハイスクール事業」の中で、「進路意識の高揚と学習意欲の向上」に取り組んできた。さらに平成18年度からは「進学チャレンジ拠点校」として、新たな取組を模索する中で、隣接する梅光学院大学が市内の高校と「高大連携教育夏期集中講義」を実施しているということで、その趣旨に賛同する形で本校も連携協定を結ぶに至った。

【企画の位置付け】

本校では、1年生から総合学習やLHRを利用

した「進路ガイダンス」や「出前講義」、さらに夏季休業中のオープンキャンパス参加などを実施している。

こうした活動を通して、生徒は上級学校のイメージをある程度形成していくと考えられるが、実際に「大学」の生の雰囲気を感じながら、大学生と同じ時間帯で講義を受けることにより、より一層の進学意欲を鼓舞することが可能ではないかと考え、まず手始めに英語に関する内容について、希望者による集中講義への参加を実施することとした。

実施の流れと内容

【年間計画】(平成18年度)

5月 連携協定書の調印

- 6月 高大連携事業の保護者への案内配布と参加希望者の募集（学修許可願の提出）
- 7月 大学への学修願書の提出
大学側が承認の決定を高校側に通知
- 8月 集中講義の開催
事後アンケートと反省
- 3月 高大連携事業の反省会
（大学側と参加高校の教員による）

【実施の概要】

1 目的

大学が高校生に対して多様な学習機会を提供し、大学教育に触れることにより、学習への動機付けや幅広い学力の向上を図るとともに、自らの適性を見い出し、将来の進路や職業選択につなげることをねらいとする。

2 講師及び講義内容

1日目

A 堤 千佳子

「『Harry Potter』原書入門-原作・映像を用いて-」

B Hudson Murrell

「Movies:A Good Way To Learn English」

2日目

C 森作 常生

「Internet と英語」

D 戸倉 真知子

「英語史」

3日目

E 加島 康司

「英語の興味ある現象 - 付加疑問文を例に社会言語学の一面を紹介 - 」

F John Wilson

「Folklore : Do the Hokie- Pokie」

4日目

G 松尾 文子

「英語を旅しよう」

H 吉津 成久

「映像と音楽で知る 妖精の国アイルランド」

5日目

I 渡邊 浩明

「通訳式で学ぶ英会話」

J 向山 淳子

「話すための英文組立て方法」

6日目

K 樋口 紀子

「異文化入門」

L 新山 美紀

「児童英語教育の意義を考える」

7日目

M Frank Beiley

「Tongue Twisters and Pronunciation」

N 中村 幸子

「英語音読の楽しみ～名詩、名文を読もう」

8日目

O Linda Spetter

「American Folk Songs」

P 小野 良美

「ビートルズの詩を読む」



[講義風景]

【受講規定について】

- 1 欠課した者は欠課届けを提出する。
- 2 各講座の1 / 3 (30分)を超えて講義を欠いた場合は欠課とする。
- 3 全講座に出席した生徒に修了証書を発行する。
- 4 受講者は、当該大学の図書館を利用できる。

【単位認定について】

夏季休業中の大学での集中講義を履修することにより、高校で単位認定する。

また、その単位認定に関しては、大学から受講生の履修状況を高校に通知し、受講内容を勘案した上で、高等学校側が科目の履修とみなし、高校の単位としての認定をしている。

単位認定条件

大学での集中講義の履修状況が良好な者
(全講座の3分の2以上の出席者)

授業時間の計算

大学での授業時間 90分×16

本校での事前事後指導 60分×5

合計 1740分

(35単位時間分に換算)

事後処理

認定された単位は、1年「英語」、2年「英語」、3年「リーディング」にそれぞれ1単位分を増加することとする。

アンケート結果等について

【参加者について】

平成18年度...36人

(1年19人、2年13人、3年7人)

平成19年度...26人

(1年19人、2年5人、3年2人)

総数は減少したが、1年生の参加者は安定しており、今後も一定数の参加者を確保できると考える。

【アンケート結果と概評】

アンケートの結果、高校の授業とは異なる英語の奥深さや楽しさを実感したという意見が多く聞かれ、所期の目的は概ね達成できたといえる。特に、ネイティブの先生方の授業は新鮮だったようで、高校でのオーラル・コミュニケーションの授業とは異なる展開が、英会話の楽しさや、逆に聞くことの難しさを実感させたようである。

また、受講者の30%近くが英語にかかわる進路を希望していたが、昨年度はこの講座を受講した7人の3年生のうち3人が英語関係の進路に進んだ。

それ以外の進路を希望する生徒も、大学の講義に関心をもって受講したことで、大学進学への意識を高めるのに少なからず効果があったと言える。

【生徒の感想文より】

私が「英語ゼミナール」を受講した理由は、英語力の向上と、大学で実際に行われる授業を体験

してみたいと思ったからです。

受講してみて大学と高校の違いを強く感じました。それは、1講座の講義時間が長い上に、英語学・英語文学の内容は高校の受験英語と違い、語学の面白さを体験するに十分だったからです。

特に梅光学院大学には、英語専門の先生方、特に外国人の先生方が多数おられ、生きた英語に親しめたことはいい経験になりましたし、短い期間ではありましたが、将来「日本語教師」として外国人とかかわりたいと思っている自分にとっては、語学の奥深さと大学という場所への憧れを深めることができた貴重な体験でした。

他校の取組

単位認定を前提とした大学での集中講義参加の事例ではないが、特定の大学を訪問して、ガイダンスや施設見学と合わせて講義受講が実施された例がある。

【小野田高等学校】

「山口東京理科大学セミナー」

概要

理科離れを防ぐとともに、理系大学への進学意識を高めるために、希望生徒(第1学年対象)に山口東京理科大学での体験学習や施設見学などの研修を実施した(平成18年度)。

評価

実施内容は第1学年の状況に合っており、成果は上がった。文理選択を控えた生徒にとって、コース選択上参考になったと報告されている。

【ポイント】

事前指導の確実な実施について

興味本位の安易な気持ちで参加するのではなく、あくまでも学習の一環として真剣な気持ちで取り組むよう意識させることが大切である。また、学校外の場所において実施されるものではあるが、あくまでも高校生らしく礼儀正しい態度で、会場のルールに則った生活態度で臨むように指導することも必要であろう。

内容について

数多くのバラエティーに富んだ講義が実施されたが、講義内容は高校1年生にも理解しやすいように工夫されており、英語を楽しく学ぶことに主眼が置かれていた点では好評であった。生徒の受け止め方としては、人気のある講座とそうでない講座の差が現れたが、それぞれの講座の特色としてやむを得ないことと考える。

進路との関係について

平成18年度に参加した3年生7人のうち、3人が英会話や欧米文化の研究に関する大学・学校に進学した。このように少数ではあるが生徒の進路意識と本事業が結びついたことは、生徒の進路選択に何らかの影響を及ぼしたものと考えられ「将来の進路や職業選択につなげる」という目的が達成されたと見えよう。

日程について

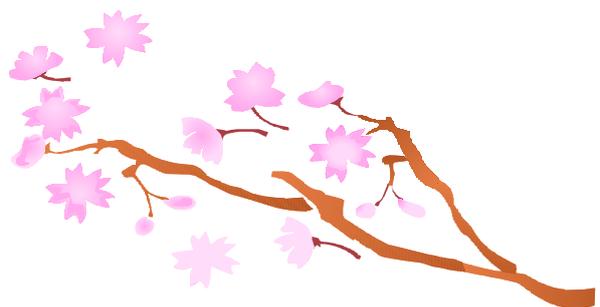
夏季休業中の連続した集中講義ということで、他大学のオープンキャンパスなどの日程と重なり、欠課の数も少なくなかったことは残念である。また、昨年度は出席不良で単位不認定の者も出たので、生徒への事前指導の徹底などについても課題が残った。

今後の展望について

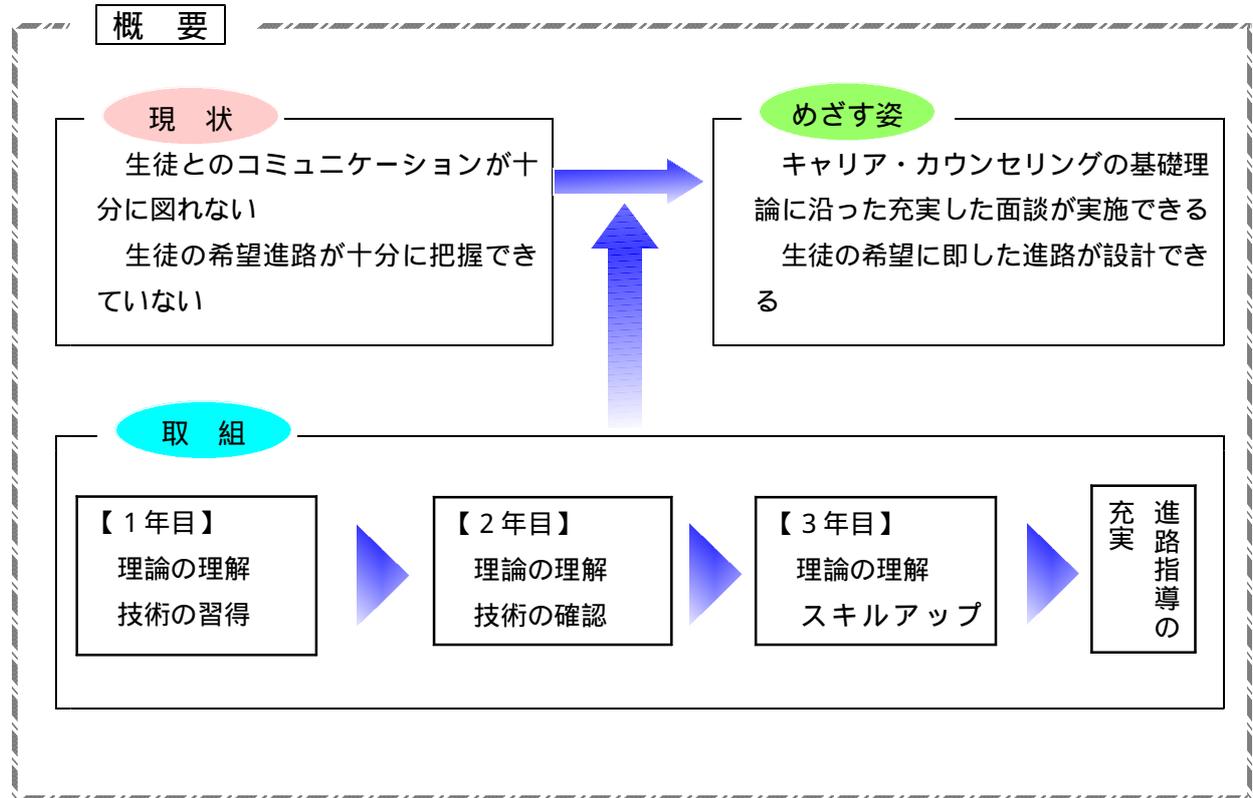
高校の単位認定と結び付けているため、他学部の講義を組み入れることは難しい。ただ、英語以外にも生徒が興味・関心をもつ講座があると考えられるので、他学部において授業を体験できる連携も望まれる。

3章 教員の進路指導力を高める取組

- 1 カウンセリングの技術を向上させ、生徒の夢を実現する
- 2 コーチングを進路指導に生かす
- 3 教員の小論文の指導力向上をめざして
- 4 大学入試問題を研究し、指導力の向上を図る
- 5 指導体制の見直しと教員の意識向上をめざして



カウンセリングの技術を向上させ、生徒の夢を実現する (「キャリア・カウンセリング研修」：高森高校)



キャリア・カウンセリングの概要

【キャリア・カウンセリングとは】

個人のキャリア形成にかかわる援助や相談などの活動をさす。具体的には、自己理解を深めることにより自らの可能性を開拓するなどの進路に対する意欲を高めるための援助、進学情報の提供や職業紹介などの具体的な進路選択のため援助などがある。

【キャリア・カウンセリングの必要性】

本校では、教科及び進路の二つの観点から教員の指導力の向上を図っている。教科指導力については、授業公開、研究授業、授業評価及び問題作成研究などを通して向上に努めている。また、進路指導力の向上を図る手だてとして、キャリア・

カウンセリングの研修に取り組んできた。

その際、目標として、次の3点を設定した。

カウンセリングの技術を習得し、生徒一人ひとりの夢の実現へと導くためのきめ細やかな指導の在り方とつながりを大切にするマインドをもつ。

多様化している生徒の希望に対し、その実現を支援できる人間関係を構築する。

他校、家庭、地域及び産業界との連携を図る。

取組の概要

1 計画

平成16年度から進学チャレンジ拠点校の取組の一環として、3年間を1クールとして生徒一人ひとりの夢の実現を図るためキャリア・カ

ウンセリングの理解と技術の習得を目的として、3年間を通して同一の外部講師による研修を計画した。

また、本校だけでなく県内の各学校から校種を問わず参加できる体制とし、研修を深めることとした。

2 講師

追手門学院大学人間学部教授

三川 俊樹 氏

(講師について)

「生涯発達における精神的健康の予防的・開発的援助」を基本的な研究テーマとして、学校カウンセリングの領域では生徒指導・進路指導・教育相談における実践的展開を中心に、産業カウンセリングの領域ではメンタルヘルスへの取組のほか、生涯を通じたキャリア形成の援助をめざすキャリア・カウンセリングを研究している。

実践活動として、学校不適應への予防的援助や、コンサルテーションの在り方の探求、また、教育活動としては、学校カウンセリングの理論と技法、ストレスの予防とその援助、こどもの成長と発達、子育て及び家庭教育支援などをテーマにした講義や講演会を展開している。

【平成16年度(1年目)】

1 日時

平成17年3月3日(木)

13:30~16:00

2 テーマ

キャリア・カウンセリングの理論の理解と技術の習得

3 講義

(1) キャリア・カウンセリングの定義

(2) 学校における「進路指導の6領域」

a 生徒理解と自己理解

調査や検査、面接、観察等をとおした、組織的・計画的な生徒に関する資料の収集
教師の適切なフィードバックによる生徒の自己理解の深化

b 進路情報の収集・整備とその活用

職業、上級学校、社会状況及び経済動向

に関する適切な進路情報の分類・整理、活用

c 啓発的経験の獲得

探索的・体験的経験による自己理解や進路情報の現実吟味

d 進路相談(キャリア・カウンセリング)の実施

適切な進路選択のための問題解決能力や自己指導能力の開発を促進する援助活動

e 就職、進学先の選択、決定の指導及び援助

最もふさわしい進路先を自主的・主体的に選択することを援助する活動

f 卒業後の追指導(フォローアップ)と評価

卒業後の適応・進歩・向上のための指導・援助活動と、在学中の進路指導の成果の評価

(3) キャリア・カウンセリングの基本的なステップ

a カウンセリングの開始

カウンセリング関係を樹立する。

b 問題の把握

来談の目的、何が問題なのかを明確にする。

c 目標の設定

解決すべき問題を吟味し、最終目標を決定する。

d 方策の実行

選択した方策を実行する。

e 結果の評価

実行した方策とカウンセリング全体について評価する。

f カウンセリングとケースの終結

終了決定し、クライアントに伝える。

【平成17年度(2年目)】

1 日時

平成18年3月3日(金)

13:30~16:00

2 テーマ

キャリア・カウンセリングの理論の理解と技術の確認

3 講義

- (1) 1年目の内容の確認
- (2) 多様な相談場面の理解
 - a 相談場面の設定
 - b 相談内容の多様性
- (3) 効果的な相談関係をつくるために
 - a 自分自身の見方・考え方を知る
(例)「私、友人が少ないんです」
 - b 不安や葛藤の二面性(多面性)を理解する
 - c 相手の求める人間関係を理解する
- (4) 自分の対応のタイプを知っておく
 - a 受容・共感
 - b 指示・助言
 - c 自己開示
- (5) セルフ・モニタリングと記録ノート



[演習風景]

【平成18年度(3年目)】

- 1 日時
平成19年3月14日(水)
13:30~16:00
- 2 テーマ
キャリア・カウンセリングの理論の理解とスキルアップ
- 3 講義
 - (1) キャリア教育とキャリアカウンセリングの位置付け
 - a キャリア教育とは
児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形

成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

- b キャリア発達の支援という視点
発達(発達段階)に沿った系統性(計画的・継続的)
 - c 個別のキャリア発達支援としてのキャリア・カウンセリング
適切なコミュニケーション
 - d ガイダンスとカウンセリング
進路指導と進路相談・生徒指導と教育相談
- (2) キャリア・カウンセリングの活性化のために
 - a 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援
 - b 教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成
すべての教員がキャリア教育の本質的理解を共有する。
 - c 教員の行うキャリア・カウンセリング
 - (3) 適切な理解と対応のポイント
 - a 正確な理解 適切な対応
「なおそうとするな、わかれようせよ」
 - b 言葉以外にも注意
「ニュアンス・含み、表情などに注意」
 - c 先入観(知識・経験)にとらわれない
「『わかったつもり』の落とし穴」
 - d 「出会い」のカラクリの理解
「人は、過去の誰かを通して人に出会う」



[視聴覚教材を用いての演習]

4 参考資料

キャリア教育の推進に関する総合的調査研究
協力者会議報告書(平成16年1月28日)

分析・評価

- 1 県内の高等学校及び近隣の中学校から3年間でのべ115名の先生方が研修を受講した。これにみられるように、キャリア・カウンセリングに対する関心は高い。
- 2 ビデオ教材などを使用することにより、視覚的に習得することができるよう配慮された演習などは、非常に効果的であった。また、その後のロールプレイングによって、実際にカウンセリングを行う際の留意事項を確認できた。
- 3 研修を3年間継続することによって系統立てて実施することができたことは、参加者の研修に対する満足度の高さにつながっている。また、キャリア・カウンセリングやキャリア・ガイダンスの概念が明確となり、実践へとつながる形で研修できた。参加者のアンケートからも一定の成果を上げることができたことがわかる。

【アンケート結果】

自分が考えていたキャリア・ガイダンスの確認となった。

我々教員は生徒の話を聞く前にすぐ指示・命令してしまう。自省したいものである。

安易に大丈夫と言ったり、みんな同じ悩みを抱えているなどと言ったりするべきではないということが分かった。

いわゆる「面談」として「1対1で時間をとって」という形でなくても「通りすがりの声掛け」「掃除しながらの話」もキャリア・カウンセリングだとお聞きして、普通にやっていることもあって安心した。

自分のカウンセリングを振り返ることが大切だということがよく分かった。生徒の反応をフィードバックさせることが自己理解や他者理解につながることも分かった。

【ポイント】

成果

- ・ 各学年とも年5回以上、定期的実施しているキャリア・カウンセリングについて、質的な向上が図られ、進路未決定者数の激減につながった。
- ・ カウンセリングの中から生徒との信頼関係を築きながら、生徒の小さな変化や思考をとらえ、適切な支援を行うことが意識付けられた。
- ・ 生徒の自発的な気付きを大切に、多くを指示するのではなく、受容的な対話が重要であるという認識がもてるようになった。
- ・ 全教員がキャリア・カウンセラーという意識をもつようになった。

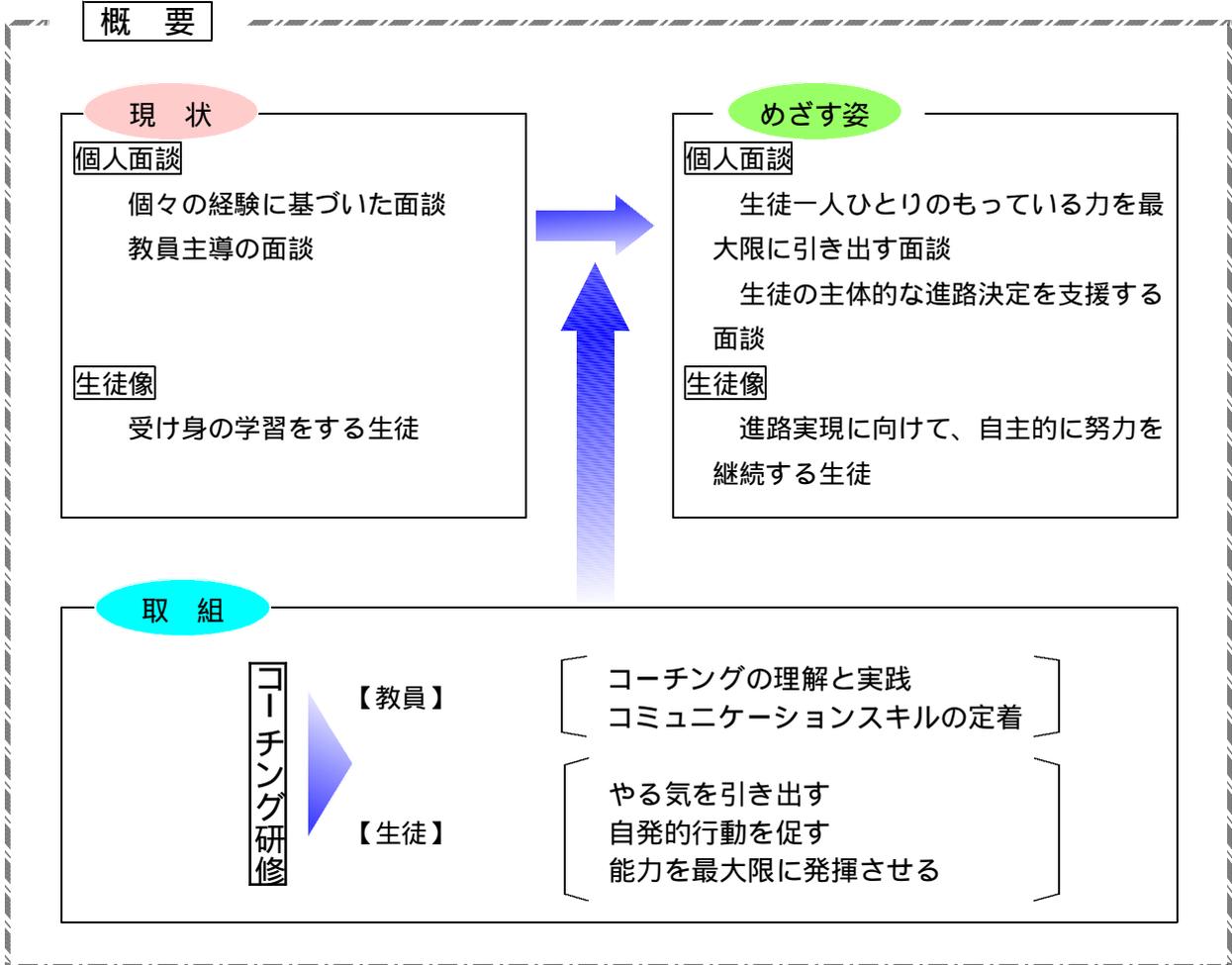
課題

- ・ 日常の教育活動において、様々な場面でカウンセリングを応用していけるよう、今まで以上に研修を深めていく必要がある。
- ・ この研修を各校が実施するには、人材の確保が最大の課題である。キャリア・カウンセリングに造詣が深い人を探すのは非常に困難であり、本校の場合も、大変御多忙である三川教授の御厚意によって実施できているというのが実情である。

実施上の留意事項

- ・ 今後、研修内容を充実させるために、事前に参加者にアンケートを実施したい。また、前年度との重複を少なくするためにコース分けをするなどの工夫を考えている。
- ・ アンケートの結果にもみられるが、演習の時間を多くとってほしいという意見があり、具体的なガイダンスの場面を設定し、それについての意見交換などを多く取り入れていきたい。

コーチングを進路指導に生かす (「コーチング研修」: 防府高校)



コーチング研修導入のきっかけ

普通科においては、ほとんどの生徒が4年制大学、特に国公立大学への進学を希望している。そこで、第1学年から継続的に個人面談を行い、生徒の希望、適性及び学力を総合的に判断して進路実現の支援を行っている。しかし、個人面談に関して研修する機会はほとんどなく、教員一人ひとりの経験に基づいて行われているのが現状であり、効果的な面談に関する研修は、近年の課題の一つであった。

一方、生徒は、全体指導の場では、指導内容を自分のこととして受け止めることができないが、

個別指導をすると、素直に耳を傾ける傾向にある。また、進路実現のために、自ら積極的に勉強に取り組む生徒が減り、勉強の仕方が受け身になる生徒が増加している。

防府高校における進路指導の特徴は、個人面談、個別添削指導など、個に対する指導にある。このような状況の中、一人ひとりの夢の実現のためには、この長所を強化する指導が重要であると考えた。

そこで、生徒のやる気を引き出し、自ら考え、行動し、結果を出せる生徒を育てようとするコーチングの手法は、本校の現状を打開するために最も有効であると考え、教員対象に研修を実施することとした。

コーチング研修の実施準備

【講師について】

研修計画立案の際、日時・会場等の検討は当然必要であるが、重要なことは、研修効果を上げるための講師の選定である。また、その講師をどこから招へいするかによって、経費の問題も生じてくる。

本校の場合、コーチングのコーチとしてフリーペーパーに紹介されていた藤川深雪氏(周南市)に依頼したところ、山口市在住の温品富美子氏を紹介された。藤川先生からあらかじめ温品先生に連絡をしていただいたおかげで、温品先生との交渉もスムーズに進み、講師を依頼することとなった。

【事前打合せ】

研修効果を高めるために、事前打合せを実施した。その際、本校の現状と課題、講演のねらい等を十分に説明し、成果が出るような内容の検討を依頼した。その結果、相互実習を導入し、講義の内容を体験しながら、知識・技能を確実に身に付けることができるようなものにしていくこととした。

コーチング研修の実際

【講演の概要】

1 プロローグ

2 コーチングとは

コーチングの3原則

- (1) 100%相手の味方になる
 - (2) 答えは相手の中にある
 - (3) 効果的な質問をし、相手のやる気を引き出す
- コーチングをするときのポイント
- (1) 複数の視点をもたらす。広い視野をもたらす。
 - (2) 引き出す。考えさせる。
 - (3) 聴く。質問する。

3 教職員がもつリーダーシップ能力の種類

リーダーとしてのスタンス

「コーチ」

相手の中に既にある答えや能力を引き出す人

「ティーチャー」

知識を正確に伝える人

「コンサルタント」

経験と知識を活かして相手に最良の解決策を提案する人

「カウンセラー」

問題や悩みを抱える相手の相談にのる人生徒のモデルとなる

ビジュアルポイントを磨く

4 相手の気持ちを引き出す聴き方

先入観を捨てる

相手の立場を理解して、共感する思いやりの気持ちをもつ

5 教職員としてのほめ方～承認の仕方～

相手の反応を見逃さず、やる気を引き出す言葉をかける

6 目標を明確にするための質問の仕方

オープン・クエスチョン

=相手に自由に考えさせる質問

- ・ 新しい発見や気づきを引き出しやすい。
- ・ 相手自身が納得する答えが出やすい。

クローズド・クエスチョン

未来質問

=相手の可能性に焦点を当てる質問

- ・ 相手の想像力を刺激し前向き・創造的なアイデアを引き出す。

過去質問

肯定質問

=肯定的な表現による質問

- ・ 相手の意識を肯定的な「前向きモード」にする。

否定質問

【講演の要点】

「コーチング研修」は「聴き方講座」である。

「あいづち」を打ったり、相手の話を「リピート」したりして、話を引き出す。

コーチするときは、相手と対等であるという気持ちを忘れずに話を聞く。

「はい」か「いいえ」でしか答えられないクローズド・クエスチョンではなく、相手に自由に考えさせるオープン・クエスチョンを意識する。

コーチング研修を終えて

【研修後の声】

個人面談の重要性を再認識した。

面談では「ティーチング」をやや抑えて、生徒自身の置かれている状況をまず聴き、「どうやったろうまくいくと思うか」というふうに、生徒自身に考えさせる質問を取り入れるようになった。

相手の話をじっくりと聴くこと、相手に語りかけることを心がけるようになった。

「Iメッセージでほめる」や、「オープン・クエスチョンをする」など、ほめ方や質問の仕方に気を付けるようになった。

面談する生徒の個性を見極めるとともに、どういうほめ方、アドバイスの仕方がよいかということ意識するようになった。

よいタイミングで生徒のコーチができるように、日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にしたい。

コーチをするときは、相手と対等であるという気持ちを忘れずに、生徒の話をしっかりと聴くことに気を付けるようになった。

「5分間でもコーチングはできる」という講師の言葉で、何気ない生徒との会話も大切にできるようになった。

他校の取組

【コーチング研修】

山口高校

「教育現場におけるコーチングについて」

- ・ 講師
桜井一紀氏
(株)コーチ・トゥエンティワン
取締役副社長
- ・ 実施日
平成17年12月2日(金)

豊浦高校

「コーチング研修

～コーチングスキルを進路指導に生かす～」

- ・ 講師
温品富美子氏
(有)K&Y
- ・ 実施日
平成18年12月5日(火)

岩国高校

「願いを叶える目標達成へ

～未来教育コーチングの基本と応用～」

- ・ 講師
鈴木敏恵氏
国立大学法人千葉大学教育学部特命教授
- ・ 実施日
平成19年3月5日(月)

小野田高校

「コーチング研修」

- ・ 講師
久田佳孝氏
河合塾
- ・ 実施日
平成19年3月14日(水)

【その他の研修会】

高森高校

「キャリア・カウンセリング研修」

詳細は64ページ参照

柳井高校

「学習指導・進路指導に関する学年別研修会」

- ・ 目的及び概要

生活・学習状況調査を含む基礎学力テストの結果について検討し、以後の個人指導等を充実させるための資料とする。模試業者の担当者からも説明・助言を受けて、データの読み取りのポイント等について研修した。

- ・ 分析及び評価

集まって検討することでデータに確実に目を通す機会となり、また、テストを作成した業者から作成の意図等に基づいた説明を受けることで資料の読み取り方への理解が深まった。データの裏付けをもって個々の生徒の指導に臨めることは有意義である。

新南陽高校

「大学が求める高校生像
～ 高大連携の視点から～」

- ・ 目的及び概要

大学が求める高校生像について、大学側の考え方を聞くことで、学習・進路指導の在り方を考え、今後の生徒への進路指導に生かす。

- ・ 分析及び評価

大学側の考え方を聞くことで、今後の進路指導の在り方（特に推薦入試対策）における大きなヒントを得ることができた。

宇部高校

「進学チャレンジに係る教員研修」

- ・ 目的及び概要

教員の資質能力の向上をめざす。

生徒の個性を生かした進路指導の推進、生徒の自主性を引き出す生活指導、また生徒が学校行事等へ積極的に参加できる校内体制の確立等の重要性について学んだ。

- ・ 分析及び評価

この講演から、教員の進路指導等の意識向上に役立ったのはもちろんのこと、教員の意識、積極的な取組が学校を変え、活性化させていくことが改めて認識された。

【ポイント】

実施上の留意事項

研修場所・時間

コーチング研修は、多くの場合、実習を含めて行われる。例えば、隣の席の人とペアになり、相互に質問を行う等である。そのため、研修場所も動きやすい会場の方がよい。時間は実習を伴うこともあり、最低でも2時間が必要となる。

短時間で効果のある研修

2時間程度のコーチング研修では、「コーチングとはこういうものです」という紹介程度の研修しかできないが、多くの教員にとってこれまでにない新鮮さを感じられる研修で、効果の高い研修の一つになると考える。ただし、コーチングスキルを駆使した面談を行う能力を身に付けるためには、相当量の勉強と研修が必要である。

研修の経費

県外から講師を呼ぶ場合、多額の費用が必要となる。事前に経費に関することについても十分検討する必要がある。

参考 <連絡先>

桜井一紀 (株)コーチ・トゥエンティワン <http://www.coach.co.jp/>

温品富美子 (有)K & Y tel 083-928-5508 メールアドレス kandy@c-able.ne.jp

教員の小論文の指導力向上をめざして

(「小論文指導研修会」：下松高校)

概要

現状

小論文への理解が十分でなく、また指導力に差がある

本校教育における小論文学習の位置付けが明確にされていない

めざす姿

近年の小論文入試の特徴をつかみ、学校全体で指導に取り組む

受験のためだけでなく、社会を生きるスキルとして1年時から積み上げていく指導をめざす

取組

外部講師による講演

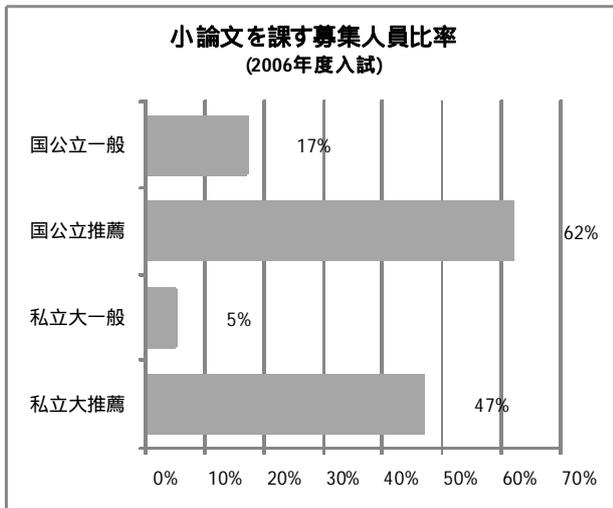
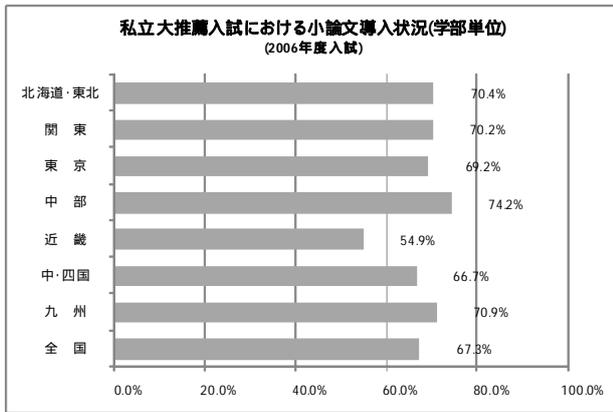
小論文の出題例をもとに、社会的テーマについての分析・解説を聴く。具体的な事例により、指導方法のポイントを理解する。

小論文指導の実施

社会の現実・実態について正確な知識をもつことの大切さを理解し、小論文指導に対する認識を共有した上で全校体制による小論文指導を実施する。

大学入試における小論文

大学入試における小論文は、入試科目の一つと



して定着してきている。更に、入試の多様化に伴い、推薦入試やAO入試の定員枠が拡大する傾向にあることを考えると、小論文は大部分の生徒にとって入試科目となってきている。

グラフで分かるように、この流れは国公立大学において顕著である。国公立大学を希望する生徒は、志望校群の中のいずれかの試験に小論文が含まれる可能性が高いので、小論文に対応できる力を身に付けておくと、進学先の選択肢が広がり、柔軟な対応が可能になる。また、私立大学の推薦入試においても、試験に小論文が課せられる場合が多い。

このように小論文の重要性は高く、高校現場では全校で小論文指導に取り組む体制が望まれる。そのための方策の一環として、小論文を専門とする外部講師の講演は重要である。

小論文指導研修会

【実施までの流れ】

1 共通理解

本校では第1学年から第3学年の1学期まで、定期的に小論文学習を行い、学習内容の積み上げができるようにしている。

全校で小論文指導に当たることをめざしており、専門の外部講師を招いての講演は、小論文指導の知識を共有し、各教科の協力体制を後押しする重要な機会である。

2 講師

生徒は第1学年から第3学年の1学期まで、各学期に全員が小論文テストを受ける。また、専門家による小論文指導の講演を数度聴講している。

今回、小論文テストの作成をした業者の講師による、テストの結果をふまえた講演を1・2年生対象に計画し、教員対象には時間を変えて、教員対象の小論文指導研修会を依頼した。

【実施内容】

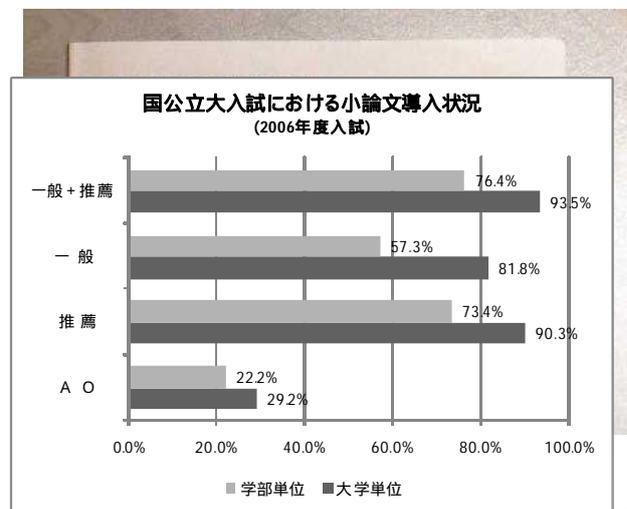
1 実施日 平成18年12月12日(火)

[研修会資料]

2 参加者 教員30人、近隣校教員5人

3 目標及び概要

2006年度入試における出題例をもとに、現在最も重要な社会的テーマについての分析・解説を聞くことにより、最新の小論文のトレンドや、押さえるべきポイントを理解する。



講演内容

(1) 小論文入試の出題傾向

- a 出題の中心は社会問題
 - b 社会問題を押さえるための最大のソースは新聞。特に5月～9月は出題のベースになる。
- (2) キーワードによる小論文のトレンド
- a 「格差」「フリーター」や「パラサイト・シングル」「ニート」「下流社会」「希望格差」
- (3) 理系の小論文について
- a 理科・数学などの公式・定理などを使って論証するタイプ
 - b 科学技術の進歩と社会の在り方を考えさせるもの
- (4) 採点基準のポイント
- (5) 良い小論文を書くために
- (6) 添削のポイント
- a 常に生徒との対話を意識して行う。
 - b 細かい部分にこだわるのではなく、生徒の「言いたいこと」をつかまえ、コメントする。
 - c よいところを見付け、積極的に評価する。
 - d 不完全・不明確な部分があっても、単純に否定しない。問題点を「問い」として投げ返す。
- 5 分析・評価

「格差」等のテーマについて、かなり掘り下げた分析・考察を共有することができた。われわれ教員が生徒の進路を考えると、現代の社会の現実、実態等について、正確な知識をもつことの大切さを改めて実感した。

また、テーマの内容を考えると、国語科はもちろん、すべての教科担当が小論文指導に対する知識を共有する必要があることを再認識できた。

【実施後】

小論文は、入試のためだけでなく、自分の言葉を持ち、社会の中で生きていくためのスキルを学ぶものとして第1学年から積み上げて行くことの重要性が認識でき、教員の連帯感が高まった。

教員が生徒を指導する際にも、今回の内容を生かした助言も見られるようになった。次のアンケ

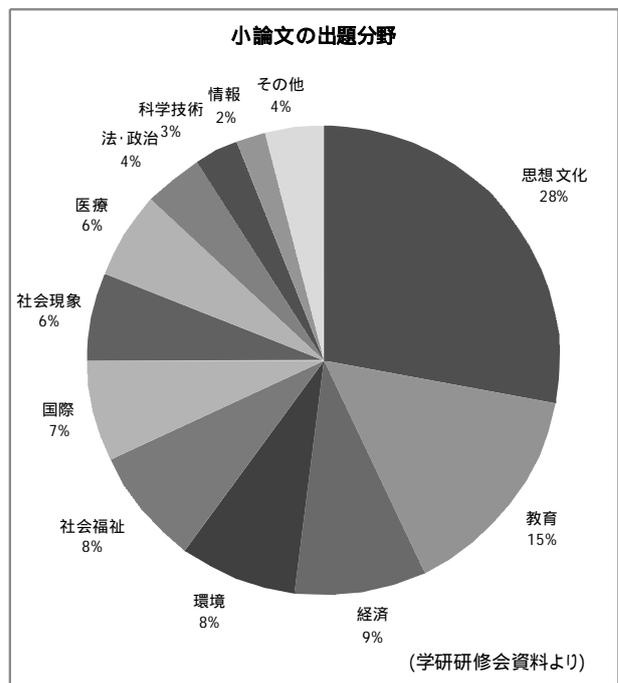
ートにみられるように、小論文が専門の講師の講演は参考になり、好評であった。

【アンケート】

年々小論文の重要性が高まっているように思う。今回も出題のトレンドという言葉聞いたが、このトレンドこそが現代の高校生、ひいては現代社会そのものに必要であると考えられているということである。そういう意味で小論文は最も現実の社会に近い学問であり、「生きる」ことを最初にして最高の目的とする高校生にこそ必要だといえるだろう。我々も同様に時事問題をしっかりとらえ、指導に生かさなければならぬと感じた。

考え方のポイントなど丁寧に教えて頂き、大変分かりやすかった。生徒には、身近なところで様々なことについて考えさせておく必要があるように思う。

小論文指導というよりも、日常において私自身がいかにか社会情勢の変化に疎いかということを感じた。社会変化（価値観、システムの変化）を本質的に理解して、生徒理解、生徒指導に生かしていかなければならぬと感じた。格差社会、下流社会、下層社会など、私自身考えさせられる。



小論文が社会問題について考え、意見を書く

ものであるということが再認識できた。そして今回は、現在何が問題になっているのか、キーワードを取り上げて解説していただいたことで、漠然としかとらえていなかった事柄を意識的に受け止めるきっかけになった。

他校の取組

【岩国高等学校】

- 1 実施日 平成19年1月24日(水)
- 2 参加者 岩国高校教員
近隣校教員13人
- 3 概要
小論文指導の経験豊富な外部講師を招き、小論文についての基礎知識および添削指導のポイント等の講演を聞いた。小論文で試される能力として次のものが挙げられた。
ア 自分なりに問題をとらえる主体的姿勢
イ 問題発見能力
ウ 問題探求能力(論理的分析展開力)
エ 資料読解能力
近年は要約説明力に重点が移っている大学が多い。
オ 専門分野に関する一定の知識や理解
以前に比べ、入学前でも求められようになった。
カ 自己表現能力(文章表現力)
ただし、理系の小論文ではイ、ウ、オと、理科・数学の教科学力及びアイデアの提示力が柱となっている。

最近の小論文入試の傾向が系統だって説明され

[小論文指導研修会の様子]

た。具体例による添削指導の解説では、「もう一步、内容に深みがあったらよかった」というような漠然とした感想に留まらず、「どこをどう深めるかが具体的に指摘される必要がある」という添削の姿勢が強調された。また、例題の中の、「あらかじめ用意した論述パターンに、強引に結び付けようとするものが後を絶たない」という指摘も考えさせ

られた。



【宇部高等学校】

- 1 実施日 平成17年2月17日(木)
- 2 参加者 宇部高校の教員以外に近隣校の教員5人、大学入試の二次試験で小論文が必要な3年生52人。
- 3 概要
教員の小論文指導力の向上と、大学入試の二次試験における小論文対策として、予備校の講師による小論文セミナーを開催した。
「合格を勝ち取る小論文の書き方について」という演題で、二次試験で小論文が必要な生徒のみが参加したことにより、中身が濃いセミナーとなり、質問も活発に出された。

【その他の実施校】

- ・高森高等学校
- ・徳山高等学校
- ・防府高等学校
- ・豊浦高等学校
- ・光高等学校
- ・新南陽高等学校
- ・小野田高等学校
- ・萩高等学校 ほか

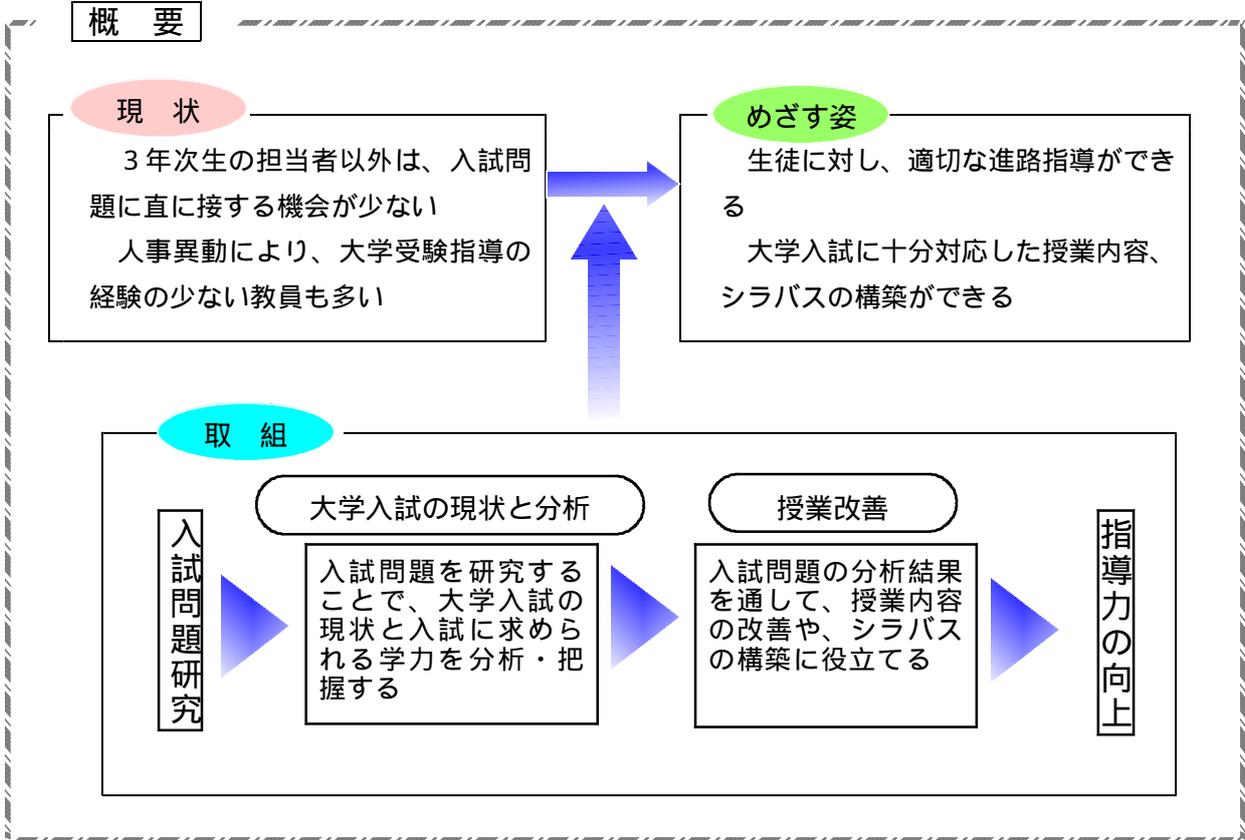
【ポイント】

小論文を専門に研究している講師の話聴くことは貴重な機会であり、どの研修会も有意義で、参加者には好評である。

実際に実施するに当たっては、講師の手配が課題となる。予算に余裕があり講師料等を負担できる高校を除いては、小論文模試を実施し、その会社に生徒の指導と教員対象の研修を依頼する方法がある。ただし、すべての学校で講演が実施できるわけではないので、小論文指導研修を実施する高校が近隣校に案内して、多くの先生方に研修の場を提供することは意義がある。

大学入試問題を研究し、指導力の向上を図る

(「入試問題研究」:岩国高校)



大学入試問題研究の必要性

【組織的に指導力向上を図る】

毎年のようにめまぐるしく変化する受験事情に対応し、生徒に的確なアドバイスを与えることができるようになるには、教師が大学の入試問題に精通しておく必要がある。しかしながら、本校のような普通科高校といえども、入試の現状に精通した教員ばかりとは言えない。人事異動により、進学指導の経験の少ない教員も多く存在している。また、1・2年次生のうちは、教科書中心の基本的な学習指導であるため、3年次生を担当していなければ、大学入試問題を直接扱う機会が乏しいのが現状である。その結果、3年次生を受け持つようになって初めて、入試問題を見るといった場合も少なくない。3年次生を受け持つようになっ

て始める入試問題研究では、1・2年次における的確な進路指導や学習指導は望めない。また、入試問題研究を個人に依存しては、数名のカリスマ的な教師は現れても、組織的に見て、その学校が進路指導に十分対応しているとは言えない。全教員が大学入試問題について研究し、入試の現状を把握しておくような体制づくりにより、学校全体の大学受験に向けた指導力向上を図ることが必要である。

【入試問題研究をシラバス作りに生かす】

大学入試問題を研究することで、大学入試に求められる学力を分析、把握することができる。つまり、高校を出る生徒に大学側が求めている力、言い換えれば、大学進学に当たって高校3年間で身につけさせなければならない力を把握することができる。そのため入試問題の研究は、教師にと

って、平素の授業の内容や展開などを考え直すよい機会となり、授業改善につなげることができる。また、3年間を見通したシラバス作りに生かすことも可能で、教科によっては、科目や学年を縦横に関連付けた指導も可能となる。

【研究の成果を生徒に還元する】

入試問題研究は、教員の指導力向上に寄与するだけでなく、研究成果を一つにまとめることで、生徒に還元することができる。本校では、各教科の研究結果を冊子にまとめて各HR教室に配布している。3年次生にとっては、志望する大学の研究とあって、大変貴重な情報源となっている。1・2年次生にとっても、志望する大学の傾向と対策を読むことができ、大学受験を意識し、準備を始める良い刺激となっている。特に、生徒に「自分の学校の先生が積極的に自分たちのために入試問題研究をしてくれている」といった印象をもたせることになり、生徒の学習意欲を育むだけでなく、教師に対する信頼感も生むことにつながっていると感じる。

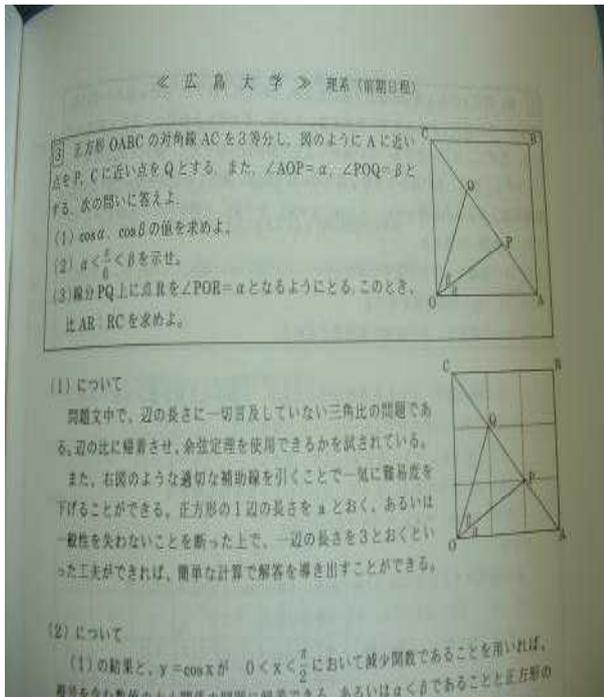
入試問題研究実施の流れ

以下のような流れで入試問題研究を進めている。

- 4月 進路指導部から、年度初めの職員会議にて入試問題研究実施について説明する。入試問題研究の意義や必要性について、全教員に共通した理解を求める。
- 6月 職員会議にて、進路指導部より具体的な実施要領（実施教科、期間、内容、様式等）の説明をする。
- 7月～8月 各教科で入試問題研究をする。
- 9月 研究結果を冊子にまとめ、HR教室に配布し、生徒が気軽に見られるようにする。

大学入試問題研究の概要

- 1 対象教科
国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語の6教科で行う。
- 2 対象大学
研究対象とする大学の選択は、各教科に任せるとするが、原則として3種類の国公立大学（難関大レベル、ブロック大レベル、地方大レベル）とする。また、教科によっては、該当する大学の入試科目にない場合もあるので、これに準ずる私立大学かセンター試験でもよいものとする。
難関大学（旧帝大クラス）の入試問題を研究対象にするのは、志望者が多いからというわけではない。優れた資質をもった生徒を励まし育てるべく、教師の側が準備しておくことが大切であると考えからである。教師が、東大、京大をめざす生徒の出現を期待するのではなく、東大、京大等の難関大学をめざす生徒を育成する姿勢が必要である。
- 3 研究期間
平常授業日には、授業の準備やその他の校務に追われ、じっくり研究する時間がとれないのが現状である。そのため、夏季休業期間中を利用して研究する。
- 4 内容
最新の入試問題を分析し、1種類につき、A4判用紙2～3枚にまとめる。内容については、各教科の判断に委ねる。
- 5 入試問題の入手
進路指導部が、各教科ごとに『全国大学入試問題正解』を購入し、先生方が入試問題にあたるようにしている。また、多くの入試問題が各予備校のホームページから閲覧できるので、学校内のイントラネットから各予備校のホームページに手軽にアクセスできるようにしている。（いわゆる教学社の『赤本』や、駿台文庫の『青本』は研究期間である8月中には間に合わない。）



【入試問題研究】

入試問題研究の成果

本校は入試問題研究を始めてまだ3年目であるので、入試問題研究の成果を明言するのは難しい。しかし、実際に参加した教員の感想と、過去2年間の入試結果の比較から考察してみる。

【実施教員の感想】

(数学科教諭の感想)

「数学科は、3大学(九州大学、岡山大学、愛媛大学)の前期日程の入試問題について、全員がそれぞれ2問ずつ担当して分析を行った。県連模試が廃止され、また校内実力模試も実施することがなくなり、問題作成が定期考査、課題考査にとどまっている現状において、本研究は教員の資質向上のために役立っていると思う。作成にあたっては、単に解答を示すのではなく、その問題を解く際に必要な発想、概念、知識(公式、解法のパターン等)を説明する。問題解決のポイントとなる箇所、生徒にとって発想しづらい点を指摘し、そこを生徒に分かりやすく説明できるような分析を試みる。当該の大学を志望する生徒への今後の学習アドバイ

スをする。(教科書、傍用問題集、学校で使用する参考書・問題集で関連する問題、過去問の類似問題を提示するなど) 生徒に配布されることを念頭に作成する。上記 ~ は、教師にとっては生徒に「わかる」説明をするための教員研修であり、また、それを提示される生徒にとっては学力向上のよい機会であると思われるので、今後も継続、蓄積、活用できればと思う。」

(英語科教諭の感想)

「今回私は岡山大学の大問1のみを研究することになった。しかし、実際には大問1のみを解けば分析ができるわけではなく、全体を解いてみてはじめてその中での大問1の役割が分かってくるし、傾向を知るためにはできる限り過去にもさかのぼって数年間分の問題も解かなければならない。また岡山大学の問題を分析するためには、他の大学の入試問題もある程度知っていなければ比較できない。広島大学や山口大学などの問題も解いてみることによって岡山大学の特徴を知ることになる。こうして大学入試研究は広がりを持ち、とてもよい勉強になった。大学ごとに問題量や難易度にどんな傾向があるかを知らなければ、英語という教科の立場からそれぞれの生徒に応じた受験指導をすることができない。今後もできるだけ多くの入試問題を解き続けていきたいと思っている。」

入試問題研究にかかる課題

1 入試問題の研究結果をいかに生かすか

入試問題研究の結果を有効利用することが重要である。まず、参加した教員が、各自の授業にいかに反映させることができるかということであり、授業改善やシラバスの改善につなげることが大切である。また、現状では、研究冊子を各HR教室に配備しているだけであるが、さらに効果を上げるためには、研究冊子をもとに大学別の特別講義を開くなどして、生徒の理解力を高めるよう工夫することも必要であろう。

2 経費

研究内容は、各教科の教員に委ねているが、研究内容を深化させるためには、自分の研究内容と他者の研究内容を比較検討することが必要になる。つまり、いわゆる『赤本』『青本』といった入試問題解説と比較したり、予備校が行っている研究会に参加したりするなどして、研鑽に励む必要がある。こうした書籍費、研究会への参加費などの費用がかかるので、大学入試研究を個人レベルとしてではなく、学校全体として取り組むためには、それ相応の予算措置が必要である。

他校の取組

【宇部高校】

「大学入試問題研究会」

1 概要

京大、阪大、神戸大について、予備校が主催する大学入試研究会（2次対策）に教員が参加し、入試問題の傾向について研修することで、受験生の教科指導、進路指導に生かす。

2 実施時期

平成16年12月24日（金）～25日（土）
平成17年 3月18日（金）～19日（土）

3 効果

特定の大学に絞った説明会に出席した教員の意識が変わったようだ。研修会に参加した教員の報告書をもとにして、京大、阪大、神戸大を受験する生徒にアドバイスできた。出題傾向も

把握でき、次年度以降の受験生にも役立てることができた。

4 課題及び今後の方策

数年継続してこそ成果があがると思われるので、早めに教員に実施計画を示し、教科のバランス、参加人数の調整をする必要がある。

「指導力アップセミナー」

1 概要

予備校の教育研究セミナーに参加することで、教員の教科指導力を図る。

2 実施期間

平成17年8月10日（水）

3 効果

講座は、「よい授業」から始まり、「新課程入試に向けての取組」、「センター試験・私立大学試験・国立大学個別試験の分析と対策」などと多岐にわたり、具体的な例をあげて論理的に解説が加えられ、大変勉強になったようだ。

4 課題及び今後の方策

大学入試問題の分析に基づいた授業改善にとって有効な研修と思われるので、今後とも多くの教員を参加させるとともに、これまでの授業方法を再点検する必要性を教員が自覚する必要がある。

【ポイント】

実施上の留意事項

全教員の共通理解

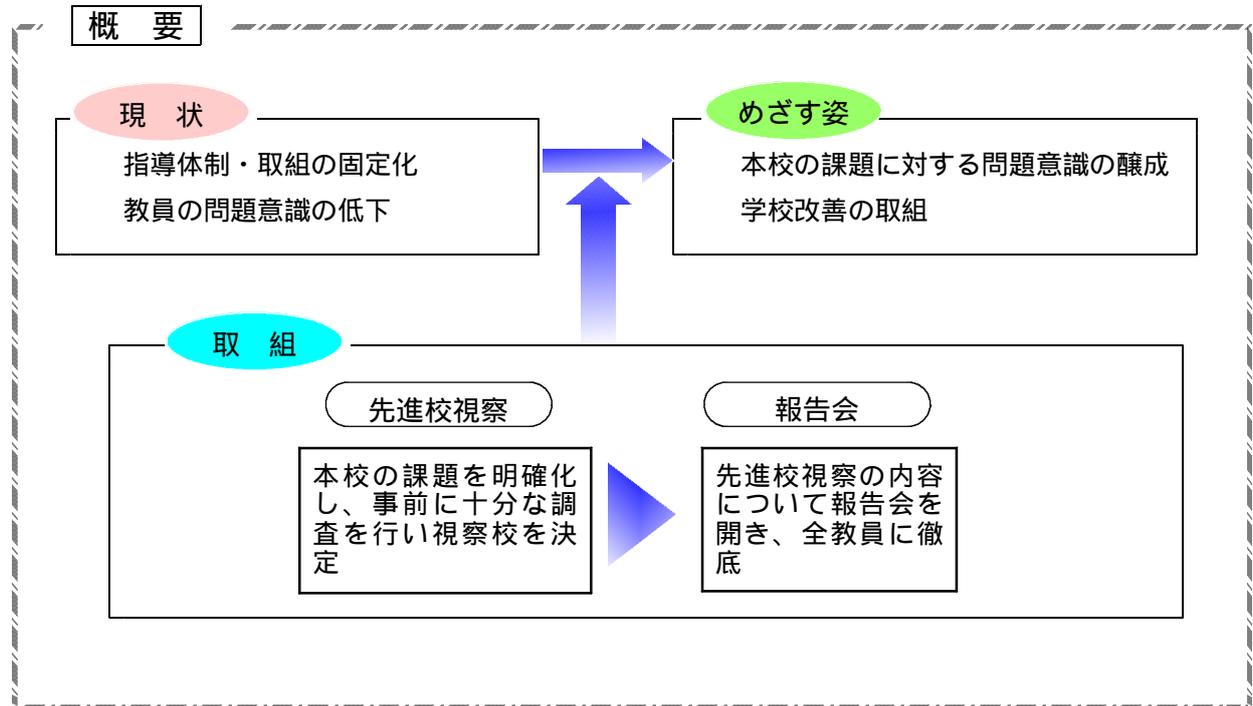
入試問題研究は、多忙な教員にとってさらなる負担を強いることになりかねないので、入試問題研究をする目的や必要性について、全教員の理解を得ることが必要である。

研究内容をいかに日頃の授業に反映させるか

入試問題研究を一過性のものにしなないためには、研究成果を日頃の授業に反映させることが大切である。すなわち、研究成果をもとに授業内容やシラバスの改善充実を考えることが重要である。入試問題研究がどのように反映されているか、検証する手だても考えていく必要がある。

指導体制の見直しと教員の意識向上をめざして

(「先進校視察」：宇部高校)



先進校視察にあたって

【現状の問題点】

進学に対するさまざまな取組が行われてきているものの、指導体制・取組が固定化しており、通常の指導の中ではなかなか本校の課題が見えてこないため、教員の問題意識が低下してしまいがちである。

【ねらい】

進学の成果を上げている他県の公立高等学校に教員を派遣し、指導体制の見直しと教員の意識向上をめざす。

【視察校の選定】

視察に意味をもたせるためには、本校が参考にできる特色を持った学校を視察しなければならない。そのため、本校と同規模で、近年進学実績を大きく伸ばしている公立高等学校で、理数科を有

し、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に取り組んでいる学校を中心に調査し、視察校を決定した。なお、選定に当たっては、学校経営方針に共通点があることも検討事項の一つとした。

【派遣教員の決定】

聴取事項を全校体制で学校改善に役立てていくためには、各教科及び学年、分掌の協働が必要である。そのため、各分掌の中核を担う教員を派遣することとした。

【視察期日の決定】

視察の時期は、夏季休業中及び学年末に設定した。これは、訪問に要する時間的余裕がとりやすいこと、また、聴取内容の検討、学校改善への還元等を考慮してのことである。

なお、視察校との交渉は教頭に窓口を一本化して行った。

先進校視察の実際

【平成17年度】

京都市立堀川高等学校

- 1 訪問日時
平成17年8月11日
- 2 学校規模
1学年6クラス 生徒数748人
- 3 概要
施設・設備が非常に充実しており、専門学科・SSHの指定校という特色を生かして、京都大学を中心とした外部講師との連携により質の高いさまざまな取組が行われていた。そのような環境の中で、生徒の進学に対する意識が高められているように感じた。また、50分7限授業や土曜日の活用など、きめ細かな指導体制がとられているのが印象的であった。



[京都市立堀川高等学校]

【平成18年度】

大阪府立北野高等学校

- 1 訪問日時
平成18年8月3日
- 2 学校規模
1学年 8クラス
- 3 概要
進学校としてのさまざまな工夫（火曜日1限目に一斉テストを実施、2週間1サイクルで時間割編成等）をしている。このたびの学校視察は事前のインターネットでの検索により、よりいっそう明確な目的をもって訪問す

ることができた。

富山県立高岡高等学校

- 1 訪問日時
平成19年3月15日
- 2 学校規模
普通科6クラス理数科1クラス
- 3 概要
女子が若干多い。普通科は理系と文系3クラスずつ。3学期制。校時50分7限(週3日)職員朝礼なし(連絡事項はホワイトボードに書いてあれば十分)、朝のSHRはなく5限目の前にSHR。遅刻は授業担当者が確認して板書したもので、担任が確認。昼休みは35分。
恵まれた学校の施設等を最大限活用し進路指導に役立てている。また、週一度のペースで教科会議を開き、進度の調整をしたり、学年会で指導方針の確認を行ったりするなど、連携を密にし、効果的な指導を行っている。



[富山県立高岡高等学校自習室]

視察後の取組

【報告会の実施】

派遣された教員は、聴取内容をレポートにまとめるとともに、報告会において全教員に復伝する。その際、プレゼンテーションソフトを用い、内容を報告するとともに、学校改善に当たって取り入れべき点等について考察する。

【活用に当たって】

学校経営方針等に共通点があるとはいえ、生徒も違い、様々な状況の相違もあるため、視察校の

取組をそのまま取り入れることは不可能であるし、危険であるともいえる。活用にあたっては、自校の教育課程等に照らし合わせ、無理のない形で取り入れていくことが大切である。

本校においては、SSHの取組に関する計画の立案等については、大いに参考にさせていただいた。

【訪問後の交流】

視察をきっかけに、訪問先の学校の校長を招き、講演会を実施することで、教員の意識の更なる高揚を図った。この講演会については、近隣校の教員も参加可能とし、内容の普及を図った。

他校の取組

各学校における先進校視察については、右の表のとおりである(平成17、18年度分)。

【分析及び評価】

視察先の選定方法等については、ほぼ共通である。事前に訪問校の内容の把握をしておけば、より充実した訪問になるという反省が共通している。

訪問先においては、総合的な学習の時間の活用、進学指導の在り方、課外授業のもち方、教員の資質向上のための方策等について参考にすべき内容を聞き取ってきている。

また、いずれの学校においても、訪問者が「感銘を受けた」「刺激を受けた」といった感想をもっており、意識の高揚という点においては大きな効果があったものと思われる。

平成17年度訪問校	平成18年度訪問校
群馬県立高崎高等学校	宮城県仙台第二高等学校
太田高等学校	仙台第三高等学校
東京都立八王子東高等学校	埼玉県立春日部高等学校
国立高等学校	愛知県立岡崎高等学校
西高等学校	一宮高等学校
戸山高等学校	滋賀県立彦根東高等学校
新宿高等学校	米原高等学校
隅田川高等学校	京都府立嵯峨野高等学校
石川県立羽咋高等学校	兵庫県立姫路東高等学校
福井県立羽水高等学校	姫路飾西高等学校
京都市立堀川高等学校	加古川北高等学校
大阪府立槻の木高等学校	岡山県立岡山朝日高等学校
奈良県立奈良高等学校	操山高等学校
兵庫県立小野高等学校	倉敷青陵高等学校
岡山県立岡山城東高等学校	広島県立呉三津田高等学校
岡山朝日高等学校	福山誠之館高等学校
芳泉高等学校	福岡県立明善高等学校
倉敷青陵高等学校	北筑高等学校
倉敷古城池高等学校	戸畑高等学校
広島県立尾道北高等学校	筑前高等学校
府中東高等学校	宗像高等学校
呉三津田高等学校	朝倉高等学校
呉宮原高等学校	筑前高等学校
福山誠之館高等学校	鹿児島県立鶴丸高等学校
愛媛県立川之江高等学校	甲南高等学校
松山中央高等学校	
松山南高等学校	
福岡県立小倉高等学校	
久留米高等学校	
伝習館高等学校	

【ポイント】

取組のまとめ

2年間先進校視察を行い、全教員にその内容を徹底したことにより、本校の問題点の指摘が行われたり、先進校での取組を参考に本校で新たに開始されたことも出てきている。また、一番の成果は、本校と先進校を比較してみることで教員の意識改革が浸透してきたことである。

実施上の留意事項

訪問先の決定

事前にそれぞれの学校における課題を洗い出し、その課題に適した訪問先をインターネットなどで十分に調査しておくことが必要である。

報告会の実施

訪問後は報告会を行い、教科や分掌でそれをもとに話し合いを行うことが有効である。

訪問校への依頼

訪問先によっては数校まとめて視察を受け入れている学校もあり、実施時期等はよく調整し、できるだけ早い時期に先方の学校への依頼を行っておくことが大切である。

【成果の概要】

生徒の進路意識の高揚、学習意欲の向上

キャリアセミナー、出張講義等、様々な進路ガイダンスにより、一人ひとりの進路意識は確実に高まっている。それに伴い、進路決定の時期が早まっており、その分、自己の目標を明確にした学習に向かう姿勢が早くから身に付いてきている。

進学実績の向上

県内の高等学校卒業生に対する大学等進学者の割合は、進学チャレンジ拠点校支援開始以来、年々上昇しており、大学進学という夢の実現に成果が上がっている。

教員の進路指導力の向上

校内の進路指導体制が整うとともに、各種研修により意識が高まり、進路指導のスキルが向上してきている。

【課題】

進路・進学指導のさらなる充実

大学等進学率は進学チャレンジ拠点校を中心に上昇してはいるが、全国の値も上昇しており、一人ひとりの夢の実現のために更なる取組の充実が求められる。

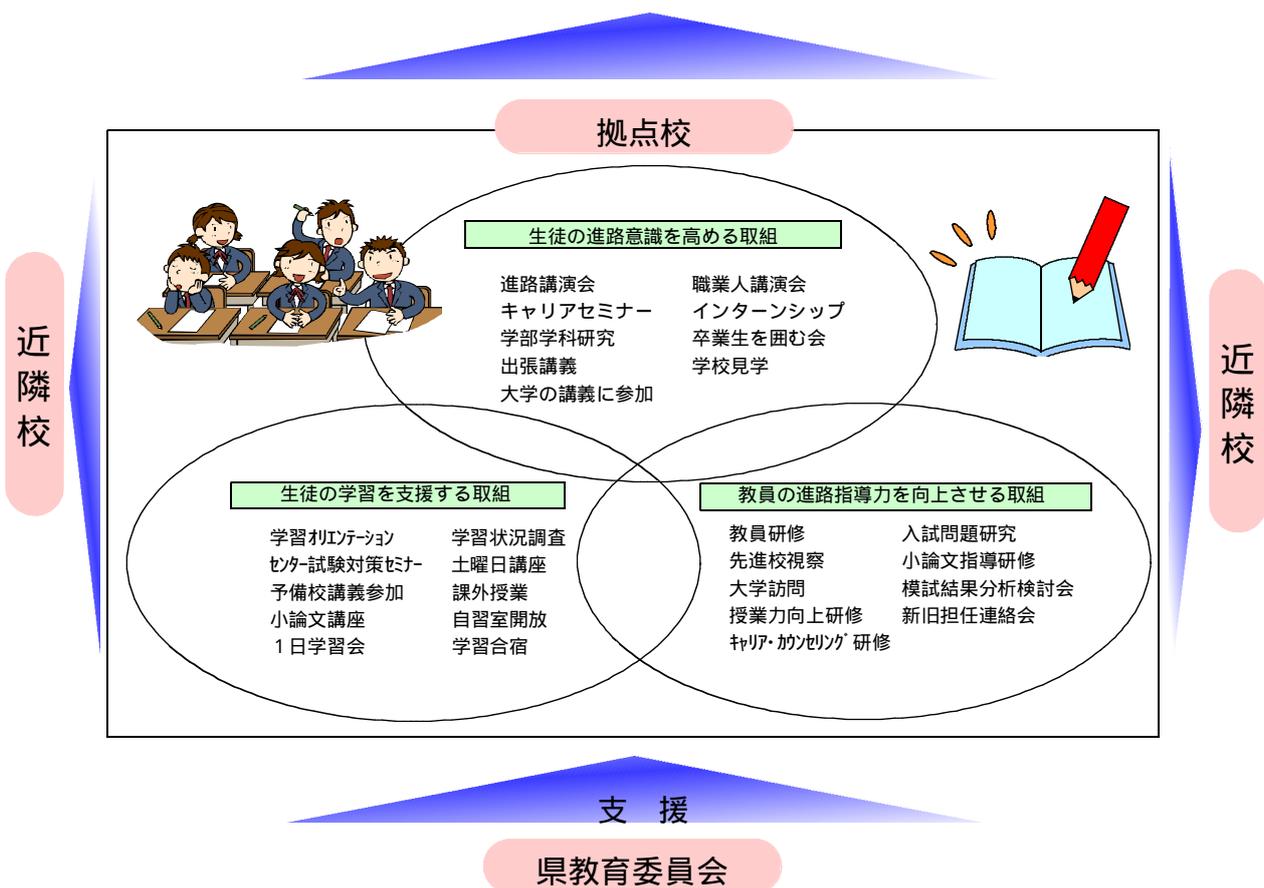
学校間(拠点校間・拠点校以外)の連携による取組の充実・成果の普及

拠点校間の連携を図る機会がなく、取組に関するアイデアや成果の共有ができなかった。また、取組の関連も不十分なところがあった。

進路意識と学習のつながり

事後指導に適切さを欠き、せっかくの取組が成果を上げられなかったものもある。学校間の連携による切磋琢磨の雰囲気を導入するなど、具体的な学習活動につながるガイダンスの在り方に、更なる研究の余地がある。

生徒一人ひとりの夢の実現



【取組内容まとめ】

	取組名	内容(例)	成果()と課題()	実施校
生徒の学習を支援する取組	学習オリエンテーション	新入生オリエンテーション期間中に、国語、数学、英語について学習方法に関する講義を実施する クラス単位で各教科担当が指導にあたる	予習体験などを通して、中学校との勉強方法の違いを体験 予習復習の重要性を認識	岩国、高森、柳井、徳山、新南陽、宇部、豊浦、下関西、小野田、下関南
	学習状況調査	1日の学習(特に自宅での学習)の時間と内容を1週間単位でまとめ、報告する	学力向上への指導内容の具体化 自宅学習の重要性の認識 マンネリ化への対策	岩国、柳井、徳山、山口、豊浦、下関西
	センター試験対策セミナー	大学入試センター試験を受験する予定の3年生を対象に、英語、国語、数学のセンター試験過去問題を教材とした特別授業を実施	センター試験に向けた学習への意識の喚起、学習方法の確立 効果的な指導法の理解 校内研修会等での研修内容の共有化	高森、光、徳山
	学習合宿	予習 講義(授業) 復習の学習パターンと1日10時間の学習体験 自学自習と教員のきめ細かな指導による不得意科目の克服法の確立と得意科目の伸長 他校と合同で実施 卒業生が参加する	学習に対する姿勢の確立 切磋琢磨による効果	高森、新南陽、山口、宇部、豊浦、萩
	1日学習会	設定した時間の学習体験	学習方法の確立 休業期間中の学習ベースの確立 切磋琢磨による効果	柳井、光、萩
	休日の自習室開放	図書室等に学習スペースを用意	お互いに刺激し合うことによる学習効果の高まり	岩国、高森、徳山、防府、豊浦、下関西、萩、下関南
	土曜日講座	英語、日本史の外部講師を招き、講義を実施 英語、地理歴史の教員と外部講師の協議や授業見学	学習の機会の提供 事前に該当学年の生徒の学力を分析し、強化すべき分野の検討が必要	高森、宇部、豊浦、下関西
	予備校での講義に聴講	現代文、英語、数学の授業を予備校生とともに聴講 自習室での自習を体験	学習への取組に対する意識の違いの体験 質の高い講義を難しすぎると感じた生徒に対する授業方法の工夫が必要	光
	小論文講座	国語教員(含校長)と3学年の教員が各1名、1回2時間程度の講義・演習を行う 外部講師を招いて小論文入試の実状について講義を実施	小論文に対する意識の深化 小論文作成方法の理解 課題の添削者、また生徒への返却・還元の時期についての検討が必要	岩国、光、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、下松、小野田

	取組名	内容(例)	成果()と課題()	実施校
生徒の進路意識を高め取る取組	進路講演会	具体的に受験生の事例を示しながら、効果的な学習方法、生活態度、授業の受け方等学校を中心とした受験体制の確立について講話 保護者対象の講演会の実施	受験生として自覚を喚起 学年単位での開催が理想 他の行事との兼ね合いもあるが、ねらいに即した開催時期の工夫が必要	岩国、高森、柳井、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、下松、小野田、下関南
	職業人講演会(企業見学)	職業に至るまでの道のり、職業に対する意識、職業観などについての講話 実際に企業を訪問し、職業について考える機会をもつ	人生における様々な選択に対する意識の喚起 真剣に将来を考える姿勢の確立 事前指導がより有機的に講演と結びつくような工夫が必要	高森、柳井、萩、小野田
	キャリアセミナー	各分野で活躍されている方の経験談や必要な資格等についての話を聞く 職業別のグループに分かれて座談会をもち、学んだことをレポートにまとめる 複数のグループへの参加を可能にした取組もある	職種に関する認識の深化 前向きな意識を持って参加できるような事前指導の工夫	岩国、高森、柳井、光、徳山、豊浦、下関西、萩、下松
	学部学科研究	将来就きたい職業から考えた進学すべき学部・学科について調べる 現役大学生から話を聞き、レポートをまとめる	自分の適性への理解 主体的な進路選択への意識喚起 事後の学習意欲の向上 実施時期の検討が必要	高森、柳井、光
	卒業生に聞く	卒業生の進学についての成功・失敗の体験談や、大学の雰囲気や学部・学科における研究内容等を聞く 学校生活・学習計画を見直す機会としたり、進路選択の参考にしたりする	大学での学問、生活の様子の理解 内容、表現に関して卒業生との打合せを十分にすることが必要	高森、柳井、徳山、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、下関南
	出張講義	大学の教官による講義を受け、大学の学問への理解を深めるとともに、自己の適性について考える	学問観が育つ 知的好奇心や学問研究への意欲向上 日常の学習への意欲の喚起 講師に、高校の学習とのつながりを踏まえた内容となるよう事前打合せが必要	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、宇部、豊浦、萩、下松、小野田、下関南
	学校見学	オープンキャンパスに参加する 数コース設定した中から、希望する学校の訪問をする 修学旅行の研修に組み入れ、事前の交渉等も生徒が行う	目標とする大学・学部に対する意識の高揚 主体的参加を促す事前準備が必要	岩国、高森、柳井、光、徳山、山口、下関西、萩、小野田
	進路通信の発行	進路情報を定期的に発行・発信し、生徒の進路意識の高揚、家庭との連携強化、生徒への学習・進路研究の支援を進める	学習や進路に対する意識の喚起 生徒・保護者との連携を深めるための内容の充実	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、下松、小野田、下関南
	大学の講義に参加	希望生徒を募り、夏季休業中に大学において実施される集中講義を受講する	大学の学問との接触 進学への意識の喚起 大学との連携に係る十分な協議が必要	下関南

	取組名	内容(例)	成果()と課題()	実施校
教 員 の 進 路 指 導 力 を 高 め る 取 組	教員研修	予備校の講師を招いて進学に関する情報の共有 専門家を招いてのコーチング研修	教員の意識の向上 課題解決のためにふさわしい講師の選定が必要	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、山口、豊浦、下関西、小野田
	キャリア・カウンセリング研修	専門家を本校に招き、本校の教員及び県内の高校教員を対象に進路希望実現のための講義と演習を実施	効果的なカウンセリングの在り方についての認識の深化 教員のキャリア・カウンセリング技術の向上 講義及び演習内容についての詳細な打合せが必要	高森
	模試結果分析検討会	学年単位で実施 科目担当者、年次担当者間の連携を密にし、生徒の学力の状況について共通理解を図る	様々な切り口で議論が展開 面談等における指導内容の具体化 より多くの教員の参加	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、下松、小野田、下関南
	入試問題研究	国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語の各教科において、国公立大学やセンター試験の問題を分析し、まとめる 複数年または単年の問題分析、傾向と対策や指導方法等について研究する	教科指導の在り方について、教員間での情報共有 研究成果の生徒への還元	岩国、高森、宇部
	小論文指導研修	外部講師を招き、具体的なアドバイスや添削の仕方などの指導を受ける	小論文指導の基本の理解 内容を文章として表現することへの理解が必要	高森、光、徳山、新南陽、防府、宇部、豊浦、萩、下松、小野田
	先進校視察(報告会)	進路指導において進学実績のある学校に教員を派遣 全体への内容報告	他校の優れた取組を知ることによる意識の向上 自校の取組への理解の深化 取り入れられる内容についての精査が必要	岩国、高森、柳井、光、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、小野田
	授業力向上研修	大手予備校主催の教員対象セミナーに教員が参加 各教科会で成果を報告し、指導に反映させる	高い専門性のある授業の体験 研修の成果が他の教員と共有されることが必要	岩国、高森、柳井、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、下松、小野田、下関南
	説明会への参加	センター試験に係る志望動向の説明や各大学の入試説明会等に参加 内容を生徒に還元	最新の情報を収集 面談等を通じた指導の充実	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、下松、小野田、下関南
	新旧担任連絡会	旧3年各担任によるクラスの学習状況・志望状況・進路状況等の分析 成果や課題を新3年に継承	具体的かつ綿密な進路状況分析 新3年担当にも具体的な資料を提供することができた。	岩国、高森、柳井、光、徳山、新南陽、防府、山口、宇部、豊浦、下関西、萩、下松、小野田、下関南



作成協力者

進学サポート研究支援チーム

【委員】

白井 宏明(岩国高等学校教諭)

河村 正夫(高森高等学校教諭)

白石 信之(柳井高等学校教諭)

宮本 真雄(光高等学校教諭)

中住 幸治(徳山高等学校教諭)

村岡 秀明(新南陽高等学校教諭)

田中 弘一(防府高等学校教諭)

長谷部秀俊(山口高等学校教諭)

兼重 勇(宇部高等学校教諭)

伊藤 隆昌(豊浦高等学校教諭)

天尾 昇一(下関西高等学校教諭)

杉山 雅紀(萩高等学校教諭)

小林 敏明(下松高等学校教諭)

藤井 妙子(小野田高等学校教諭)

村岡 俊樹(下関南高等学校教諭)

【アドバイザー】

茶谷 宏康(株式会社ベネッセコーポレーション)

(所属・役職等は平成20年3月末現在)

夢の実現のために

- 進学指導実践ガイドブック -

平成20年3月

山口県教育委員会